HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	統一教会の研究 (一) 入信・回心・脱会
Author(s)	櫻井, 義秀
Citation	北海道大学文学研究科紀要, 126, 105(右)-234(右)
Issue Date	2008-11-28
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/34984
Type	bulletin (article)
File Information	SAKURAI.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

統一教会の研究（一）入信・回心・脱会

櫻井義秀

一　研究の方法

[信仰の物語]

信仰という生きられた経験を聞き取る際に、信仰生活を継続しているものと信仰を捨て別の生き方を選び直したものとでは、同じ経験をしていたとしても信仰そのものへの評価はかなり異なる。しかし、どちらがより真実に近い物語かという判断はできない。

一人の人間が青年期を回顧的に物語る場合を想定してみると、青年期まっただ中のものが現在を語る語りと、中年期のものが一昔前を反省的に振り返る語り方、成熟期・老年期のものが青年期を懐旧する語り方では、経験を相対化する度合いや人生への解釈の枠組みも変わってくる。まして、統一教会という特異な教団で青年期を過ごした人達の

眼差しは、信仰生活にリアリティを感じているものと、そこを突き抜けたところに意味を見いだしたもの、統一教会への懐疑や信仰生活への悔恨を通過したものが同じわけはない。また、統一教会の経験といっても、教団における地位や役割、活動の経歴によっても一つの組織の見え方は様々であろう。

もちろん、複数の語りを比較検討すれば、語る時点や語る状況にかかわらず、物語の構図が話者の社会関係に規定されていることは容易に分かる。現役の信者は教団の教義や実践的信仰に信仰生活の意義を見いだし、同信の仲間により信仰を高め合っている（芳賀・菊池、二〇〇六）。脱会した元信者は、家族やカウンセラーとの話し合い、マスメディア等の情報から統一教会の否定的側面を常に意識するであろう。物語は聞く人達に応じて語られるものである（秋庭・川端、二〇〇四）。

現役信者であっても脱会者であっても、誰か特定の統一教会関係者に話を聞けば信仰生活の実態が明らかになると考えるのはナイーブな考えであろう。様々な立場を経験した複数の人達から多面的・多層的な宗教経験を聞き取ることで、ようやく統一教会信者が経験した信仰に迫ることができる（櫻井、二〇〇五）。

［脱会者の類型］

まず、日本の統一教会信者の信仰生活を知る上で、統一教会を脱会した信者を調査対象にする利点と問題点についてまとめておきたい。

脱会者といった場合に、①自発的脱会者と②強制的脱会者の類型がある。前者は、さらに①―1自然脱会者と、①―2脱会カウンセリングを受けた脱会者に分けられる。自然脱会者というのは、入信初期において教団に疑問を持っ

た離脱者であり、統一教会では後に述べるセミナー受講生の大半がこれに該当しよう。正式な教会員となった後、教団についていけなくなって自ら教団を去ったものも含まれるが、その数はそれほど多くはない。

強制的脱会者というのは、②―1教団により強制的に辞めさせられたものと、②―1ディプログラミング等外部からの介入行為により強制的に脱会させられたものがいる。教団は組織の方針に従わないものを除名するが、教団幹部で分派したもの、傘下企業で独立したもの等が該当する。ディプログラミングとは、信者に有無を言わせずに閉所に隔離して脱会を説得する行為であるが、初期の統一教会脱会者は洗脳を受けていたとみなされたので、このような形態で脱会するものが少なくなかった。

本調査の主たる対象者は、①―2に該当する元信者の人達である。①―1の人達に出会うのはそう簡単ではない。「霊感商法で悪名高い統一教会の元信者です。自分で辞めたものです。」このように公言する人達がいるとは思えない。従って、統一教会に関わるホームページやブログを開設して、そのなかで自然脱会であることを公表している方にアクセスするのが最も簡便なやり方である。既にコンテンツの中に自身の簡単な経歴や統一教会に対する思いが詳細に書かれていることが多いので、そのままテキストデータとして参考にさせてもらうことが可能である。或いは、統一教会の周辺を調査していけば、何らかの機会にこのような元信者の方と知り合う機会を得られこともあるが、それがいつになるか分からない。現実的な調査対象者の求め方ではないであろう。しかも、自然脱会の場合、統一教会への思いは両義的であることが多く、再び統一教会へ戻る元信者もいるので、統一教会に対して批判的な立場から調査を行う筆者とは利害関係において合致しないと思われる。本調査では一名の自然脱会をした人に聞き取りを行ったが、この人は脱会後にカウンセリングを求めてきた人であった。

強制的脱会者②―1の類型に入る人物は少ない。そうした人物の思想と活動については資料を蓄積した上で機会を改めて論じることにしたい。②―2に関わる人達であるが、隔離された体験において精神的に傷つき、その後ひっそりと生活をされている方々も多いので、実際にアクセスすることは容易ではない。むしろ、ブログ等で統一教会の経験を語るこうした人達の語りを参照する程度に留めた方がよいと思われる。

［裁判資料をテキストにする］

統一教会の公式的な教義や文鮮明の教説、公表される教団組織を知るためにわざわざ教団の広報部に尋ねる必要はない。統一教会には光言社という出版社があり、各種教団刊行物を多数発刊しており、非信者も購入し閲覧することが可能である。また公式ホームページで教団の広報的な情報も随時更新されている。公式的見解に関しては、社会に開かれた教団であり、摂理や統一教会の諸分派とは大いに異なる。しかし、宗教法人としての統一教会や関連団体ではない信徒の任意団体や政治・経済活動の組織については、殆ど情報が公開されていない。法人本部に聞いても、統一教会を訴えた元信者の裁判同様に、任意な団体や活動に関して関知するところではないという回答が帰ってくる。

社会問題化している教団というものは正面から正攻法で調査できない場合が多い。公式的な社会調査の手法や調査倫理に基づいて教団本部の広報を通して調査依頼し、被調査者に配慮して、調査許可されたことだけを調査し、公開可能とされたものだけを調査結果として公刊するだけでは、私が考えるところの調査にならない。そこで、脱会者に話を聞くわけである（櫻井、二〇〇六）。

脱会者に出会う場は二つある。一つは元信者が統一教会相手に提訴した損害賠償請求の裁判であり、もう一つは脱

会信者を支援する組織に関わり、調査協力を仰ぐやり方である。筆者は双方で脱会者に話を聞いた。公判の傍聴は誰でも可能であるし、判例時報等に判決文が記載される。筆者は一九九七年頃から霊感商法被害対策弁護士連絡会を支援する会員になり、原告の陳述書・裁判の準備書面・判決文を閲覧させてもらい、そこから信者の詳細な経歴を知ることができた。テキストとしての裁判資料は、入信の経緯、金銭の移動、教団内の人間関係が言動含めて詳細に記述されている。事実認定を被告側と争うわけであるから、記録性が曖昧な出来事は採用されない。回顧的な記憶も元信者が所持するメモや記録から裏を取れるものだけを裁判資料として用いている。まさに証拠である。

しかし、裁判資料に偏向がないわけではない。一つは、訴訟の準備書面（陳述書含む）にしても判決文にしても、原告が統一教会から違法に勧誘されて信者となり、畏怖困惑させられるなかで物品購入・献金を迫られ、時間と労力を搾取されたという損害賠償請求の構成になっているので、この構成に直接必要のない資料は省かれている。信仰の内容も統一教会により欺罔を受けたという点に焦点が当てられるために、被害とは直接関係のない信仰生活は記載する必要がない。このような資料の特徴があるために、筆者は裁判の原告となった元信者にも可能な限り信仰生活に関わることを尋ねている。

もう一つの問題は、裁判の原告となった人がどの程度統一教会信者を代表しているものかが分からないということである。資料としてはこの上ないほど詳細なテキストを得ても、全体像が分かっていなければ、当該資料がどのような部分をなしているのかが分からない。ジグゾーパズルは全体の枠が決まっているから、どれほど細かな部分的パズルであっても組み合わせが可能なのである。社会調査上の問題がここにある。

筆者はこの問題を根本的に解消することはできないと考えるが、テキストの信頼性を増すために、可能な限り、裁

判の原告となった元信者の相対的な位置を知ろうと努めた。同じ違法伝道や金銭的被害を受けた人のなかで、裁判を起こす人と起こさない人にどのような差があるのであろうか。統一教会における信者としての生活経験や個人的な志向性に差異があるのであれば、裁判を起こした元信者のデータははずれ値の可能性が高い。

結論から言えば、金銭的被害が甚大であり、統一教会を許せないと思う人は提訴する蓋然性が高い。しかしながら、統一教会相手の裁判は長期化し、裁判継続に係る労力は並大抵のものではないから二の足を踏む人が多いことも事実である。しかも、裁判は誰もが傍聴できる。原告となれば、統一教会元信者であることを世間に公表することになる。社会復帰後、一市民として静かな生活を送りたい、他の人には知られたくないという人はそのままにすることもあろう。統一教会元信者が統一教会による勧誘行為の違法性を争った裁判において勝訴判決を勝ち取ったのは、一九八七年の提訴後、二〇〇一年になってからである(櫻井、二〇〇四)。こうした状況で提訴に踏み切るのは相当な勇気と根気、経済的な余裕も必要であった。筆者が裁判資料から得たデータはこういう元信者達の記録である。その意味では、脱会後の元信者達がサイレント・マジョリティであるとすれば、声をあげた一部の人達の記録という限定がつく。

しかし、裁判を起こさなかった元信者の人達とも関わるようになり、彼等の経歴や信仰生活の物語を聞き取っていくうちに、裁判の原告となった元信者達のそれとほとんど変わらないことが分かってきた。さらに言えば、裁判で被告側証人として弁論に立つ現役信者の入信経緯や活動も、脱会した信者達の証言内容とパターンにおいて変わるところはない。両者において一点だけ決定的に異なるのは、信仰生活を是とするか非とするか、現時点における評価の部分だけである。いつ、どこで、何を行ったかという事実的事柄に関わることでは、現役の信者と脱会した信者との間に争いはない。その行為を宗教的行為として統一教会のディスコースにおいて意味づけるか、統一教会に対して批判

表1　聞き取り対象者

横浜地裁	2
札幌地裁	15
新潟地裁	19
東京地裁	13
奈良地裁	2
福岡地裁	2
聞き取り	13
計	66

備考　聞き取り者は裁判の原告ではない

的な社会的視線において意味づけるか、この点だけが異なる。かたや献金、かたや詐欺という主張になり、裁判で争うことになる。

元信者への聞き取り調査を進めているうちに分かったことは、脱会後の時間経過とともに統一教会への思いは怒りや絶望から少しずつ穏やかな気持ちに変わるにしても、何をしたかという事柄に関しては揺るぎがない、ということである。正体を隠した伝道を受けたこと、信者になった後に霊感商法に従事したこと、行為自体は変わらない。筆者が資料とするのは、このような強い資料性のある出来事である。但し、出来事に関わる記憶は評価の変化と共に変わっていく可能性が高い（櫻井、二〇〇八）。

二　統一教会信者の入信・回心・脱会のパターン

［どういう人が信者になるのか］

統一教会へ入る人達に特有の個人的・社会的特徴はあるのであろうか。欧米で統一教会信者のデータを大量に扱ったアイリーン・バーカーの研究や、マーク・ギャランターの研究においても精神的・心理的特性は認められなかった。一九六〇、七〇年代に欧米で統一教会信者達がカルト信者と見なされていたと

ころから、一般市民や平均的な学生より知的水準・学習能力・被暗示性などが高いのではないかという仮説を立てて調べてみたところ、どちらの調査でもそのような仮説は否定された。むしろ、学歴や出身階層も平均より高く、向学心も強い人達であることが示された。社会学者のバーカーは、統一教会信者として最終的に残る人達と途中で離脱する人達との唯一の差異が、「生きる意味や世界の目的といったものを模索していたが自分では見いだせなかった」と回答する人達が有意に多いという知見を出した。つまり、価値指向性の強い若者達が統一教会信者となっており、彼等は洗脳されたのではなく、自発的に統一教会信者として活動しているというのが知見であった（Barker, 1984）。精神医学者のギャランターは、統一教会信者の方が一般の学生よりも自分や社会に対する不安の度合いが高いという知見を出している（Galanter, 1979）。二人の知見は、カウンターカルチャー世代で新宗教もしくはカルトに入ってみたことがある人達の一般的な特徴とでもいうべきものである。

統一教会信者は、入信前に特別な性向を有していたり、特定の社会環境にあったりしたものではないが、回心して信仰生活を継続するようになると特有の思考パターンや行動様式を示すようになる。入信後、信者達がそれまでの自己と社会の認識や生活様式を一変させるというところにこそ統一教会信者の特徴がある。信者の性格に関していえば、教え込まれやすい人。社会的属性では、教団活動に全てを打ち込める環境の人が信者になっているということである。極端に貧しい人や豊かな人、時間的余裕が全くない人や余生を送っているだけの人、身体能力や学習能力に極めて秀でている人やハンディを負っている人が信者であることは稀である。社会学的にいえば、中間層が厚い社会ほど統一教会信者になりやすい。日本で統一教会が最も発展したというのは当然である。統一教会は青年や一般市民がここを選んで信者になったのではなく、統一教会が教団に欲しい人材を信者にしたのである。そして、統一教会の布教戦略

に応じやすい人達が信者となった。筆者が面接調査した人達、特に若者達の特徴をひと言でいうなら、育ちのよい素直な青年ということになる。

［対象者の基本的属性］

統一教会の布教形態は未婚者対応のものと既婚者対応のものに二分される。教義上の中核的儀礼が祝福（合同結婚式に参加）なので、原罪のない子を産める可能性がある未婚者と、それができない既婚者とでは信者としてのライフコースが異なる。もちろん、既婚者であっても、さらに夫が統一教会に反対していたとしても、信者の妻は合同結婚式に参加し、既成祝福というカテゴリーの儀礼を受けることができる。しかし、これは教団の資金調達が逼迫して、教説を多少転換しても信者からの献金（祝福献金）を増やしたいという背景から出てきたものとも解釈される。本筋は未婚者が純潔を守って祝福を受けることであり、統一教会関連団体が結婚前の性交渉を否定する純潔運動をアメリカ中心に展開していることからも明らかである。

本調査の対象者は、図1から分かるように女性が八割方（六六名中五二名）を占める。統一教会の信者は女性が三分の二程度と言われているが、さらに女性の比率が高いのは裁判の原告になった人達に女性が多かったことがあげられる。特に、違法伝道による被害を訴えた原告達は、脱会後しばらくして落ち着いてから提訴するのであるが、男性の場合、職務上差し支えが生じる可能性が高く、主婦になった女性の方がやりやすいということもある。

この裁判の原告が多いことの影響は、信者のカテゴリーにも影響する。青年信者が六六名中、五九名で九割方を占める。壮婦と呼ばれる既婚者も統一教会信者には多いのだが、違法伝道訴訟においては殆ど原告になっていない。

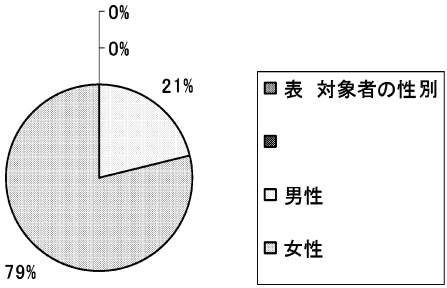


図１　対象者の性別

表２　対象者の家族構成

家族			
青年	核家族	単親	9.0%
		両親	76.0%
	三世代		3.0%
壮婦		夫子供	6.0%
		離死別	4.5%
		不明	1.5%
		計	100%

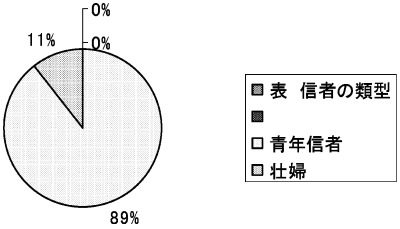


図２　信者の類型

信者の家族構成をみると、ほぼ標準的な家族であることが分かる。青年は両親健在であり、壮婦は配偶者がいる。特に家族的問題を抱えていたとか、不幸な生い立ちであったという人は少ないのである。

青年信者の教育歴に関してみると、専門学校・短期大学を含む高等教育を受けたものは半数を超え、同世代の高等教

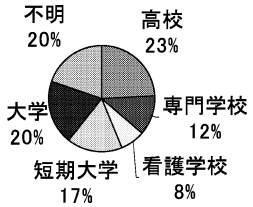


図 3　元信者の学歴

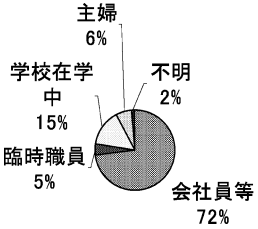


図 4　対象者の職歴

育修了者より若干高い程度である。もちろん、女性が多いために、専門学校・看護学校・短期大学だけで二四名（三六パーセント）もいる。

対象者は学校卒業後勤めに出てから布教されたものが多い。学校在学中のもの含め未婚者であった。主婦は壮婦である。

以上が、調査の対象となった元信者の社会的属性である。

［入信の経緯と信者のライフコース］

対象者の中で自ら統一教会の門を叩いたものはいない。彼等は統一教会の伝道者と出会って初めて関わりを持ったのであるが、最初の時点で統一教会の布教活動を受けていることを認識したものは皆無である。青年・学生であれば、青年意識調査と称するアンケート調査を路上や訪問で受けて、「近くに人生や社会について勉強する場所がありますので来てみませんか」と勧誘され、壮婦であれば姓名判断等の運勢鑑定を訪問で受けたことがきっかけである。個々人の入信経緯についてはほぼパターン化しているので、本節ではパターンの分析だけを行い、個別事例のバリエーションに関しては、巻末の資料（元信者のデータ一覧表）を参照していただきたい。

ここで、青年信者と中高年信者のパターン分析に必要な最低限のイベントを再度確認していこう。大学のキャンパスにおいて原理研究会に勧誘された学生の場合、青年信者と異

①路上で話しかけられたり、戸別訪問で青年意識調査といったアンケートを取られたりして、姓名・住所・連絡先を教えたものに次回の面会約束を取り付けられる。本データでは大半が意識調査であるが、近年、勧誘手法は後に述べる壮婦の姓名判断に変わってきている。どのやり方を取ろうと、次のステップへの誘い込みであることに変わりはない。

②初級コースを地区のビデオセンターで受講することを勧められる。１ヶ月程度。

③ツーデーズセミナー（一泊二日の研修）受講を進められ、統一原理を学ぶ。

④中級コースを同じビデオセンターにて受講することを勧められる。

⑤上級ツーデーズセミナーの受講を勧められる。

⑥フォーデーズセミナー（三泊四日の研修）受講を勧められ、統一教会に献身を迫られる。

⑦新生トレーニング（一ヶ月近く通う研修）を勧められ、統一教会の活動に触れ始める。

⑧実践トレーニング（一ヶ月近く住み込んで研修）を勧められ、親元や自分のアパートから出て統一教会員が共同で生活するホームと呼ばれる拠点に移り、献身の準備（離職）を始める。

⑨本部教会員となり、教団から指令された任地に向かう。伝道機動隊（路上、訪問伝道の布教活動に従事）、マイクロ部隊（物売りの地方巡回）他により、教団の組織活動を通じた信仰の強化を図る。

⑩チーム内の役割（新人訓練担当や経済活動従事）や部署の仕事を様々に経験しながら、祝福（合同結婚式）参加の準備を行う。統一教会の教会員に三名を導くことと、経済部門において実績を上げることが祝福の条件とされていた時期がある。

⑪祝福に参加し、家庭生活を開始するまでさらに統一教会の活動を継続する。その期間は結婚相手の国籍や状況に応じて変わるが、かつては三年半であった。

⑫結婚生活を開始した信者夫婦（祝福家庭という）は、統一教会の事業に継続的に関わるか（幹部の専従者）、出身地や親元で新しい仕事を探し（還故郷）、普通の市民生活に戻る。

なる点は大学卒業まで統一教会の事業専従者になることが引き延ばされている点と、経済活動（訪問形式や各種展示会の物販）に従事させられることが少ないという点である。

青年信者のライフコース・パターンは下記の通りである。

青年信者において①から⑫まで全て経験した元信者は、韓国で結婚生活をした後に脱会した二名のみである。櫻井が調査した日本在住の元信者のうちで祝福を受けたものは六六名中二四名（三六パーセント）であるが、女性が二三名であり、二二名が韓国の男性と祝福を受け、一名が既成祝福である。一名の男性のみ日本の女性と祝福を受けたが、実際の結婚生活をする前に脱会した。⑫の後、信仰を継続するか、脱会するか、或いは脱会しないまでも統一教会からつかず離れずの生活に移行するかは、信者をとりまく状況次第である。

次は、壮婦（既婚の信者に対する統一教会の呼称）の典型的なパターンである。なお、自分の家族が統一教会信者である場合は、様々な展示即売会に直接連れて行かれることになる。

壮婦の場合は、青年信者と異なり、祝福後新しい家庭を出発することが実際にないので、信者としてのライフコースに大きな転換はない。統一教会の献身者（食口）という身分で専従職員の業務を担うこともなければ、祝福家庭という評価（原罪のない子を産める特権等）を得ることもなく、従来通りの奉仕する信仰生活を生涯求められることになる。あがりのない双六のようなライフコースである。しかも、世俗の交わり（統一教会信者以外の異性と性関係を持ったこと）をした罪深い身であるにもかかわらず文鮮明の恩寵によって祝福に加わることが許された幸いを得ているというのであるから、青年信者よりいっそう献身と奉仕が求められる。

①手相・姓名判断、家系図鑑定といった訪問を受ける。
②本格的な鑑定士、よい先生が来ているといわれ、地区の壮婦対象の集会所か統一教会系企業商品の展示会場に誘われる。
③商品購入は、吉相の印鑑から高麗人参茶、高麗大理石壺、多宝塔、弥勒像といった宗教関連の物品購入に進むケースと、宝飾品・絵画等のケースがある。前者の購入を勧める場合は、集会所や霊場と呼ばれる場所で先生から鑑定を受け、先祖の因縁を解く、開運といった説明を受ける。後者の場合も、先祖や家系が欲しがっているといった説明がなされることが多い。
④商品購入後、統一教会信徒が運営するビデオセンターにおいて、家系、因縁、統一原理をかみ砕いた内容を学習する。
⑤スリーデイズセミナーへの参加を勧められる。セミナー修了までにここが統一教会であることが明かされる。
⑥数ヶ月間の伝道実践のトレーニングを受ける。姓名判断の訪問販売実習等である。
⑦教育隊と称する新規壮婦信者を教育する部門や、訪問販売等の経済部門に配属される。
⑧韓国の清平特別祈祷修練会に複数回参加し、霊的信仰を高め、既成祝福の準備をする。
⑨祝福を受け、さらに統一教会の伝道、経済部門の業務に従事する。

［イベントの時間的経緯］

統一教会信者において信仰に関わる主要な出来事は、伝道を受けてから入信し、回心へ至るまでの過程と、信仰を強化して祝福を受けるまでの過程、そして、祝福後の信仰生活と三分できる。それぞれの期間ごとに特記すべきイベントは次のようなものである。

①入信プロセス　被勧誘、セミナー受講に関わるイベント。
②回心プロセス　信仰を実体化するための実践トレーニングと特別な研修会。
③祝福による新家族形成プロセス　信仰家族の形成と次世代育成という統一教会固有のイベント。

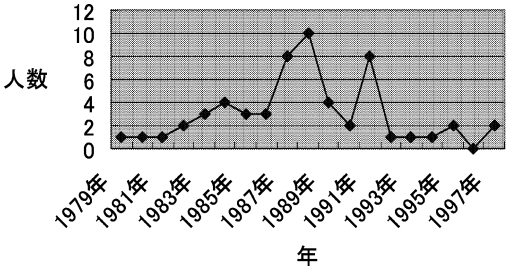


図5　初めて伝道された年

本節では各プロセスに要する時間とその特徴から統一教会における入信・回心・脱会の性格を概括的にまとめ、次の節においてプロセスごとの主要なイベントを典型として説明していくことにしたい。

裁判資料にある元信者は伝道を受けた年が一九八〇年代、筆者の聞き取り調査を受けた元信者は一九九〇年代が主である。一九八八年、八九年、九二年に伝道され、入信した元信者が多い。元信者も一九八〇年代末と九〇年代初頭が統一教会の教勢としてはピークであったと語っている。ツーデーズやフォーデーズを行う研修施設が新しい人達で溢れかえっていたそうである。

一九八九年にベルリンの壁が破られ、一九九一年にソビエト連邦がロシア共産党の解体と共に幕を閉じた。勝共運動を政治的旗印に掲げていた統一教会にとっては、摂理的大躍進の時期であり、統一教会信者は地上天国の実現も近いと考えていた。伝道にも力が入ったものと思われる。統一教会は一九九二年の三万組の国際合同結婚式を挙行し、教団の力を世に示したのであるが、日本のマスメディアは山崎浩子（元五輪新体操選手）や桜田淳子（元アイドル歌手）の参加、及びオリンピックスタジアムでの式典の模様を好奇の視線で大々的に報道した。統一教会という存在は広く知られたが、一般市民は警戒した。山崎浩子が一九九三年に脱会し、記者会見で「私はマインド・コントロールされた」と語るに至って、統一教会イコールマインド・コントロー

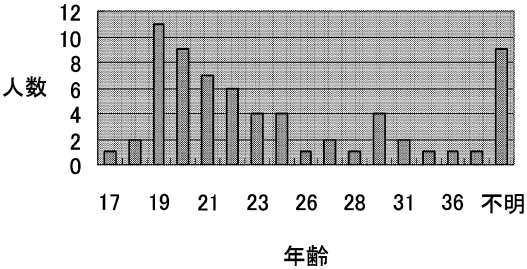


図6　入信時の年齢

ルという図式が広く定着する。スティーブン・ハッサン著、浅見定雄訳の『マインド・コントロールの恐怖』が出版されたのも同年である（ハッサン、一九九三）。

入信時の年齢は高校生からが一名いるほかは、一九歳二〇歳は大学の初年度か短期大学の学生時代であり、その後は社会人になった後に二〇代が多い。二〇代後半から三〇代には子育て時期の主婦が壮婦として入信した事例がある。男性は二〇代前後で入信しなければその後あまり入信する機会はない。社会人になると仕事で多忙になるからである。女性の場合は、就職後に結婚と仕事どちらを優先するかといった悩みや子育てに関わる悩みが生じる。どちらも自分の意志というよりも状況に左右されるところがあるため、統一教会の占いに勧誘される可能性が男性よりも強い。訪問して姓名判断する勧誘手法では主婦しか対応しない。

一般に信仰には加齢効果が認められ、若い人よりは中高年期に信仰を持ち始めるのが一般的である。肉体的には頑健で自力と将来を信じられる若い世代は、願うよりは実践する。近代以降、理想主義的な若者は宗教運動よりはイデオロギー運動に身を投じる。貧病争で真剣に悩みを抱えるのは親となってからである。自分の身一つであれば神頼みをしない。日本の既成宗教では高齢者が主要な信徒であり、新宗教においても主力は中高年の主婦層である。こうしてみると統一教会の信仰というのは若い世代特有のものであることが分かる。壮婦の事例は統一教会系列会社商品の購入者が信者

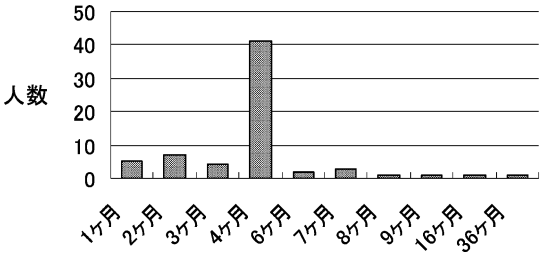


図 7　伝道から入信までの期間

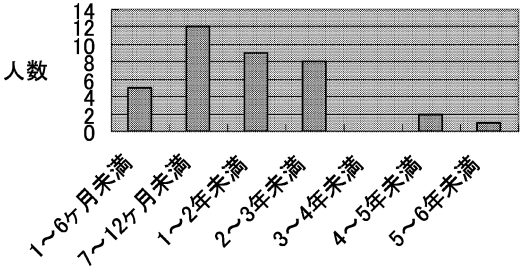


図 8　入信から献身までの期間

になるという副次的なコースであり、統一教会はあくまでも祝福に連なる若い人達を求めているのである。しかし、これは近年変化しつつある。伝道と資金調達を一挙に行うために中高年主婦を対象とした姓名判断・家系図鑑定の伝道方法が確立したことが大きい。

勧誘されてから統一教会の信者となることを決意するまでの期間は人様々であるが、五ヶ月間が突出して多い。これは統一教会が教団名と活動目的を被勧誘者に初めて証し、統一教会信者としての将来献身することを誓わせるフォーデーズまでのプログラムが共通していることを物語っている。学生の場合は卒業までに時間がかかることもあり、決意表明を短期間に迫られることはない。しかし、独身の社会人の場合は決意させることにプログラムが組まれている。

入信から献身を決意するまでの期間を見ると、これは数ヶ月から一年間、複数年まで散らばりがある。最も短期のものは社会人であり、フォーデーズのあと、ライフ・

①伝道機動隊に配属され、青年意識調査のアンケートを該当で行い、被勧誘者をビデオセンターにつなげる。
②飯田橋近辺において、有限会社永福堂（統一教会信者が経営する会社）の販売員として印鑑の訪問販売を行う。
③上高田において、営業部W課長として訪問販売業務を企画運営する。
④目白において、物品販売・展示会の説明者役（トーカーと呼ばれる）を行う。
⑤トーカー団（第７地区）において、物品購入者のクレーム封じのトーク活動を行う。
⑥全国トーカー団修練会参加後、山形・寒河江・米沢・東根・酒田・鶴岡でトーカー・巡回師として、各地域の販売業務に携わる。
⑦祝福のために渡韓し、祝福後家庭出発の前段階としてソウル市内の教会に所属し、世界日報販路拡大等の業務を行う。
⑧帰国して宮城教会に所属して統一教会の活動に従事するが、両親と話し合いの末、脱会する。

トレーニング、実践トレーニングと滞りなく進んだもので、最も早い人は伝道されて半年でホームに移り住む入教生活を始めている。本データでは献身する前に脱会した信者がいるので、総数は六六名になっていない。

献身した信者は統一教会本部からの人事を待つことになる。それまでに離職し、ホーム生活を送っているものが大半である。統一教会での仕事であるが、個別事例は資料の一覧表で見てもらうことにして、典型例のみ示しておく。

一人の女性が就いた主要な業務と地域のみ記載すれば上の通りである。

この女性は統一教会の経済活動にほぼ専従し、祝福後に脱会したことになる。本データでは自然脱会は一例のみであるから、信仰生活の活動を継続している途中でどのようにして脱会したのかが問題となろう。結論的に言えば、家族との話し合いによって統一教会の活動実態を知り、脱会したのである。それでは、元信者達は統一教

会に入信し、献身を誓うほどに信仰を強化し、実際に数年以上も統一教会の専従職員として働いていた期間、統一教会の何を見てきたのであろうか。いわゆる「霊感商法」と呼ばれる販売事業の裏面も垣間見てきたものも多いが、売上金の行方を知っているものは殆どいない。統一教会の事業に使用される、神のために役立っていると素朴に信じたものが大半であり、疑念をいただいたものでも疑念を抱く自身の不信仰を責めたのである。

要するに、統一教会の活動を局所的であれ総体的に見渡せるものは地区の教会長や事業部長を経験した古参信者の幹部のみであり、彼等とて部分的な知識しか持ち合わせていない。事業会計も一般報告も元信者達が参加できるような信徒総代会等においてやらない宗教団体なのである。従って、教団はもとより、信者も個人的に統一教会の活動を相対化する視点はなく、外部からの批判はサタンの攻撃という二世界的な思考の論理を用いて批判をシャットアウトしてきた。

このような状況で元信者達は信仰生活を統一教会の事業遂行者として送り、その間、家族が信者達の現在と将来を心配していたのである。子供の安否含めて一切の情報を得られない親も少なくなかった。たまたま子供が祝福に参加するべく渡韓のためパスポート申請が必要になり、戸籍抄本を求めに来たり、或いは両親の理解を得ようと帰省したりした折に、家族が徹底した話し合いの機会を元信者に求め、彼等は応じたのである。

元信者達が受けた脱会カウンセリングの中身及び、その方法に関わる議論は機会を改めて論じることにし、ここでは統一教会の信仰生活が突然断念されるという形で集結したことのみ確認しておきたい。

元信者の入信期間は半数が四年未満であり、ここまでが一年刻みで十数パーセットずつ、四年以上が一年刻みでほぼ数パーセントずつの割合になっている。入信後数年間は、それ以上の年月を統一教会で過ごしているものよりも脱

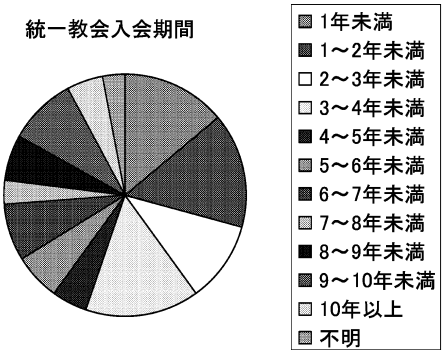


図 9　入信―脱会：信仰生活の期間

会しやすいということが言える。

バーカーのイギリス統一教会信者の研究では、伝道されて二年を経過して信者として残っているものは数パーセントであったという。この点はビデオセンターに連れてこられたもので献身者として残るものが五パーセントとする統一教会側の証言（郷路、二〇〇五、七三）にも合致する。しかし、そこからさらに脱会していくため、統一教会信者として十数年以上信仰を保つものは一、二パーセントではないかと思われる。こうした数値から、従来、宗教社会学では、バーカーをはじめとして統一教会によるマインド・コントロールと呼ばれるものの社会的影響力は抗いようがないものではないと結論づけてきた。それに対して、統一教会を批判する日本の弁護士達は、その一、二パーセントの人達が深く統一教会に囚われ、霊感商法等の違法活動に従事させられ、なお合同結婚式といった選択の余地のない結婚により著しく人権が侵害されている点を問題にした。確かに、最後の一、二パーセントの人達は統一教会の幹部になれば生活保障をはじめとする恩恵に与れるが、その数倍に達する一般信者は生涯尽くし続けるだけの信仰生活を送ることになる。この点をどう評価するかが、一、二パーセントの問題なのである。

元信者達が脱会後、欺されて統一教会の物品を購入させられた、献金を強要

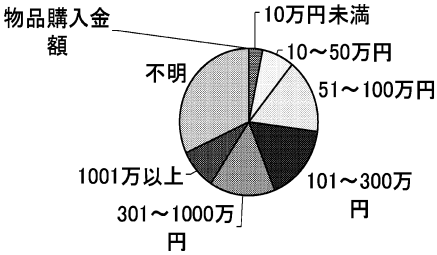


図 10　損害賠償請求訴訟の金額

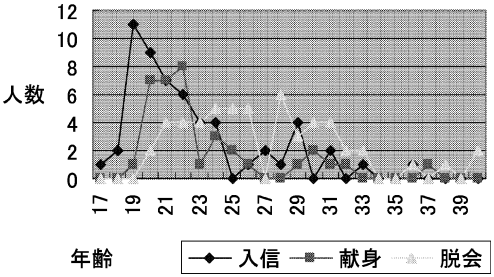


図 11　信仰生活の時間的経緯

させられたとして損害賠償請求の提訴を行っている。信仰があれば宗教行為であるし、それを失えば詐欺の被害者である。しかも、献身までした元信者達は無償の労働提供を長期間強要されたわけである。信仰生活が長ければ長いほど損害は大きくなる。

一定の時間経過のなかで入信・献身・脱会というパターンを示す元信者達の信仰生活を見ていくと次のような傾向が見て取れる。

統一教会の場合、路上や訪問伝道、友人の勧誘といった伝道を経ずに入信したものは一人もおらず、入信者は教団のセミナー、トレーニングを経て、五七・六パーセントが献身するに至った。しかも、伝道から入信へは平均五ヶ月、入信から献身へは平均一年七ヶ月しか要していない。短期間集中型の信者養成システムである。そして、信者は、伝道と経済活動に従事した後、祝福（合同結婚式）を受け、帰郷して専従生活から離れる（青年のみ）。

表 3　統一教会信者における信仰生活

伝道を契機に入信	入信者の 57.6%が献身（40 名）
伝道から入信へ	平均 5 ヶ月
入信から献身へ	平均 1 年 7 ヶ月
献身から脱会へ（献身者 40）	平均 4 年 3 ヶ月
入信から脱会へ（通教者 26）	平均 2 年 4 ヶ月

献身から脱会へは平均四年三ヶ月であり、通教者の場合、平均二年四ヶ月であった。信仰生活の期間は短期から長期まで様々となる。このように、統一教会信者の信仰生活は、教団の介入で始められ、家族の介入で終わるパターンとして理解できる。統一教会信者の信仰をめぐって、自発性と他者介在性の程度問題は実態に即して論じられるべきであり、洗脳、マインド・コントロールか、自発的信仰かといった単純な二分法では論議できない。

次の節では、統一教会特有の勧誘・教化の過程について詳しく説明することにしたい。他の新宗教とも明らかに異なる独特の入信・回心の過程が了解できるであろう。なお、本稿に関わる分析は、統一教会を批判的に紹介した書籍（浅見、一九八七。有田、一九九二。郷路、一九九三。スティーブン・ハッサン、一九九三。全国統一協会被害者家族の会、二〇〇五）に加えて、筆者が調査対象者から入手した資料（メモ、手紙、部内マニュアル本、講義録等）や、霊感商法対策弁護士連絡会から提供された裁判資料が含まれる。

三　統一教会特有の勧誘・教化

［正体を隠した勧誘］

宗教の布教において布教者が布教している姿を一般の人々から隠すことは通常あり得ない。洋の東西を問わず、聖職者にせよ信徒にせよ確信をもって堂々と信じることを述べ伝え

るものである。布教すること自体が宗教的徳を得る行為であるから、むしろ人目に付くところでやろうとするし、宗教行為や善行を顕示することを戒める教えすらある。例外的な状況として、非正統とされる宗教が迫害する権力者や支配的宗教の目を逃れるために、隠れて信心するということがある。隠れ念仏、隠れキリシタンの例である。

統一教会も例外ではなく、設立当初は韓国でも日本でも人目に付くように幟を立て大音声で教説を一般の人々に語っていた。路傍伝道は基本中の基本であった。韓国では今でも統一教会の布教行為は公開で行われている。日本でも一九六〇―七〇年代は、大学のキャンパスにおいて黒板を立てて原理講義を行う姿が頻繁に見られたし、唯物論の共産主義をサタン視して我こそが神の側にあるという教説は左翼学生との間で議論の応酬となった。当時の学生は彼らを原理の人達ということで認識したのである。なかにはそこまで主張する背景に何があるのだろうと原理研究会のセミナーに試しに入ってみる学生もけして少なくなかった。現在、六〇歳をこえる方々の統一教会に対する原体験がこれである。

しかし、本調査対象者はこのようにして入信した人は一人もいない。一九八〇年代から統一教会は伝道方針を転換したからである。再度整理し直すと次の三点になる。

①資金調達活動への社会的批判が強まり、統一教会の看板を上げて伝道しては新規参加者を得られない状況になった。そこで統一教会名を隠して勧誘を行う手法を編み出す必要性が生じた。宗教的迫害を受ける故に名を隠しているのではない。

②一九八二年、統一教会の教学部門においてビデオを用いた学習教材の開発が行われ、教義学習用ビデオにより導入

と教育をなす教育体制が確立したことが中和新聞で報じられている（霊感商法被害者救済担当弁護士連絡会、一九九一、一七一、二〇〇頁）。従来の個性的ではあるが、ばらつきもある地区ごとの教育を標準化しようというわけである。さらに進めばチャート式学習こそ理解の近道ということになる。これは同時代の教育においても教科書をそのまま読み、教師が解説を加えるものから様々なビデオ教材が作られ、チャート式参考書を教師が推薦しさえするという教育状況からすれば、自然な成り行きでもあった。

③資金調達活動として行った物品販売の購入者に対しても、継続的な教学学習をなすことで壮婦の信者とし、さらに物品販売の勧誘員として活用するという経済部門と教学部門の協働作業が進められた。

おそらくは、この三点がほぼ同時期に布教システム作りの課題となり、先に述べたような青年対象、壮婦対象のシステムが確立されたものと考えられる。付言すれば、一九八〇年代までに統一教会の基盤はほぼ整い、幹部候補生であった初期の原理研究会出身学生達も四〇代となっていた。彼等が必要とした信者は求道者としての信徒ではなく、むしろ、自分たちの指令に従い組織的課題を遂行する一般社員としての信者である。求道に時間をかける余裕がないほど摂理（神の計画）が切迫しているという危機意識を持ったのが初期の信者である。しかし、現在は摂理遂行のためにはみなが全てを理解する必要もなく、しっかりした指導体制、組織体制で分業を滞りなくやればよいという幹部と平信徒に分化する段階に統一教会が達していた。従って、教学的課題は信徒の求道的欲求を満たすことでもなければ、将来の幹部養成でもない。摂理遂行という目的意識を持った業務遂行者、働き人を短期間に効率的に養成することとなったのである。そのために、②と③のやり方が採用された。おりしも統一教会批判が高まっているとすれば、

青年意識アンケート

1．どんなことに関心がありますか？

健康　仕事　旅行　政治　世界情勢

恋愛　結婚　霊界　占い　人間関係

学問　人生　因縁　芸術　ボランティア

2．あなたにとって一番大切なものは何ですか？

財産　友人　愛　家庭　両親　健康

3．現在の生活に満足していますか？（Yes, No）

4．あなたに理想はありますか？（Yes, No）

5．社会のために何かしたいと思いますか？（Yes, No）

6．生活を変えたいと思いますか？（Yes, No）

7．死後の世界はあると思いますか？（Yes, No）

住所

氏名　　年齢

名乗らない方がよいという判断も当然あった。布教の目的は自分たちの信仰を世に知らしめることではなく、働き人を得ることであったから、対象者さえ獲得すればよいのである。

具体的な勧誘手段としては、アンケート調査を装ったものがある。一九八九年時に伝道に従事していた元信者の証言と資料（青春を返せ裁判［東京］原告団・弁護団編、二〇〇〇、一二五頁。）によれば、上のようなアンケート用紙が使用された。

一通り答えると、その人の関心の所在が把握できるようになっており、連絡先まで答えてもらえれば完璧である。近くで自己啓発的な内容のセミナーを行っているので来ませんかと誘うのであるが、時間がないと言われれば次のアポイントを取るまで粘る。

元信者が見ず知らずの人を誘う伝道以外に、家族や知り合いを誘うFF（Family and Friend）伝道と呼ばれるやり方もある。家族の場合は物販の展示会に誘うのであるが、知り合いの場合は同級生やクラブの仲間に「サークルをやっている

こんばんは。□□の○○です。□□てご存じありませんか。地下鉄北一二条駅前にできた□□なんです。櫻井さんは北大生ですか。ちょっとお時間があったらこのアンケートに答えていただきたいんです。お手間は取らせません。今、関心あるのは、学問・人生。さすが北大生ですね。真面目な方なんですね。文学部ですか。いろんな本読んでいるんでしょうね。哲学の本も読まれる！　すごいですねえ。でも、いろんな人の本を読んでいると、どれが本当のことなんだろうって迷ったりしませんか。いろんな考えがあると思うんですけど、人生って一度きりだから一つの生き方しか選べませんよね。いろんな哲学者の思想を全て実践するってわけにはいかない。だとしたら、最高のものを学んで最高の人生を送りたいと思いませんか。人類の歴史で多くの思想家や宗教家が登場してきて、いろんなことを教えてくれたはずなんですが、世界から戦争や貧困はなくならないし、私達だって人生のいろんな悩みから解放されたわけじゃない。対症療法だけやってもダメなんです。根本的な問題解決をしないと。実は明確な解答があるんです。このビデオセンターではそうした内容が明確に解かれているんです。百聞は一見にしかずといいますよ。是非、自分の目と耳で感じ取ってください。今日、私とここで出会ったのも何かの縁ですよね。人生にはいろいろな出会いがあります。出会いには意味があります。人間って出会いで変わっていくものなんですよ。人生って一度しかないでしょう。自分の人生だから、自分が責任を持っていくしかない。この出会いを生かせば、櫻井さんが考えていることに解答は得られるし、櫻井さん自身が変わりますよ。今、この時です。始めませんか。もし、時間がなかったら、連絡先を教えてください。いつでも受講できるんです。お名前、連絡先をここに書いてくださいね。

んだけど、一度来てみない」というように声をかける。映画上映等のイベントを兼ねることも多い。本調査の対象者にも青年信者の場合は、友人からの誘いでビデオセンターに連れて行かれたという人が多い。壮婦は、展示会か姓名判断の訪問を受けてということになる。いずれの場合であっても、統一教会であることは一切語らないという点では共通している。

この勧誘手法にはトーク・マニュアルがある。札幌裁判資料のマニュアル「み言葉トーク」に準拠し、二〇数年

前の筆者（北海道大学学生）を路上で勧誘するトークを自作してみた。

札幌地裁に提出された「新規前線トーク・マニュアル」には、誰に伝道すべきかということで、次の記載があった。

■望まれる人

①勤労青年　勤続　三年以上、看護婦、銀行員、設計士、プログラマー、二三歳以上の人

②学生　四年制の大学生　北大、札幌医大、小樽商大、藤女子大　一、二年生の方

③アパート居住

④長のつく人、やりきった世界を持っている人

■生かすのがなかなか難しい人

①通えない人　遠距離、営業マン、忙しい専門学校生

②親主管の強い人　自宅、自宅生女子、一〇代の勤労青年

③内的外的不安定者　無職、バイト、重い病気を持っている人、霊的すぎる人、精神的に弱い人

（札幌地裁判決文（昭和六二年(7)第六〇三号　外、二〇〇一年六月二九日判決）三一九―三二〇頁）

これをみて分かるように、勧誘しやすく、なお、統一教会の欲しがっている人材を対象にしているのである。若く、小金を持っている職種か、学生も学校を見て選んでいる。親元を選ばないのは家族に相談されないことに加えて、後のセミナーやホーム生活に導入しやすいからである。宗教の布教で一般的にみられる貧病争で悩み苦しんでいる人は

むしろ対象外とされていることにも注目したい。

［手相・姓名判断］

調査委対象者の壮婦〇〇名は全員統一教会員の訪問伝道を受けている。典型的なやり方は次の通りである。

①統一教会員が「占いの勉強をしているものですが、無料で手相や姓名判断をさせてもらっています」といって戸別訪問をする。かなり怪しい物言いではあるが、清楚な若い女性であることから押し売りや詐欺師にも見えないということで、時間があって占いにも興味がある主婦が応じる。このやり方は近年街頭の伝道にも用いられ、訪問に限らない。

②手相・姓名判断によって健康、家族、仕事、将来の運勢等一通りの吉凶について説明した後、「自分はまだ占いの見習いですが、よく当たる大変すばらしい先生を知っているので是非〇〇さんにも観てもらいたいのです」と熱心に勧誘する。この業務に従事した元信者達の語るところでは、占いの結果は話の糸口を作る素材に過ぎないのであり、次のステップである霊石の展示即売会場である「霊場」や、家系図診断を行う鑑定所に誘うことが目的である。

③一九八〇年代中期から一九九〇年代初頭にかけては、開運の印鑑を購入させ、次第に高麗大理石壺や多宝塔といった高額商品へ導入する展示即売会場への動員が多かった。このやり方が霊感商法として社会問題化すると、霊石の販売ではなく、霊石をただであげてその代わり献金を要求するというやり方に転換していくことになる。

以下では、姓名判断の実際について詳しく説明したい。

統一教会が姓名判断に用いる方法は、桑野式姓名判断に準じている。統一教会で用いられたマニュアル（占いに従事した元信者が上司の信徒から渡された印刷物「鑑定秘訣集」）を用いて、筆者自身の姓名判断をこの方からしてもらった。その結果を述べておこう。

格の意味として、天格（姓の字画の合計）が家系と晩年の運勢、人格（姓の後の文字と名の最初の文字の画数を合計）は三六歳―五五歳の運勢、地格（名の画数の合計）は一歳―三五歳の運勢を示す。外格（姓の最初の文字と名の最後の文字の画数を合計）は病気の運勢、総画（全ての字画の合計）は一生の幸不幸、内運A（姓の後の文字と名の後の文字の画数を合計）は愛情、内運B（姓の最初の文字と名の最初の文字の画数を合計）は宗教性、つまり本人の幸福度、社会運、家庭運を示すとされる。なぜ、所定の字画を足すとこの種の運勢を表すことになるかはマニュアルには一切説明がない。桑野式姓名判断も同様である。

ここまでは、桑野式に準拠しており、桑野式に限らず、姓名判断の諸本ではおおむね同じような意味を画数にあてている。筆者の場合、画数では大吉なし、吉11、24、25、45、半吉17、34、38、凶20、大凶28である。

統一教会の「鑑定秘訣集」に従って鑑定してもらうと、筆者の人生は三五歳までの運勢が悪いが（20画で凶）、中年（17画で半吉）から晩年（25画で吉）にかけて持ち直すらしい。外格（統一教会では背後霊を意味）が大凶なので、大病を患う可能性がある。これは桑野式姓名判断でも病気の運勢である。また、筆者は周囲の人への第一印象が悪いとされる。このような大凶の画数が出た場合に、統一教会の鑑定士は、「再出発の必要がある数」であり、筆者は「転換期にいる」と言われることになる。そのいい方はマニュアルにもある。

社会運（21＋4＋13＝38）　外格（21＋7＝28）
天格（21＋4＝25）　人格（4＋13＝17）　地格（13＋7＝20）
櫻（21）　井（4）　義（13）　秀（7）　総画（21＋4＋13＋7＝45）
内運B（21＋13＝34）　内運A（4＋7＝11）
家庭運（4＋13＋7＝24）

筆者の場合は、桑野式姓名判断だけでも転換期トークの対象者となるため、これ以上の鑑定は不要なのであるが、だめ押しが必要ならば次の説明も加えよう。

統一教会のマニュアルには同格法（数字上の引き合いから因縁が分かる）という考え方がある。桑野式にはない因縁（武士因縁、色情因縁、事故運、扶養運、水子縁、家系衰運、子薄運、肉体障害等）が統一教会の鑑定秘訣集に出てくる。筆者の場合、社会運（38：3＋8＝11というフレキシブルな計算をなす）と内運A11が同数で斜同格とされる。これを線で結ぶと、名前がけさがけに切れられたようになる。これこそ「武士因縁」とされる。この意味は、身体にメスが入る、精神的板挟みに出会うのだという。人格（17：1＋7＝8）と外格（28）は一の位が同じで平行同格である。この意味は、「色情因縁」であり、浮気・乱費をするとされる。要するに、筆者は心身共に不健全な状況に陥らざるを得ないのである。この名前を付けてくれた親を恨むべきであろうか。そのような親不孝をする前に冷静に考えてみよう。

同姓同名（完全な同格数）の人間が、歴史・地域、生育・社会環境をこえて同じ運勢（生活構造）を持つという姓名判断の発想は、社会科学的にはナンセンスである。仮にそのようなことが起きるのであれば、偉人や成功者にあやかりたい改姓・改名者が続出するであろう。それはさておき、桑野式では姓名が持つ運勢、吉凶を判断しているのであって、統一教会の占い師が言うところの因縁という概念を用いないことを注意したい（桑野、一九九四）。

但し、ちまたの姓名判断の鑑定家の中には、因縁という概念を用いて鑑定するものもいる

転換期トーク　○○さんて、運勢の変わり目に入っているんだよね。きっと転換期なのよ。転換期っていろいろなことを考えたり、悩んだりするんだって ──。この時にいかに努力するかによって、自分を生かすこともだめにしてしまうこともあるんですって。努力次第でとっても運勢がよくなることもあるんですって。先生に的確なアドバイスをしてもらえたらいいネ!!（裁判資料より転載（甲Ｂ第 115 号証）、マニュアル、32 頁記載。）

ことは確かであり、統一教会のみが因縁話をするわけではない。阿含宗においても、ほぼ同様の因縁が語られている。おそらくは阿含宗の方が先にこのような因縁を語っていたのであろうが、阿含宗もまた既成教団で語られた因縁を編集したものと思われる。およそ、儒教と祖先崇拝が強い東アジアの宗教文化から導かれた因縁の数々である。

ところで、統一教会の場合、姓名判断はほんの入り口であり、これに基づいたトークが個人の運勢を家族の問題に繋ぎ、不安の発見、恐怖をもたらし、物品購入や献金、入信への糸口になっていることに注目したい。しかも、統一教会の教義である統一原理とは直接的な関係がない。なぜ、教義的な必然のない話を未信者にとって一番大事な信仰への導入部分で行うのか。ここには三つの意味がある。

①姓名判断に対して信憑性あり（ウソとまで言い切れる人は少ないだろう）とする日本人の心性にすぅーと入り、本人や家族の事情を把握するのにうってつけの方法であり、まさに導入に使えるということ。

②中高年の人達にとって統一教会が一貫して教えていることは先祖の恨みや祟り、霊の障りであり、家族の系譜関係に基づく因縁であり、これが信仰のベースとなっているということである。

統一教会信徒によって鑑定される悪因縁の種類

家庭衰運、肉親血縁相剋、運気不定浮沈、逆恩因縁、色気運、色情因縁、中途挫折、子運気相剋害、夫運気剋害、扶養金銭型、水の財運、夫婦縁傷害、循環系統傷害、子縁うすい、怨しゅう、目・手足断つ肉体傷害、夫婦縁破れる、横変死、二重人格、脳障害等々
（出典　鑑定秘訣集）

占い声掛けトーク・マニュアル　さあ、あなたはみ旨占い師。自信をもって、しかし、当てることにこだわらないで相手が自分の問題点、課題に気づけるようにトークしよう！（甲Ｂ第115号証、マニュアル、20頁記載。）

③姓名判断という占いは筮竹や算木を用いた易や四柱推命よりも単純である。画数を計算して数ごとの吉凶をあてはめてトーク・マニュアルを作成することが容易であり、素人占い師を大量に養成することができる。印鑑のトークと題する裁判資料に従って、筆者へのトークを自作してみた。

このようなトークを一、二時間受ければ、せめて印鑑くらい買った方がいいのではないかという気分にもなる。二一万円の印鑑は導入にすぎない。この後、印鑑購入を考えたものは、さらに統一教会信徒が運営するビデオセンター、教育講座、展示会等々へ勧誘されることになる。霊石と展示会においてどのように商品を購入することになるのか、或いはそこで献金を要請されることになるのかは、霊能師による献金要請の項目で論じることにしたい。その前に、青年・壮婦に共通したビデオ学習やセミナーによる教化システムについて構造的に分析を行おう。

櫻井さんのお名前は旧字体の櫻井に義秀という字画も多くて昔のお侍のようなお名前でいいですねえ。でも、ちょっと気になるところがあるんですよ。櫻と秀の字画を足した外格は病気などの運勢を表すんですが、これが28画で大凶なんです。35歳までに脳や精神の病に罹る可能性があるんですよね。えっ、大丈夫でしたか。でも、すごく悩まれたこととかありませんでした？　あったけど問題ない。良かったですね。先祖の功労だと思いますよ。実は、櫻井さん、ここに、斜同格がありまして、武士の因縁と言われているんですよ。社会運と内運Aを結ぶと名前が刀で切られたようになるじゃないですか。この因縁があると、手術とか事故とか、天災といって、いろんな災難にあう場合があるんです。それともう一つ、お武家さんというのは側室とかそういう女性をかこっていたりしたもんだから、色情の因縁も出やすいんです。なんと。人格と外格が同じで平行同格ですよ。離婚とか再婚とか、男性が立たなくて代々婿取りが続くとか家系にいろいろ出てくるんですよ。なに、櫻井のお祖父さんのお祖父さんは仙台藩で人を斬り殺して脱藩して山形に逃げてきてお百姓さんになったと伝えられているですって（真偽の程定かではないかが父より聞いた話）。姓名判断って、本当に当たるんですよ。恐ろしいくらいにね…。

これほどの因縁を背負っておられるのが櫻井さん、あなたなんですよ。この因縁は切らないといけません。お祖父さんのお祖父さんは地獄の霊界で苦しんでいます。本当に因縁を切っていこうと思ったら出家するくらいの気持ちにならないといけないんです。できませんよね。でも、武士因縁は血が流れるし、色情因縁は涙が流れるもんです。健康も愛情も棄てるわけにはいかないけれどお金ならなんとかなるものです。だから、櫻井さんが血を流し、涙を流しながら築かれた財産を献げませんか。必死の思いで築かれた財を献げることで出家された方の徳分を受けることによって因縁が清算されていくんです。どうすればいいかって？　財産を全て献げるのが一番いいんですが、家のローンもあるだろうし、お子さんの教育費もまだまだかかるだろうし、無理ですよね。櫻井さん、印相はご存じですか。私は印鑑をご紹介しているものなのですが、御守りの印鑑を作ると運勢は変わりますよ。このご自宅ご立派ですよね。家相観てもらいましたか？　やはり、観てもらいましたか。どうりで櫻井さ

んにもご家族にも何事もなかったわけだ。同じです。印鑑でも。櫻井さん、供養数っていってね、三数、四数、七数、一二数、二一数、四〇数ってのがあるんです。三たす四は七。七が完成数っていって一番いいんです。七〇〇万円くらいでいいんですよ。四〇〇万、三〇〇万、二一〇万、一二〇万、一〇八万、櫻井さん、一〇〇数を超えないといけません。無理ですか。七〇万、四〇万、三〇万、二一万、この中でご自分できる精一杯をやったらいいですよ。この運勢あるものを、この徳分を本当に受けたらいいですよ。

［ビデオセンター］

青年・学生達は、勧誘された後にビデオセンターと呼ばれる統一教会の施設に連れて行かれる。都市により規模は異なるが、おおむねビデオルーム（ビデオ教材を視聴できるブースが十幾つある）、会話ができるティーコーナー、スタッフ室、祈祷室から構成される。貸しビルのフロアか賃貸マンションの一室である。ビデオセンターには、タワー長と呼ばれるアドバイス役、新規ゲスト担当の新規トーカー、主任（責任者）とスタッフからなる。

勧誘された若者にはまずお茶を出して大学や職場の軽い話をしながら、ビデオ学習へ動機づけていくことになる。勧誘したものは霊の親と呼ばれ、被勧誘者の脇に控えて、新規トーカーの話にあいづちをうつ。トーカーというくらいであるから話はうまい。彼等はトーク・マニュアルで会話の流れ、話の持っていき方を学習している。「まずは相手の話をよく聞いて、知ってあげ、認めてあげることが大事です。賛美も美辞麗句ではなく、相手の喜ぶことを言ってあげましょう。…ゲストの前に自分はまぶしい魅力的な存在になるように、表情笑顔、相手の話を聞く姿勢、誠意、さわやかさ等、気をつけて、身体全体で話すことも必要かと思います。（新規前線トーク・マニュアル）札幌地裁判決文三四七頁」

同じ年頃の青年がこうも話せるものか、ここまで自分の話を真剣に聴いてくれる

ものかと、たいていの若者は驚く。路上にしゃがみ込んでいるような若者であれば、何カッコつけているんだよということにもなろうが、こういう人はそもそも勧誘対象ではない。わざわざここまで来るような若者は素直だし、向上心がある。どうしたらこういうふるまい方できるのかなと教養主義的な関心がわくのである。受講料五万円は後払いでもよいとされ、数千円をその場で支払えば申し込みは終わりである。

勧められることは一三巻のビデオ視聴である。これ以外にクリスマスキャロルの映画をみる。吝嗇のスクルージが経験する亡霊との遭遇から善行をなせという教訓を得るのではなく、霊界の存在と財産を投げ出すことで幸せになるということを記憶させる。或いはＮＨＫスペシャルの人体の不思議といったビデオもある。

■倉原克直講師の統一原理講義
①総序②創造原理⑴プロローグ③創造原理⑵霊界④堕落論⑤終末論⑦メシヤ論⑧復活論⑨緒論⑩アダム・ノア家庭⑪アブラハム家庭⑫モーセ⑬イエス⑭摂理的同時性

この種のビデオ受講で感動する人は殆どいない。どれも初耳の話である。神がこの世と人間を作り、人間がサタンの仕業で堕落し、その後神の元へ復帰する歴史を歩んでいるのだという話を聞かされても、ふーんというしかない。しかし、全て分からなくともゆっくり学んでいけばよい、いずれ分かるので最後まで見ましょうといって、後へ後へと引き延ばす。要するに、何が言いたいんだということは取っておくのである。ビデオ視聴後に主任との話し合いや霊の親と交流を持たせることで、ともかくここは自分の居場所であると被勧誘者に感じてもらえばいい。下にも置かない態度に誘われたものは悪い気がしない。受講も後半になると、次のステップとしてツーデーズセミナーへの参加

が勧められる。

数週間の受講期間中に様々な話をスタッフとするので、被勧誘者の志向性や経歴等の個人情報が蓄えられ、それはカード化されて次のプロセスを担当するものへ渡される。担当者はその情報を頭に入れながら、当人の性格や境遇を考慮して学習を進めさせるのである。

［ツーデーズセミナー］

ツーデーズセミナーの次第は次の通りである。

ツーデーズセミナー内容

〈前日〉

20：00　セミナー会場入り

21：00　レクリエーション（室内）、班ごとに決意表明等

22：00　開講式

23：00　就寝

〈初日〉

6：00　起床　体操　洗面等

7：00　朝食

ツーデーズセミナーとはいっても実質は二日半、二泊三日の研修となる。支部からセミナー会場（アパートやペンション等の一棟貸し切りか、ビルのフロア貸し切り等）に移動し、班ごとに分けられる。大半は同じ市内か同じ県内から集められた若者達であるが、見ず知らずの人達の間で緊張感が高まっている。いったい、何が始まるんだというわけである。ツーデーズセミナーはビデオ学習で分からなかった部分や明かされなかった部分が解き明かされるので是非と受講を勧められたものである。緊張感のなか

午前　創造原理
12：00　昼食　レクリエーション（室外運動）
午後　創造原理（復活論）　休憩　堕落論
20：00　夕食
21：30　個人面接
23：30　就寝
〈2日目〉
6：00　起床　体操　洗面等
7：00　朝食
午前　緒論（復帰原理）
12：30　昼食
午後　メシヤ論　歴史の同時性　面接
18：30　閉講式
20：00　支部にてウェルカムパーティー
（郷路、一九九三、七二頁）

か分からぬような湿っぽい布団にくるまって、これからどうなるのだろうと不安を募らせながら、うとうとするのがせいぜいであろう。そして、いきなり起床のかけ声か、けたたましい音楽でいっせいに起こされ、洗面、ランニング・にも期待はあろう。

班ごとに統一教会員のスタッフが班長として配属され、数名の班員の受講に関わる一切の雑務を担う。必要事項は全て班長を通すように言われ、勝手な判断・行動は厳に禁じられる。セミナー会場には新聞・テレビ・ラジオ等外部情報を摂取するメディアは置かれていない。一九八〇年代は外へ出て公衆電話も禁止、この十年くらいは携帯電話の禁止であろう。班長は班員に常に目を配り、班員同士が無駄口を叩かないようにしている。

前日、初日と就寝時間はいちおう二三時であるが、夜連れてこられてどこかもよく分からないところで知らないものと布団をぎっしり敷き詰めて寝るのであるから、おそらく熟睡できるものは少ないと思われる。宿泊施設ではないにしても、いつ天日干した

体操等の運動が始まる。食事は大人としては粗食の部類であるが、食生活の不規則な若者にとってはまずまずであろう。

早起きで覚めやらぬ頭に「創造原理」が講師の熱烈な講義でたたき込まれる。受講生はビデオセンターや班長から「大変な講師」「受講できるあなたはラッキー」といったことを繰り返し聞かされているので、何か重要なことを語っているのではないかという気になる。しかし、社会人にとってはせいぜい先輩くらい、学生にとっても助手くらいの人が、確信に満ちて大声で情感たっぷりに堂々と講義をする様にとりあえず目を見張る。これまでのビデオ受講では講師はテレビの中、自分はブースの中であるから、欠伸しようと鼻をほじろうを問題なかった。ところが、講師のツバキが飛んでくるような近さで講師に正対して受講し、なお周囲は同じような受講生に囲まれている。語られる内容は、高校や大学、或いは一般の職場や世間で使われていない漢字語であり、概念の繋がり具合は一度聞いて理解できるものではない。二性性相、神の創造目的、主管云々。従って、緊張感と同時に頭脳の疲労度も増し、居眠りも許されないという状況の中で頭は朦朧としてくる。人によっては半覚醒の状態で講義を受ける。

初日の昼食後、スポーツもレクリエーションとしてはよいのであるが、その後に四、五時間も講義を聞かされる。午前中よりさらに眠くなる。人間がいかに堕落したかという堕落論は創造原理よりは分かりやすいが、それは天使長ルーシェルとエバ、エバとアダムが性行為を行ったために堕落したという独自の聖書解釈のゆえである。創世記の内容も、キリスト教派の原罪の観念も全く知らない若者達は、人類の始祖であった若い男女が不適切な相手と不適切な時期に性行為をした結果、世の中に淫行がはびこり、この種の間違いで人は人生を誤るといった漠然とした話を記憶に留めるのである。

翌日は、罪に満ちあふれたこの世を救うために神はメシヤを遣わし、このメシヤによる救世の歴史が世界史に他ならないことが黒板いっぱいに図解された世界史年表により説明される。世界史Ｂを高校で履修し、大学で歴史学でも専攻しておれば、どうして創世記からイスラエルの民族史、キリスト教世界の宗教史と西欧近代史をもって世界の歴史とするのか疑問も生じよう。殆どの若者はセミナーの受講疲れのためにそこまで考える余裕はない。

こうして講義の合間の食事、スポーツやレクリエーションがアクセントとなり、最後まで飽きずに終えることができるが、講義内容が理論的に分かることはない。よく分からないままに終え、しかも、メシヤ論をやりながら、今、再臨のメシヤはどうなっているのか語らぬままに終わり、この先さらにライフ・トレーニングに進むかどうかの決断のみ迫られるのである。こんなわけの分からない連中は相手にできないと思う受講生はここまでである。しかし、多くの受講生は不完全燃焼のような状態で講義を終えてしまう。

そういう心境に変化を起こさせるのが、霊の親との感動の対面である。講師は閉講式において、実は霊の親が迎えに来ているのだと明かす。しかも、受講者の理解が進むように祈って待っていてくれたとも。札幌では、セミナー会場の後ろに幕が引かれていたが、講師の言葉の後で突然幕が開けられ、霊の親が霊の子の名前を呼びながら駆け寄るというシーンが用意されていた。そして、元の支部に戻り、お帰りなさい、ツーデーズセミナー修了おめでとうという横断幕が掲げられたパーティー会場に迎え入れられるのである。口々に良かったねと祝福を言われ、受講者は事態を飲み込めないまま、学習を継続するかどうかの決意表明を促される。ノリノリの雰囲気であるから自分もそう答えてしまうのである。

［ライフ・トレーニング］

受講料は三万五千円。一ヶ月（短い場合は二週間）トレーニング専用のセンターに通うことになる。アパート一棟借り切ったような建物には、ツーデーズセミナーの進行役が主任に、班長役のものがそのまま班長として移動する。要するに、彼等は、ほぼ一ヶ月間の周期でツーデーズセミナー修了者をライフ・トレーニングで鍛え上げるという役割をおう統一教会員である。どのように鍛え上げるのかというと、第一にはこの後に続くフォーデーズセミナーへの参加を決意させ、第二に統一教会員としてのライフスタイルを紹介する。

学校帰りや仕事帰りに、一九時から二三時頃まで一日四時間あまりの講義や話し合いが続く。講義内容は、ビデオセンターやツーデーズセミナーでも一通り聞いた講義内容の繰り返しの部分と、それをいかに実践するのかというものである。

ライフ・トレーニング講義内容

①神について、②罪について、③祈りについて、④終末論、⑤緒論、⑥アダム・ノア、⑦アブラハム、⑧イエス、⑨再臨論、⑩主の路程、⑪清書論、⑫新生の手順、⑬信仰生活講座　等。（札幌地裁判決文、三五六頁）

⑩の主の路程とは、文鮮明の半生を初めて紹介する内容である。既に二回も人間の堕落と復帰の歴史を辿ってきたのであるが、最終的にメシヤが再臨する必然性があると言いながらも、それが誰か、なぜ、その人物なのかについて説明を控えてきた。受講生の最大の関心事をずっと引き延ばしてきたのである。それをようやく明かすわけであるが、

受講生には歴史的・摂理的必然ということが先行して教えられているために、文鮮明がなぜメシヤなのかという逆に彼から歴史を辿る発想は生まれてこない。

聖書にはイエスの誕生前の説話として、東方の三博士の礼拝、ヘロデ王の幼児殺害、マリアの処女懐胎等々、神が人間として受肉するために奇跡が生じたことを縷々書き連ねている。なるほどキリストというのは普通の人とは違うと素朴に思うわけである。ところが、統一教会では、人間の堕落とそれを救済しようとした神の計画が人間の不信仰により常に失敗してきたという惨憺たる歴史を延々語り、神の子すら磔にしてしまった人間が今度こそ再臨主を信仰しなければ、神の摂理は完全に終わってしまうと説く。だから、どんなことがあってもメシヤを受け入れなければいけないのだという心構えが重視され、まさにその心的態度をビデオ学習やツーデーズセミナー、ライフ・トレーニングという三段階の研修を通じて養成しようとするのである。

「実際のメシヤは自分自身が思い描いているメシヤ像とは違うことが多い。どんな人であったとしても、メシヤとして受け入れられる心構えを持っていなければならない」と主任と班長は口をすっぱくしていい、最後にこの人がメシヤですと文鮮明の写真を披瀝するわけである。信者達はメシヤを証せた喜びと感動で喜色満面なのであるが、受講生達は戸惑いを隠せない。「この韓国人のオジサンがメシヤ!?」「本当か？」

再臨主はイエス・キリストのような人であるから西欧人っぽい人ではないかと思いこんでいる受講生は多い。日本にキリスト教がもたらされ、教会のイエス像やマリア像、聖家族の絵画になじんでいる日本人は違和感を禁じえない。もっとも、セム系出自のイエスがヨーロッパにキリスト教が広まって現在のようなイエスの画像になったのであるから、それぞれの地においてイエス像がエスニックな風貌に変わっていっても何らおかしいことではないし、自称再臨

主を名乗った人物は世界各地で枚挙のいとまがない。韓国で文鮮明が何番目かの自称再臨主であることも韓国の人にとってはまたかといった話である。

しかし、日本の統一教会は、信じがたさという弱点を強みにする論理を強調する。「メシヤがこの世に現れたときに、この人がメシヤであると明かすことがどれほど難しく、またそれを信じる人がどれほど少ないか」ということをいうのである。意外であればあるほど、信じがたければ信じがたいほど、そのこと自体が人間の罪深さや摂理の失敗の歴史を物語っているのであると呻いてみせる。

ここで再臨主に関わる一般的な理解の問題が個人の信仰の問題に置き換えられていることを確認しておきたい。文鮮明を信じられないことこそ不信仰であるという講師やスタッフの言明に対して、受講者は信仰的であろうとすれば信じるしかなくなる。文鮮明を明かすまで、人間の不信仰による摂理の失敗、人間と世界に関わる諸問題が全て信仰を離れたことが原因で生じたということを繰り返し説いている。そういう認識の枠組みがある程度できあがった段階で文鮮明が明かされると、信仰的によく生きることを考え始めた受講者は受け入れようかなという心境になる。スタッフを務めた元信者は、文鮮明が明かされた段階で「なーんだ」と辞める受講生がいることを認めているが、八割方はフォーデーズに進むという。

「私もメシヤをなかなか信じることができなかった」といった主任や班長の証しなどを聞き、最終的な事柄は全てフォーデーズで分かりますと太鼓判を押されれば、最後まで出てみようと思うのではないか。向学心・向上心に富んだ若者を集めて数ヶ月にわたってよく観察し、どこに信仰の糸口があるかを十分に見極めながら、最後の一押しまで持っていく。ライフ・トレーニング担当者の手腕もあるが、受講生達の資質も継続に向いている。

［フォーデーズセミナー］

フォーデーズセミナーのスケジュールは基本的にツーデーズセミナーと同じであるが、研修内容として、文鮮明の生涯、統一教会をとりまく国際情勢や反対運動をそれぞれ半日かけて学習することが加わる。既にライフ・トレーニングにおいてここが統一教会であること、再臨主は文鮮明であることが明かされているので、研修事項に特別衝撃的な内容が含まれているわけではない。このセミナーの目的は、受講生に統一教会の信徒として献身生活を決意させることにある。そのために四日間の外界から隔離された研修施設（郊外のユースホステル施設貸し切り等）を用意し、スタッフも講師が地区の教育担当責任者や本部の講師（国際情勢の解説等）等にグレードアップする。

この段階の受講生達は、宗教や統一教会それ自体に批判的なものは離脱するか、排除されているために、志向性においてかなり均質化している。そのうえ、彼等は全てが明かされる最後の研修ということで不安、期待が入り交じった緊張感をもって臨んでいる。

フォーデーズセミナー内容

〈前日〉

20：00　支部より会場へバスで移動　車中で自己紹介、ゲーム等

22：30　開講式

23：00　就寝

〈初日〉

6：00　起床　体操　洗面等

宗教的行為は知情意のうちで情に関わる部分が著しく大きいという点で他の社会的行為と異なる。どんなに崇高な教えや徳目であっても、頭で理解し、強い意志を持って行為せよと命じただけでは人は動かない。自ら動き出さざるをえないような強い情動が必要である。多くの宗教では儀礼に参加することでそ

7：00　朝食
　午前　創造原理
12：00　昼食　レクリエーション（室外運動）
　午後　創造原理（復活論）
20：00　夕食
22：30　個人面接
23：30　就寝

〈2日目〉
6：00　起床　体操　洗面等
7：00　朝食
　午前　堕落論、緒論、アダム家庭
12：30　昼食
　午後　アブラハム家庭、イエス路程　お父様の詩
18：30　夕食
20：00　班長面接（献身のすすめ）
23：00　就寝

〈3日目〉
6：00　起床　体操　洗面等
7：00　朝食

うした情動を得ることができる。儀礼は荘厳な雰囲気のなか、伝統的なやり方で執行することで、儀礼参加者は過去現在未来永劫に変わらない普遍的な聖なる時間に生きることができるのである。ヨーロッパの大聖堂において荘厳なミサに出席すれば誰しも敬虔な気持ちになるであろう。日本の統一教会のように建物を飾らず、聖なる象徴物も置かない研修施設では、聖なる雰囲気を醸し出すのが難しい。従って、ここが聖なる空間であることを統一教会では能弁に物語る必要性が出てくる。唯一、儀礼的空間を作り出しているのが、お父様の詩という文鮮明の教説を示す時である。

イエス路程ではイエスキリストの生涯を解説するが、一般のキリスト教教会では十字架を神の恩寵の象徴として語る。人間の罪科全

午前　歴史の同時性、再臨論
12：30　昼食
午後　主の路程
18：30　夕食
20：00　講話
21：00　班長面接
23：00　就寝
〈4日目〉
6：00　起床　体操　洗面等
7：00　朝食
午前　勝共理論、国際情勢
12：30　昼食
午後　現代の摂理、拉致・監禁問題対策
17：30　閉講式
20：00　支部に戻り、ウェルカムパーティー
（札幌地裁判決文、三五八―三六一頁）

てを負って、自ら生け贄の子羊となられたイエス・キリストの愛、そして、死せるイエスを復活させ、復活したイエスを信じることで救いの奇跡を人間に授ける神のくすしき御業を褒め称えるのが神父や牧師の役割である。

ところが、イエスはメシヤであることが認められなかったばかりか、惨めで無念な死を遂げたことを講師は泣き出さんばかりの無念さをもって語るのである。イエスが重い十字架を背負ってゴルゴダの丘へ向かって歩く様、手足を十字架に打ち付けられ徐々に失血し意識を失っていく様、絶命の寸前に神に自己を委ねる最期の思いをイエスになり代わって講師は切々と語る。神はこの情景をみて血の涙を流さんばかりに嘆き悲しんだ。何度も何度も人間を救おうとしてきた神の摂理が人間の不信仰によりその度に打ち砕かれ、それにもかかわらず人間を愛してきた神様の心情はいかばかりなものかと。韓国風にいえば、怨（ハン）を念すらわき上がってきたに違いない。し

かし、神はここで絶望することなく、自らの権能をサタンに示すべく、イエスを蘇らせ天に上げ、新たな人類の救済史を構想されたとされる。

ここまで二時間あまりもこの種の話を聞かされれば、女性の受講生は大半が泣き出してしまう。感情が盛り上がってきたところで、聖歌、祈祷がなされ、講師は退席する。しばしの後、セミナー室の明かりは消され、ろうそくをもった班長達が入場して受講生の前か横に一列に並ぶ。服装は白っぽい服装であり、厳粛な雰囲気を炎に照らし出されたスタッフの顔が演出する。おもむろに下記に示された詩が荘重に朗読される。

二、三分の短い詩であるが、イエスの悲しい生涯を聞いた後の受講生達は、人間の罪深さと神の慈愛に感じ入り、それが抽象的な神学的神ではなく、具体的な親子の情愛にも似た神と人との関係であったことを聞かされる。朗読が終わると、進行係は静かに神に対して祈祷することを促す。祈祷の作法はライフ・トレーニングで型どおりのことは習っているとはいえ、スタッフ達の祈祷の仕方に驚かされる。

統一教会では韓国でよく見られる通声祈祷を行う。静かに始められた祈りの文言は次第に激しくなり、スタッフ達の神に詫びる心情と神に対して子として統一教会の道をどんなことがあっても邁進する決意が凛々しく語られる。受講生は数名の選抜されたスタッフの熱祷に促されるように自分たちも祈り始める。隣の人の祈りも当然聞こえるわけで、自分の祈りを耳で確認するためには大声で祈らざるを得ない。感極まって泣き出すもの、震える声で神に許しを請うもの、意志の力を示すべく机を拳で叩き、床を足で踏みならすもの、ありとあらゆる音響がこだまする中で受講生達の感情は抑制が完全に外された状態になる。

しかし、一人冷静なものがいる。進行役である。集団による感応状態とでもいうべき情動のほとばしりを確認し、

お父様の詩

おまえは一人で生まれてきて　一人で生きているのではなく
私があるからお前があり　お前があるから私があるのだよ。
お前の罪は人類の罪だ　お前が勝たなければ
お前よりもっと苦しんでいる人達はどうするのかね
お前には責任があるのだよ
私もお前なら勝てると思ったからこそ　信じているからこそ
今までお前を導いてきたんだよ
たとえお前が私を信じなくても　私はお前を信じ愛しているのだよ
私は報酬を望まない　どんなに今まで裏切られてきたことか
それでも私はお前達を愛して信じてきたのだよ
お前がどんなに否定しても　お前は私のかけがえのない娘だよ！
お前の罪の故に　お前の苦しさ　悲しさの故に
私はお前以上に耐えてきたのだよ
暗闇のなかをお前は一人で歩いてきたのではなく
いつも私がそばにいたのを　お前はどれだけ知っていたのか
ごらん　木々のひどりの中に　小川のせせらぎの中に
私の愛が聞こえるだろう
私はこんなにお前を愛しているのだよ　さあ信じてごらん
お前の中の私を愛してごらん
お前が立ち上がるまで　お前が勝利者となるまで
私はいつもそばにいてお前をみているよ
私はお前の親だから　お前を離すことはできないのだよ
戦って勝利して私を喜ばせておくれ
私の信じた娘は私の愛した娘はこんなにも成長しましたと
神の前にサタンの前に誇ることのできるお前であっておくれ
罪が少なくて勝利するのが簡単だったものより
罪が多くて勝利するのが困難だったものが勝利してくれた方が
私にとってどれほど大きな希望となることだろうか
この娘は本当に罪深かったけれども
今ではこんなに成長しましたと私に言わせておくれ

お前と二人で天のお父様の前に報告に行ける日を
私の唯一の楽しみにしているよ
がんばるんだよ

何故、私がお前を愛したか。
それは、お前が私の真実だからである。
今日までお前は自らのうちにある罪のために、汚れのために悩んできたね。
けれどもそういうお前を、この私が一度でも責めたと思うか、非難したと思うか。
また、そのようなお前からみにくいと言って顔をそむけたことがあると思うか。
そういうことの故に、お前が苦しみ悩む前に私自身が涙を流したのだよ。
数々の罪を持って生まれてこなければならなかった哀れな立場
そういう立場に立たせなければならなかったお前の故に
お前が悩む前から私自身が悩んだのだ
私がお前に与えた生命の故に、私はお前を愛したのだ。
お前は私の子だ。
（郷路、一九九三、一五八-一六一頁）

そこからもれおちる受講生がいないことを確認した後に、おもむろに祈祷の時間が終了することを告げ、黙祷に移らせる。クールダウンである。

涙と鼻水でくしゃくしゃになった顔をティッシュで拭く受講生達の顔を眺めて、進行役は歴史的な時に立つ統一教会と新規の受講生達の責任の重大さを再度強調するのである。

さて、私達も冷静になってこの演出と詩の内容を分析することにしよう。文鮮明によりこの詩には統一教会信者の信仰的エッセンスが示されたと見るべきである。

①神と人間の互酬的関係を最初に確認している。しかもその間柄は親子であるとされる。文鮮明は自ら真の父と称している

が、人類にとって救世主（メシヤ）であると同時に全ての人間の親であるという。親である以上、子の成長を楽しみ、期待するのは当然であるが、子供の位置が普通の親子関係とは異なる。

②子供は罪人である。最初から罪人であり、その罪は人類全体の罪（原罪）である。その罪を償い、原罪から脱するべく、子供である人間は努力しなければならない。それを親である神は期待しているのだという。

③罪とは神から人が離反したことであるが、統一教会では、子が親を裏切り、親の愛、親の思いに気づかないままに自由放縦に生きたこととされる。親は子供に裏切られても愛し続けてきたのであり、どんなに罪深い子供でも期待しているのだ。それにこたえてほしいと。

④神は人間の中にある。親は子のなかにいる。だから、「お前の中の私を愛してごらん」となる。親子はどういう状況の中でも共にあり、人は一人ではないと。

①と②については、実証も反証も不可能な統一教会の神学であるからここでは問題にしない。③はまさに親子の互酬性を前提に、信者に対して真の父である文鮮明の願いにこたえて、宣教の勝利者となるまでがんばってほしいということであるが、これはいわゆる親の願いというものだろうか。期待といい、願いといい、最初に尽くしたのは私の方だと子供に念を押している。いわば子に負債があることの確認である。④は子が自分を大切にすることは親を大切にすることなのだという通俗道徳的な意味にも解釈可能であるが、親を大事にすることで自分を大事にすることにもなるという親孝行の押しつけとも受け取れる。要するに、本当の親は私であると文鮮明がいい、だから信者に道理として献身を求めているのである。統一教会では親子関係に組織を擬制することによって、組織員に予め負債があるか

のように思わせ、その返済を要求することで組織員のコミットメントを要求している。

筆者が最も驚いた発想は、この詩が「お父様の詩」と題されていることにある。文鮮明が自分の意志を信者に伝えているわけであるが、神の立場に立ってこれを語っている。イエスであっても自分のこころを神のこころとして語ってはいないし、聖書の執筆者もイエスを神そのものとして描くことはなかった。文鮮明は再臨主であるから神でもあるということなのだろう。イエス論の最終的な結論として、神の心情はお父様の心情、すなわち文鮮明の心情となる。神と人として生まれた救世主が同じであるかどうか、古代の神学論争にならう必要もないが、立ち止まって考えてもよさそうなところである。

しかし、論理的な帰結に関して熟考する前にこの儀礼が挙行され、受講生達はまさに神の心情を実感してしまう。神の心情として語られた内容が激しい情動と共に記憶され、次にスタッフから献身の決意を促されるに至って、神の心情に沿った生き方をするのかしないのか、潔く自分に与えられた運命・使命を全うするのかしないのか、二者択一の生き方が迫られるわけである。人間である教祖の所感が神の摂理となりうるのかどうか。正統派のキリスト教であれば腰を抜かしかねない教説がいともたやすく統一教会の信者達に受けとめられていく。

イエス路程に次いで主の路程と題される講義が続くが、主イコール文鮮明であることはもう自明の理とされている。文鮮明が教団創立前後どのような苦難を味わったかという苦労話を再び講師がリアルな状況描写を入れてなす。受講生達は、神の苦しみを自分たちが味わったかのように心を痛め、これほど自分たちのことを思ってくれる神の恩に報いない方があろうかといった心境になるのである。そして、その具体的な報恩の仕方は、共産主義に打ち勝つ統一運動を推進する統一戦士となるべきことが講義で示されていく。

ここで統一教会におけるセミナーの構造的特徴をまとめてみよう。

①閉鎖環境とスケジュール管理。外部情報が一切遮断された閉鎖的状況に受講生は置かれる。研修期間中、スケジュール管理が徹底され、自由に行動できる時間や場所は一切与えられない。このようなセミナーのあり方は、企業幹部の自己啓発セミナーや軍隊の訓練に似ており、目的遂行型のパーソナリティに鍛え上げるねらいに即している。

②指導階梯の徹底。スタッフは指導する側、受講生は指導される側という役割が明確にされ、班長や講師の態度も厳しいものに変わる。指導と相談は縦のラインで行われ、横のライン、すなわち受講生同士の交流はスタッフが管理するレクリエーションに限られる。

③集団心理としての感応。先に述べた儀礼的状況では場の力が受講生に作用する。

④批判的思考を妨げる研修のルール。質問は一つの講義を完全に聞き終えてからということであるが、受講生の大半はノートを筆記することに精一杯であり、説明の論理的つながりを味わいとまがない。味わうものは講師の熱意や情感に訴える場面に限られ、一つの講義の後に印象に残るものは、単純なメッセージと情感、及び蓄積した疲労である。

⑤スタッフによるケア。①から④まで規制だけでは受講生が精神的に疲れてしまう。チアするのが、班長の時に優しい声かけであったり、食事担当スタッフの料理であったりする。受講生達は統一教会のメンバーになるよう躾けられているように見える。

フォーデーズセミナーを通して、受講生達は統一教会がどのようなところであるか大要を教えられたように思う。

しかし、その理解は抽象的なままに留まっている。統一教会に献身するということの意味は、献身的な努力をするくらいにしか分かっていない。だからこそ、セミナー修了後のパーティーで決意表明を促された際に、私は献身しますと宣誓できるのである。その際、不安や戸惑いを感じて宣誓できない受講生は確かにいる。その場合、献身に向けて支部メンバーが一体となって彼・彼女を詰める。この「詰める」という統一教会のタームこそふさわしい膝詰め談判が延々続くのである。多くの受講生達は根負けする。

［新生トレーニング］

フォーデーズセミナーで献身を宣誓した受講生は、すぐに新生トレーニングに入ることになる。宣誓に至らず、また献身者に向かない（批判的意見の持ち主等）ものは、またフォーデーズからの出直しとなる。フォーデーズにはリフレッシュメンバーということで何度か経験したものも混じっており、それはそれで盛り上げ役として役割を果たす。

札幌の場合は、ライフ・トレーニングと同じ研修施設で一ヶ月の新生トレーニングを行っていた。参加費三万円。この研修はフォーデーズと同じように、合宿によるスケジュール管理を徹底する。朝六時に起床し、洗面後体操、掃除、朝礼拝で出発を誓い、三々五々出勤する。午後七時から二時間の講義を受け、今日の一日と心境を班長に相談し、就寝は一二時をすぎる。札幌において、寝室は、女性が新生トレーニングの講義室、男性がライフ・トレーニング生用の講義室だったという。下記の表は新生トレーニングの講義予定である。講義内容は教理的に新しいことはなく、教えを実生活にいかに生かしていくのか、それによって統一教会信者としていかに生まれ変わっていくのかを実地指導することが中心となる。

新生トレーニング
1　開講式、オリエンテーション
2　復活論
3－4　信仰生活講座
5　祈祷学
6　ワンデーセミナー
7　宗教迫害問題Ⅰ
8　実践神学の意義と価値
9－10　緒論、アダム、ノア、アブラハム
11-13　心情解放展
14　礼典学
15　自由
16　メシヤ論
17　松本ママの証し
18　創造原理ポイント
19　堕落論ポイント
20　実践神学
21　勝共理論
22　宗教迫害問題Ⅱ
23　実践トレーニング説明会
24　摂理史観
25　巡回師講話
26　伝道学
27　伝道実践、閉講式
（郷路、一九九三、一七九頁）

一般の宗教団体であれば、信徒になる決心をする前であっても、全てではないにせよ教団の様々な宗教活動を知ることができるし、教団はむしろそうしたものにふれてもらうことを教化活動の中心に置いている。一般の子供や青少年達、信徒の子供達にできるだけ活動に参加してもらう。そうした活動がどのような教義や教団の方針に基づいているのかは徐々に分かってもらえばよろしいし、あえて説明すらしないこともある。

ところが、統一教会では一般市民に統一教会信者となることを強く勧め、献身まで誓わせて

いるにもかかわらず、では具体的な教団活動にどのようなものがあるのかを新生トレーニングに入るまで明かしていない。ビデオ学習から始まり、二つの合宿セミナーを含め数ヶ月かけて教説のみ学習する。神の摂理では統一教会信者として献身することが最高の幸せであり、人類に課せられた使命なのであるの一点張りである。具体的な宗教活動を示して、ではそれはどのような人間観や世界観に裏打ちされたものなのか知ってみたいと関心を持たせるような教化方法ではない。

新生トレーニングにおいても、信者は世界救済のために何をすればよいのかという具体的な話は最後まで取っておかれ、最初は毎度のごとく教説の解説を延々と繰り返すのである。受講生達は仕事で疲れた身体を休める暇もなく、一方的に講師の熱弁を拝聴し、感想を班長に伝え、学びの成果を主任に評価されつつ、毎日をこなしていくので精一杯となる。

へとへとの集団生活のなかで受講生達は統一教会信者として生活するために必要な規律を少しずつ学んでいく。規律は教理から演繹的に導かれたものであり、具体的な規律への批判や疑問は全てその場の脈絡で解釈されることはなく、統一原理まで遡るためにその一つ一つに疑問を差し挟んで質問したとしても、さらに一回分の講義を聞かされるような回答であるから、受講生には再度反駁することが難しい。現実生活に適用される信仰実践は全て教義的必然として示される。従うか、従わないか。信仰者の道を歩むか、不信仰のゆえに滅びの道へ墜ちていくか、二者択一の問題として受講生には理解される。

新生トレーニングで説かれる実践的な信仰規律は次のようなものである。

①アダム・エバの教訓。エバがサタンに誘惑され、不倫・姦淫を行ったが故に人間は堕落した。先に堕落したのがエバ、女性であり、次いで、アダム、男性を誘った。その結果、人類はエデンの園から追われ、堕落した状態から神への復帰の摂理的歴史を歩むことになったとされる。エバはアダムよりも罪が重いので、男性には仕えなければならない。この教説が信仰生活に適用されると、男女は文鮮明＝神が許可する祝福まで禁欲を守ることが最重要の規律となる。若い男女数十名が同じ屋根の下で一ヶ月の共同生活をしても、好意を抱くことすら許さない。また、青年期の若者にとってプライバシーを完全に奪われることは性的にも苦痛である。心身両面から性を統制することによって、受講生の訓育が進むことは論を待たない。また、アダム国家、エバ国家というような隠喩により、エバ国家日本がアダム国家韓国に仕えるのが神の摂理という世界認識・歴史認識にも適用される。

②カイン・アベルの教訓。二人はアダムとエバの子供であったが、農耕者カインの供え物よりも牧畜者アベルの供え物を神は喜ばれた。嫉妬したカインはアベルを殺したために、あなたは呪われて地上の放浪者になるであろうという神の言葉を得た。ここから、統一教会は神に喜ばれるものアベルと、兄でありながらも本来弟に従うべきであったカインの関係を組織上の階梯と捉える。通常、アベルというのは信仰や組織において上にあり指令を下すものを指す。アベルへの絶対服従こそ摂理の中にいる人間がなすべきこととされる。

③イサク献祭の教訓。百歳のアブラハムと九〇歳のサラとの間に生まれた子がイサクで、神は彼と契約を立てるとまで言った。しかし、神はイサクを燔祭に献げるようアブラハムにいい、アブラハムはイサクに手をかけようとした時、神はアブラハムが神を恐れるものであることを知ったといった。ここから、最も大切なもの、我が子すら神のものであり、神にお返しすることが信仰、義とされるという。この世のものは全て神のものであり、神は万物を主

管される方であることを強調する。実践信仰としては、自分に所属するもの全てを神に捧げることを信仰の始まりとする。

心情解放展と呼ばれるイベントでは、イサク献祭同様に自分にとってかけがいのないものを献げることが求められる。具体的には、受講生がこれまでの人生における異性関係を告白して罪を悔い改めること、現在交際中の人は別れること、個人の貯金などを統一教会に献金することである。神の祝福によらない結婚は罪と頭で理解していても、この教えを徹底すれば自分が恋人と別れることになるとまで考えてはいなかったろう。この辛い決断をしてしまうと最も親密な人間関係が失われるために、これまでの自分ではなくなってしまう。

人間は客観的な自己というものを所有しているわけではなく、具体的な他者との関係の中で自己を表出することで自分らしさというアイデンティティを維持している。新生トレーニングに参加すること自体、親や友人に話さないように口止めされ、彼等に嘘をつきつつ参加したのであるが、最後の心の拠り所も差し出してしまうと、もはや自分で自分を演出することができなくなるのである。そうなれば、新しい自己は統一教会において再構築するしかなくなる。新生トレーニングにおける新生の意味がこれである。

［実践トレーニング］

新生トレーニング修了生は引き続き実践トレーニングと呼ばれる数ヶ月間の住み込み研修に移る。新生トレーニングにおける学習は、信仰生活の規律を自分の生活に摘要する段階に留まる。献げものはあくまで自分のものである。

実践トレーニング
1　公式七年路程
2　万物復帰・伝道（実践）
3　展示会思想（実践）
4　祝福の意義と価値
5　反対派

ところが、実践トレーニングにおいては統一教会と一般社会との関係において、一般社会の側から献げものをどのように獲得していくのかという対外的活動が主になる。その原理的な説明が講義の主な内容である。

実践トレーニングの講義題目が、統一教会員のなすべき信仰実践を全て示している。公式七年路程とは、統一教会で祝福に与る条件として、万物復帰と霊の子を三人獲得するために特別に用意された七年の期間である。具体的には、統一教会の資金調達活動に三年と六ヶ月、伝道活動に三年六ヶ月、合わせて七年間従事する。展示会とは信者の家族・親族・友人を宝飾品・着物・絵画等の展示会に誘い等、販売促進員となることである。そうした統一教会への貢献があって初めて祝福を受ける参加資格を得る。これは教義上堕落した人間に神が用意された唯一の救済であって、この真理を知り得たことは神の摂理に参与する特権を与えられたのだという。ところが、神の摂理に反対する日本基督教団の牧師や共産主義者達が統一教会の活動を妨害し、信者を強引に棄教させるという驚くべき迫害が統一教会に加えられている。そのために、反対牧師への対策という特別講義が組まれる。今後、家族に統一教会に通っていることが知られ、脱会の話し合いに持ち込まれた際にいかにその場を切り抜けるか、牧師の説得を無視して信仰を維持するかが教え込まれる（広瀬、一九八六）。

ところで、一連のトレーニングにおいて、教義の学習を終えてから最後に実践内容を語

るというのは筋が通っているように見える。語学の学習も文法をやった後に現実の場面でどのような用法・用例があるのか確認するのが普通である。しかし、語学学習者にとって自分の学んでいる言語がどこの国で使用されているのか、どの程度国際的に通用するのかを全く知らないということはありえない。当該国に旅行したり、翻訳小説を読んだり、或いはその言語の話者に直接接触するといった体験が学習への契機となったはずである。これは宗教でも同じであり、当該宗教の活動に出会い、信徒とふれあう中で感化される体験があって、求道の志が生まれるものである。

しかし、統一教会の場合、学びを始めるものが、何を学ぶことになるのか最初に教えられていない。正体を隠した伝道の結果である。そして、セミナー参加へ動機づける各種イベントや学習が組まれ、セミナーを続けて受講することになる。その間、統一教会の諸活動を学習者が見聞し、信徒と自由に交わって情報を得たりすることが制限されている。その結果、統一教会の信者となるものは、宗教（言語）とは知らずに学習を開始し、それが他の宗教（言語）と比較してどのような特徴を持つのか（どこで使用され、話者はどのような文化・歴史・国家を持った人達か）を知らないまま、ひたすら教説（文法）の学習を泊まりがけで行い、信徒としての信仰実践（特定言語を母語に優先して用いる）という選択を最終的に迫られるという経験をすることになる。

言語と宗教では比較の次元が異なるかもしれないということであれば、異なる宗教間の対比でもよい。特定宗教の中身を知るために取り得る方法は次のようなものである。

①宗教教義が教典・経典として公開、出版され、参照可能なものであるならば、それを読み、不明の場合は釈義書や研究書によって教説の理解を深める。

②教えの中身は宗教活動や信仰生活の実態を知ることで推測可能であるから、指導者や信徒にその点を尋ねる。

既成宗教や新宗教においても、①は可能であるし、②も既成宗教の場合は殆ど可能である。氏子や檀家にならずとも神社のお祓いや僧侶の読経は経験したことがある。統一教会では、①は光言社の出版物により参照可能であるが、勧誘される前に読んだ経験があるような市民は稀であろう。②についても、入信前に統一教会信徒から話を聞き及んでいたという人は、おそらく親が教会員である二世信者か、兄弟姉妹のうち先に入信したものから教えてもらっていたような事例である。要するに、宗教実践に関わる何の情報も持たず、与えられることもなく、ひたすら教説の学習を繰り返されてきたのが統一教会への入信者達である。このような教学の学習によってどのような信仰を彼等は獲得することになるのだろうか。少し、一般的な議論を展開してみたい。

私達が学習する過程、学問を行う過程においては、演繹的方法と帰納的方法を適宜分けて使用する。自然科学、とりわけ数学は徹底した演繹的思考を用いる。公理や前提、条件を予め与えて、そこから問題を構成したり、証明したりしていく。それに対して、具体的な自然現象から規則性・法則性を探し出し、物理や化学の基礎学的知見を用いて現象に対して一般的な説明を与えていくのは帰納的方法である。人文学・歴史学・社会科学においては帰納的方法が圧倒的に多く使用される。演繹的方法は数学的証明を用いる論理学や経済学、実験科学に近い社会科学でも用いられるが、具体的な人間・社会に関わる現象と対応させる作業が必然的に伴う。つまり、具体的な諸現象を説明できない仮説や論理に何の意味もないというのが科学の常識であり、どのような精緻な論理の体系であっても、それで説明できない現象や事例が発見されれば、説明の仕方を変更せざるを得ないのである。

学問の話から人間観・歴史観・社会観の獲得といった問題に話を進めてみよう。私達は家庭、学校、職場、地域社会において実際に体験したこと、自分が体験せずとも新聞や雑誌、テレビ等から知り得た情報から、自分と他者との関係を歴史的時間や現代社会の関係の中に位置づけようとする。一般の人達は具体的な事柄から認識を導き出すという帰納的方法を使っている。このような思考方法は経済的ともいえる。つまり、私達が人間や社会、歴史を解釈する枠組みは、家庭、学校、職場、地域社会、同時代のメディアにより与えられており、それらを各自受容しながら自己の人間観・歴史観・社会観を作り上げる。そもそも言語の習得自体、一つの解釈の枠組みを学習しているともいえる。そして、こうして徐々に形成される認識枠組みでは十分解釈できない個人的な出来事を経験したり、社会の出来事を見聞したりしたときに、その枠組みを修正していくのである。新しい経験をしたからといって元の参照枠を全て捨て去る必要はない。使い回せる間は使用し、それが不可能となったら改めて新しい説明の枠組みを考え出そうとする。

こうした人間の諸科学の営みや日常生活の思想から統一教会の学習方法を見ていくと、極めて特異な学習過程に気づく。その特徴と学習者への教育効果に関して列挙してみよう。

①演繹的発想により自然を説明しようとする。創造原理では自然界を陰陽説に基づいて、一から説明しようと試みる。受講生は、生物には雄と雌いて、光と陰があってといった説明を受けて、中学の理科でも復習するような気分でいるが、講師により霊（精神）と肉（身体）、霊界と現実世界の二元論に導かれる。彼等が霊界の存在や祖先霊・悪霊等の働きを否認するには、霊界なぞない、霊の働きなど認められないというだけでは不十分である。陰陽説の二元論を仮定とする以上、霊肉二元論の結論だけを否定しても、導出の論理自体が正しいために理解不足という指摘を

されてしまう。根本原理まで遡って否定できる人は極めて少ないために、受講生の多くは直感的にはひっかかる事柄があっても、論証の過程に圧倒されて疑問を出せないまま、結論を承認せざるを得ないという心境に至るのである。

②堕落論と復帰原理では救済史という目的論により人類の歴史を説明しようとする。創造説を採用する限り、自然にも歴史にも目的が付随するのは当然であり、それ自体問題というわけではない。では、その目的があるとして、どのようにしてそれを人間が知り得るのかという時に、天啓を受けたという人物に尋ねればよい、既に教典に表されているのでそれを読解すればよいという目的の了解方法がある。統一教会の場合は再臨主を称する文鮮明の天啓により、聖書を独自に解釈するという二重の目的についての証明がある。どのような証明や論証を用いようと、歴史に目的を読み込むこと自体、宗教の営みであり、自然史や社会史とは切り離された説話になる。目的論に組み込んだ歴史では、世界各地の歴史的出来事は一つの物語に回収されるので、目的に沿わないことはあるべき状態からの逸脱、すべきことからの逸脱として語られることになる。堕落はその典型的な物語である。

仮に受講生が堕落論や復帰原理を否認しようとした時に、キリスト教的な原罪理解や歴史学による古代や近代の事実理解を持ち出すことも有効な手段となるが、それは教義論や歴史観に関わる論争的事柄として検討課題から棚上げにされてしまう可能性が強い。そもそも、自然や歴史に目的があることの論証まで遡って考えれば、そこには文鮮明がそう言ったという以上の証明はないことに思い至る。ここまで考えが及ぶ受講生は殆どいない。

③統一教会の教説は、自然や歴史を説明領域に加えているために、自然科学・社会科学の認識にも通じるものがあるように、統一教会員はもとより受講生も錯覚している。そのために、日常の生活世界や学問の世界において私達が

普段行っている思考の節約ができない。全て原理原則、目的に遡って考えなければならず、最終的な結論と事実的事柄の齟齬から論理そのものの妥当性を判断できないために、思考に著しい負荷がかかることになる。

受講生達の対処方法としては、これ以上考えることを止めるのが手っ取り早い。実際、幾度質問を繰り返したとしても同じ答えしか返ってこないのである。講師達がこの思考法しか持たないために、受講生の疑問に対して全て理解すれば自ずと解けるとしかいいようがない。双方が思考を停止することで、統一教会の教説は討議すべき課題ではなく、事実として受け入れられるべき事柄になっていく。誠実に受け入れるか受け入れないか。次第に人格的問題、信仰の問題にずらされていくことになる。新生トレーニングでは、この素直に受け入れる、従順な態度が信仰として培われているのである。

このような思考の方法を獲得した後に、受講生達に信仰生活とは具体的に何をすることなのかを示される。今までに聞いた神の話と、信仰実践として示された伝道、経済活動、祝福がどのようにつながっているのか、じっくり考える思考力も体力もなくなっている。学業や仕事に加えて夜の講義、伝道や経済活動の実践など、タイトなスケジュールが組まれているために、睡眠時間さえ四、五時間確保するのがやっとである。これが数ヶ月も継続されれば、統一教会の生活様式が思考様式を強化されることになる。新生トレーニングで述べたような行動規制が内面化されておれば、もはや自分で判断することはなくなり、委ねるかどうか、ひたすら信仰的であろうとするかどうかだけの問題になる。しかも、非信仰的な生き方をする選択肢は残されていない。使命を全うできない挫折感を味わいたくない、知っていてやらないものに与えられる霊界の讒訴を免れないといった感情が、前進の動機付けになっていくのである。こ

の感情的行動の方向付けをさらに強化するプログラムが、伝道機動隊とマイクロ部隊に配属されるという信仰実践である。

［伝道］

統一教会信者にとって、伝道とは自分が勧誘されてきた経路を新しい人達に辿らせることに他ならない。二つのやり方がある。

①家族・友人を展示会やビデオセンターに誘う。展示会では健康器具・食品、宝飾品や着物等が展示販売される。これらは一般的に素人が品定めしにくく、業者にとって粗利が大きい商品である。もちろん、若者はそのようなことを知らない。親も子供にとねだられれば、今まで何一つ親にねだったことがない子がこれほどまでに言うのだからと根負けする。

現在、伝道は、一）個人復帰のために霊の子女三名、二）家庭復帰、三）氏族復帰が天国に入籍するための条件とされている（氏族メシヤ勝利マニュアル編纂委員会、一九九六。松本雄司、二〇〇一）。受講生達は氏族の代表として選抜されてきたと教えられ、氏族を救うことを使命として統一教会の信仰生活を全うする決意を固めるのであるが、現段階では家族を教会に直接誘うことは止められている。彼等が統一教会に入っていると家族に知られることを避けるためである。

②路上でアンケート調査や手相見と称してビデオセンターに誘う。伝道の仕方は講師がまず伝道の心構えを講義し、

受講生達は班長達と共に街頭に出る。当然のことながら、座学で原理講義を習っただけの受講生が人に統一教会の何たるかを伝えられるわけがない。統一教会が受講生達に求めていることは、路上や訪問でともかくも人を呼び止めたり、玄関のドアを開けさせて話をさせたりして、被伝道者をビデオセンターにつなぐことである。

統一教会の伝道方法は非常にシステム化されているために、各教会員が自分で伝道した人を最後まで育成することはない。もちろん、最初に伝道したものが霊の親、されたものが霊の子として、教会員である限り終生交流を持つこともあるのだが、信徒としての育成や組織の中の仕事において直接関わり続けることはない。このために受講生に対して人を呼び止めるだけの役を与えることが可能になる。彼等も呼び止めた後どうするかは班長の判断に任せればよいと言われる。生半可な教義理解や信仰の段階で人を誘うことに躊躇してしまうものにも、アベルの命令を神の意志として従うことが信仰であるとアドバイスすることで人を誘う心理的負担を軽くすると共に、自ら判断しないことを信仰として強化するのである。

見知らぬ人に声をかけるだけではなく、人を勧誘するということには勇気がいる。統一教会に勧誘され、実践トレーニングまで残った人達の多くは、繊細で押し出しの弱い人が多い。こういう人には、「吹っ切れた」という体験を強く勧める。繁華街にて勧誘をする際、声をかけられない人には五〇メートル四方の一ブロックを全力疾走してくるよう命じる。統一教会で教えられた文言を叫んでもよい。信仰の告白という意味もあるが、羞恥心、世間体を捨てさせることの効果も大きい。何だろうと奇異の視線で見られたり、無視されたりすることで、通行人とは違う種類の人間にならざるを得ないのである。

統一教会の伝道勝利十則の五番目に次のような文章がある。「街頭ではゲストのメッタ打ちに耐えよ。この精神的な打撃を神と共に耐えられるか、耐えられないかが、勝利への道か、敗北への道かの重大な岐路である。そして、常に新規伝道を忘れるな。新規伝道を怠る成約聖徒の行き先は、敗北と転落と侮辱と堕落しかない。（郷路、一九九三、二二九）」

ゲストとは通行人のことで、殆どの人はキャッチセールスと同様に見られるアンケートや姓名判断に立ち止まることはない。一〇〇人に声をかけても立ち止まる人は一〇名、話を聞くことが出来る人は二、三名いるかどうか。ビデオセンターまで連れて行ける人は一名いるかでいないかであろう。日中ならまだしも深夜にまで及ぶ声かけに足を止める方がおかしい。なぜ、これほど非効率的な勧誘を統一教会は三、四〇年にもわたって続けてきたのか。ここに統一教会独自の信仰強化の機序が隠されている。伝道勝利十則の文章を元に段階的に考察を加えよう。

①受講生達にとって無視され、バカじゃないか、迷惑だと非難され、さらには変な団体に掴まった可哀想な人達と蔑みや哀れみの視線を投げかけられることは、屈辱というよりも自分の全人格やこれまでの人生を否定されたに等しいショックである。何度も言うが、受講生達は育ちもよく、学業、仕事も人並み以上にこなしてきた模範的な学生、市民であった。この落差には耐え難いものがある。やーめたと言って立ち去りたい気持ちになるものがほとんどである。しかし、この段階でスッパリとやめることができない。

②あなたの屈辱は神の屈辱、悔しさは神の悔しさ、神様は六〇〇〇年間もこの辛さに耐えてきたのだから、あなたも耐えて頑張って欲しいという「悲しみの神」が統一教会信徒の口を通して語りかける。受講生達には伝道の心得と

して、事前に或いは精神的打撃を受けたときに先に述べた「お父様の詩」と共に繰り返される。ここで受講生達は神体験と統一教会が歩んできた苦難の路程を体験したのだと言われる。

③受講生達は神と同じ歩みを自分も行おうと我を奮い立たせるものと、まだショックを引きずるものに二つに分かれる。しかし、後者のものに与えられる言葉は「敗北と転落と侮辱と堕落」である。あなた方はただの人ではない。もう神の摂理を聞いてしまったではないか。復帰原理において、摂理に失敗した人間達の末路をいやというほど聞かされている。霊界で祖先達が嘆き悲しむのはもちろん、讒訴という災いすらもたらしかねないとされている。受講生達はさらにここで二つのグループに分かれることになる。どんなに自分として辛くともこの道を全うしようと決意し直すものと、敗北感・喪失感をもって教会から脱落するものである。

統一教会にとってこの伝道方法は信仰育成と同時に信徒のスクリーニングをも兼ねている。どのみちお荷物になる信者はいらない。先の伝道勝利十則の二に統一教会が求める信徒像が明確に示されている。「伝道師こそ神とサタンの戦いの最前線の戦闘部隊だ。血と汗と涙の決死的なすさまじい行動こそが勝利の道だ。小手先の小理屈など、いっさいいらない。（同上、二二八）」

社会心理学的解釈を施すなら、統一教会における信仰強化は認知的不協和の意図的・効果的な利用とされよう。つまり、自尊心を剝ぎ取るような状況に受講生を追い込むことで、彼等の自己認知や世界観を大いに揺さぶる。この状況に耐え難いのは、状況を説明する言葉を受講生達が持っていないからである。やめたい、どうにかしたいという受講生達の心理をバネに使う。すると統一教会の神観、救済史観を提示したとたん、彼等はそれにすがる。すがりたく

ないものにもサイド・ストーリーを提供する。信仰を強化し、離脱にも歯止めをかける。伝道実践こそ信仰を作っているのであって、信仰が出来たから伝道しているのではないことが了解されよう。

実のところ、このやり方は統一教会独自の方法というよりも、教勢を急速に拡大する新宗教が採用する典型的なやり方でもある。在家主義の宗教団体において布教の戦力は一般信徒である。彼等の教化と教勢拡大を一挙に成し遂げる方法として幾つもの教団がこのやり方を採用し、成果を上げてきた。但し、限界はある。それは信仰の育成という面で深刻な問題を含み、長期的には教団の組織構造や教勢にも影響を及ぼす。

簡単に言えば、信仰が自己の心の問題として育っていかないということであろう。常時布教を行うなかで、相手が自分を受け入れてくれるかどうかにのみ心を砕き、受けてくれれば神が働いたと感謝し、受けてくれなければ神の悲しみとして自分を慰め、奮い立たせる。布教をしていなければ、自分の信仰の所在を確認する術を持たない。どんなに拒否されてもめげないというだけではセールスマンとどこが違うのかという話になる。しかも、常に業績を追求され、実績において評価されるという点でも普通の会社と変わらない組織になる。短期的に売り上げだけ延ばせばよいというのであれば、説得の技法や口上のみ磨けばよいということにもなる。

しかし、この世のトップセールスマンは良い商品を良心的に訥々と語り、顧客との信頼関係でネットワークを広げていくのが王道と言われている。そういう人材を抱えれば企業は伸びるだろうが、商品があっての話である。教団においても、布教において提示する宗教の中身や、布教した人との信頼関係が非常に重要になるのであるが、こと統一教会において教説の中身を示さず、信頼関係も構築せずに布教活動することを命じているのであるから、信徒も教団も長期的成長は見込めないのである。統一教会が現在の勢力を保つことができるのは、ひとえに少数ではあれ、「血と

汗と涙の決死的なすさまじい行動」を志す信徒の養成に成功しているからである。

信徒養成のもう一つの戦略がマイクロによる物販である。

［マイクロによる訪問販売］

統一教会の資金調達活動には、一）定着経済と呼ばれる企業経営、二）霊感商法と批判される訪問販売、三）マイクロ部隊による訪問販売の三種類がある。一）は祝福を受けた統一教会幹部、二）は壮婦信者や祝福前の青年信者がやることが多く、三）が実践トレーニングの仕上げや青年信者による短期・長期の資金調達活動に用いられる。短期の場合、マイクロ部隊で二、三ヶ月訪問販売に従事すれば売上金のリベートが得られるので、青年信者が祝福献金として貯めたり、祝福後生計維持に困る信者が従事したりした例もある。長期の場合は、本部教会員で経済担当という人事になり、数年にわたってマイクロ部隊に専従するケースである。

統一教会は花売りの延長線で原価数百円の珍味や茶・コーヒー、ハンカチ等を数倍の値段で売ることを考えたと思われ、一九八〇年代にはマイクロ部隊は主要な資金調達活動になっていた。以下で、典型的なマイクロ部隊の訪問販売法と信徒の教化方法について説明を加えていこう。

マイクロはマイクロバスの略称であるが、実際はタウンエース・クラスの一〇人乗りバンを改造した車に六、七名の信徒を乗せて訪問販売部隊として全国を行脚する。後部座席三列分の椅子を倒してその上にカーペットを貼ったベニヤ板を敷き、フラットな空間を作る。昼間はそこに座って移動し、夜間は寝袋を使って鰯の缶詰よろしく頭と足を互い違いにして寝るのである。

マイクロ部隊の行程は一回につき短ければ一ヶ月、長いものは二、三ヶ月に及ぶ。一つの町で訪問販売を行なったら、次の日は隣の町へと一日単位で移動し、一ヶ月弱で一つの県を終えることになる。マイクロ部隊は「フロントライン」と呼ばれる経済活動の前線だけで最盛期に九隊あったとようで（郷路、一九九三、二三八）、地域が重ならないように（せいぜい数ヶ月に一度の訪問販売がなされるよう）中央でおおまかな配置計画を考えている。

部隊の隊長は男性であり、ドライバーでもある。隊の行動計画を立案し、販売地域の策定や、商品在庫管理、隊員の実績管理、食事準備等の一切を行う重責を果たす。販売商品は最初にハイエースに積載するが、一週間程度で販売完了するし、商品によって売れるものと売れないものがあるので在庫に偏りが出る。隊長は本部に売り上げ実績の報告と一緒に商品の発注も行い、適当な時期に訪問地域で商品の小包（郵便局の場合は局留め）を受け取る段取りとなる。隊員の実績管理とは、隊員が日中訪問販売をしているときは二時間おきに商品販売実績について報告を受けることになっているので、その都度適切な指導やアドバイスを行って全体の実績をともかくあげるという業務である。携帯電話が普及する以前は、部隊全体を管轄する本部の固定電話に公衆電話から隊員がかけて本部に報告し、隊長も本部にかけて状況を確認するという手段しかなかったろうから比較的ルースな管理であったろう。現在はリアルタイムで管理可能である。

隊員の業務は、生理的時間以外を全て訪問販売に充てることでしかない。下記にマイクロ隊の一日のスケジュールをまとめておいた。

マイクロ隊は公園や駅の近くで野営する。公衆トイレが使えるからである。隊長は前席で足を折りたたんで寝るか、小テントをはって寝る。隊員はハイエースの中に寝る。暖かい時期であれば、キャンプのように外で自炊用道具を用

マイクロ隊のスケジュール

05：30	起床・洗面（公園・駅のトイレ）
06：00	祈祷、朝食
07：00-08：00	任地ごとに信徒を下ろす
08：00-12：00	訪問販売
12：00-12：30	昼食（弁当各自）
12：30-20：00	訪問販売
20：00-22：00	夕食、ミーティング
23：00	就寝

いて朝食や夕食の支度を隊長中心に行うが、冬ともなればスーパーの総菜を買って食べることになる。マイクロ隊は北海道でも活動するので、厳寒の時期の野営は厳しい。隊員達は寝袋の中に毛布を入れ、蓑虫よろしく完全にくるまって寝るが、それでも寒い場合は隊長が車のヒーターを入れる。本州の夏は車の中で寝るのも一苦労である。窓を開放すれば蚊や蚋に刺されるし、窓を閉めれば汗と体臭でものすごいことになる。隊員達がこの環境で寝ることができるのは、慣れもあるが日中歩き通しの疲れのためである。

早朝、こわばった身体を伸ばし、トイレで手早く洗面を済ませて隊長が用意した食事を済ませるか、車で移動しながら朝食を取る。一人一人、任地と呼ばれる活動地域で地図を渡されて下ろされる。朝から人がいるところとなると、これは高齢者世帯が主になる。隊員達は商品を入れたザックを背負うか二つの手提げを手に持って、一軒一軒回るのである。

玄関先で呼び鈴を鳴らし、家人が出てきたところで次のような台詞を言う。「○○のものですが、お茶を売って歩いております。すごく上質で高価なお茶なのですが、生産者さんから直接分けてもらうことで安価に皆様におとどけすることができるようになりました。よろしかったら、お湯を貸していただけないでしょうか。試飲していただいてよろしければお買い上げ下さい。」試飲してくれれば、だいたい買って

くれるものである。口上のバリエーションとしては、しんぜん会というボランティア・サークルの部隊であれば、「福祉に役立てさせていただく目的でハンカチを売っております」となるし、コーヒー販売であれば、「アフリカの経済自立に役立ててもらおうということで良質のコーヒー豆を販売しております」ということになる。

訪問販売で最も多かったのが珍味販売であるが、これは口上が難しいだけでなく、スーパーで買ったら数百円のものを二千円くらいで売ろうとするから殆ど売れない。山村で訪問販売車しか行かないようなところであれば売れるかもしれないが、家と家が離れすぎているために回る効率が悪いのでそもそも行かない。手近で買える品物を原価の数倍の値段で売るのであるから、どだい売れないのである。

ところが、隊員達は一日数キロ単位で売る。キロとは万円の意味である。どのような方法により不要不急で割高な品物を売って歩いているのであろうか。かつては土下座トークといって、買ってくれるまで土下座をしてでも粘るというやり方を取ることもあったらしいが、警察を呼ばれて押し売り行為が問題化されて以来この方式は採用していない。或いは、玄関を開けたとたんにアルプスの少女ハイジを歌い、踊りながら入っていき、家人があっけにとられているうちにトークを行うという方法もあったらしいが、これもそれほどの効果があったとは思えない。本筋のやり方は、伝道同様にできるだけ多数の家を回り、脈があれば長めのトークをし、全く買う気のない家はすぐ出るということを一日中繰り返すしかない。一〇軒回れば一軒は話を聞いてくれるし、そこで家の人と感情的な交流ができれば、売れる可能性がある。

隊員は男性より女性が多いのは、統一教会員は女性が三分の二を占めるということもある。しかし、女性の方が押し売りと間違われないし、何より、夏は真っ黒に日焼けし、冬は青白い顔をした若い女性から必死の笑顔で買ってく

ださいと言われれば、わけありなのだろうとお金を出してくれる人がいるものである。

隊員の中にはなかなか買ってくれる家がないので実績が上がらず、隊長から叱責を受けて、自らを鼓舞するために走って家々を回るものがいる。一日に歩くか走る距離は一〇キロを超える。そのため、足を酷使しぎて歩けなくなるものも出てくる。

痛む足を引きずりながら、買ってくれる家を求めてただひたすら回る隊員達であるが、疲労困憊している身に世間の冷たさ、暖かさはよけい身にしみる。玄関口のインターホン越しにいいですと言われるだけならダメかで済むが、家人から面と向かって「要らない」「そんなもの売れるわけがないだろ、バカじゃない」「ホントは何やってんの」と立て続けに言われれば心も痛む。そういう時にようやく同情して買ってくれる家にたどりつくと、ホッとする。神様が導いてくれたのかという気にもなる。「この世のものを神に返す(万物復帰)ために自分が必死で走っているけども、多くの人は分かってくれない。神様の心情もこのようなものだったんだ。」と悲しみの神に寄り添う体験をここでする信者は少なくない。実践トレーニングの講義で話される内容や隊長の言葉は、マイクロ隊初心者にそのような神体験を促すようなものが多い。

しかし、統一教会の献身者はそのような追体験程度では甘すぎるとして叱責されるであろう。神が求めるのは実績だけで、実績を出せないものに天は居場所を与えないとはっきり言うであろう。以下の文章は、朝の出発式の際に隊員達は大声で唱和するものである。

一人の隊員が叫んでその後に他の皆が叫ぶ。最後に、一人一人が今日は何キロ出しますと目標を叫ぶ。そして、神と文鮮明夫妻、中心（団長）に挨拶して終るようである。それから訪問販売に出発し、日中から夕方遅くまで活動し

完全投入の誓い

「完全投入」（先生＝文鮮明）
同じ戦うなら目標を立ててやるんだ。
神と〝中心〟の前に必ず成し遂げる事を誓ってやれ。
やれなければ死んでしまうという真剣勝負の心が必要、冒険的、挑戦的生活が必要。
一心不乱に祈れ！
気狂い（きちがい）の如くやってみよ！
そうしたら先生が〝啓示〟して教えてくれる。
〝霊界〟が先生を証しようと準備している。
み旨のため死んだ覚悟でとび込め！
そうすれば生きる。
ふらふらしていると本当に死ぬ。
先生はみ旨の為、いつも無理している。
ある時はたまらない程体の調子の悪い時がある。
しかし疲れて死んだとしてもそれはみ旨だ。
だから死んでもっともだと思う。
ありったけの力を尽くせ！
力が完全に尽き果てた時、神の前に完全にマイナスとなって再び生きてしまう。
それが原理だ。
だから絶対的信仰を持ってやれば、あとの責任は神が持つ。
故に自己の限界に挑戦せよ!!（一回目）
（隊によって、最後の自己の限界に挑戦せよを三度繰り返す）
自己の限界に挑戦せよ!!（二回目）
自己の限界に挑戦せよ!!（三回目）

出典　川崎経子『統一教会の素顔』P.85

てから、また集まって実績を報告し、キロ数が出ないものは、信仰が足りないがゆえに実績が出ないと反省の弁を皆の前で述べなくてはならない。死ぬ気でやれば昨日まで上げた実績の限界を突破すると朝に誓ったわけである。

しかし、よく考えてみると、常に限界を突破することを目標にされればほどなく目標に達して、後は実績の伸び悩みが目に見えている。既に述べたように販売実績を上げるために統一教会が採用している戦略は、商品開発でも販売方法の革新でもなく、ひたすら訪問件数を体力・気力の限界まで増やすことだけである。隊員が頑張って買ってくれない客を見切る能力を身につけ、買ってくれそうな客をその気にさせる口上をどれだけ身につけたとしても、一日二〇〇軒回った人が、翌月に四〇〇軒回るのは無理である。そうすると大半の隊員が夜な夜な信仰不足を神に詫びることになる。神が働いて実績を上げられるのは新人隊員の数ヶ月でしかない。このような訪問販売活動は、統一教会の資金調達や信徒育成にどのような効果をもたらしているのであろうか。

①この経済活動は新商品を生み出すわけでも、食料品や日用雑貨等を手に入りにくい地域に届けているわけでもないから、社会的富や利便性を生み出さない。しかも、経済活動従事者に知識や技術が蓄積されないし、売り上げの大半は統一教会にいくのであるから、労働者側からすればやるに値しないマニュアル・ワークである。逆に経営側から見れば、殆ど資本を投下せずに労働力を投下するだけで金が稼げる。隊員一日あたりの売り上げを四万円（粗利が三万円）だとすると、一月に隊員が稼ぐ金は三万円かける二五日で七五万円。三分の一をリベートとして隊員に還元しても五〇万円が残る。一台六名の隊員で一〇台が同時に稼働したとして、五〇万円かける六名で三〇〇万円。これが一〇台で三〇〇〇万円。一年では三億六千万円になる。隊長含めて七〇名の社員に管理職数名の会社がこれだけの純

益を上げるというのはかなりすごいことである。この計算は隊員に二五万円のリベートを月々支払うことにしているが、そういう還元は一切受けずにマイクロ隊で数年を過ごした統一教会員もいたので、年間五―六億円相当を統一教会は稼いでいた可能性がある。

当初、このビジネスモデルは統一教会の主要な資金調達活動として利用され、原理研究会のような大学生組織においても手っ取り早い稼ぎ方として重宝された。しかし、実はたいしたビジネスではない。姓名判断・家系図診断による物品販売や献金要請等の方がはるかに効率よく一つの地域で月に億単位の資金を稼ぎ出しているからである。では、なぜ、マイクロを継続しているのか。

②マイクロ隊の主要な活動目的は、統一教会員の信仰訓練と短期的な生活資金稼ぎである。信仰訓練という面では、伝道同様に統一教会の神観念を内面化させ、指導者の指揮系統の範囲内で活動するよう信者を教化できる。統一教会もこの活動では人的資源の摩耗が著しいことを分かっているために、体力以外で稼げる信徒を長期間ここに配属することはない。

体力に恵まれた健康な若者であっても、数ヶ月の窮屈な雑魚寝、移動による腰への振動、歩き・走ることから来る足腰の筋肉疲労、低栄養な食事、夏でも二日に一度、冬では数日に一度の銭湯といった不潔さ、何よりも常に精神的に追い込まれた状態で息が抜けない環境に、多くの信者が心身の健康を害することになる。そもそも青年の献身者は健康保険に加入していないので医者にかかりにくい。病気を悪化させたあげくに清平の研修会を勧められてさらに献金を絞られる例も少なくない。治らなければ所属教会への帰還命令が出され、教会は親元へ連絡して引き取ってもらうことになる。信徒は挫折感を抱いたまま帰るのである。

現状では実践トレーニングの総仕上げとして、また、祝福前の青年信者や生活費に困窮する比較的若い祝福家庭の信者のために、二〇年来やられてきた訪問販売法が残されている。伝道に通じている信徒であれば誰でもできる業務であり、しかも実績を上げられる。

［信仰が生まれるとき］

マイクロ部隊に所属している信徒の信仰は、統一教会における末端信者がどのように信仰を獲得していくのか、その過程を凝縮して示しているように思われる。以下では、一九九〇年初期にマイクロ部隊に所属した元信者の記録から、信徒の信仰形成を考察してみたい。この女性が統一教会を脱会する際に持ち出した私物にマイクロ活動の記録とマイクロ隊で書いた反省文が含まれていた。家族との話し合いにより脱会を決意し、統一教会に脱会の通告と私物の返還を求めた場合、統一教会活動中の記録は抜かれて私物が戻されることが多い。この人の場合はチェックが甘かった。なお、元信者が特定されないよう隊の名称、西暦年、販売品目、購入者名に関わる情報の提示は控え、日時、場所、販売目標額、実績額、その日の信仰的スローガン（記載のあるとき）のみ記したい。一九九〇年頃の物価水準で販売目標額・販売実績額を見ていただきたい。一九九〇年の地域別最低賃金平均は、日額四一一七円である。マイクロ隊の目標売り上げが二万五千円。先に述べた粗利率から計算すると、一人あたり一万六五〇〇円の利益になるから、最低賃金の四倍の収益を求めて活動していたことが分かる。

この女性は九月一七日以前も、一〇月二九日以降もマイクロ隊に配属されているが、記録はその間のものである。休日は、九月一八日、一〇月一、二日、九日、一八日であり、一ヶ月に三日間が休みであることが分かる。目標額は

表 4　マイクロ隊の活動

日時	場所	販売目標額	販売実績額	隊のスローガン	個人のスローガン	就寝前の所感
9月17日	札幌市	2.5万円	2.1万円	私は御旨を愛します	神様に委ねて歩みます	
9月19日	砂川市	2.5	1.2	神の子として神の悲しみを担当しよう	神様を求めて歩む	
9月20日	砂川市	2.5	1.2	同上	愛を授けに行きます	
9月21日	上砂川	2.5	3.0	同上	神様の心情をたずねてみます	
9月22日	深川市	2.5	2.5	素直に感動し、感動を与えよう	真を尽くす	
9月23日	深川市	2.5	1.7	同上	サタン分別をする歩みをします	
9月24日	旭川市	2.5	1.4	同上	精誠を尽くして歩む（今の自分にふさわしいみ言葉をください）	今の自分にふさわしいみ言葉をください。
9月25日	旭川市	2.5	0	主と共に苦労できる時を	神様に感謝して歩みます	
9月26日	旭川市	2.5	0	常に前進、常に発展しよう	任地を愛し続けます	低いからといって悲しんじゃいけない、高いからといって喜んじゃいけないと言われた。
9月27日	旭川市	2.0	1.6	同上	侍る心情で歩みます	自分の心情が聖別されないとすれば迫害してください。
9月28日	旭川市	2.0	1.0	天の祝福を周辺に集結させよう	投入して歩みます	苦しいときは歌いながら。苦労は自分の責任分担。
9月29日	旭川市	2.5	2.3	同上	自己主管して歩む	前線の苦労の土台の上に主権復帰される。より苦労する方へ。
9月30日	滝川市	2.5	1.4	同上	感謝前進	神様と御父母様と人類と兄弟姉妹を愛します。
10月3日	札幌市	2.0	0	天宙の大家族を目指し、○○隊大家族を形成しよう	任地を愛します	任地を信じ切る。否定に強くなる。自分の心情をかわいがらない。献身しているものが先駆けて取り組む。
10月4日	赤平市	2.5	1.2	同上	真っ正面から取り組む	苦痛に負けないでつらぬいたら勝利。同じ否定が続いたら必ず物が出る確信。

日時	場所	販売目標額	販売実績額	隊のスローガン	個人のスローガン	就寝前の所感
10月５日	芦別市	2.0	1.5	同上	神様と中心をなぐさめる歩みをする	私が復帰したＧ（現金）は天国建設にも使われ、障害者のためにもなる。皆が貢献できる。
10月６日	富良野市	2.5	1.4	神様と御父母様を代身し、天運を動かそう	否定を受けに行きます	私が最前線でできることは苦労である。寝るな。私が妹の分も刈り入れないといけない。
10月７日	上富良野町	2.5	1.1	同上	苦労しに行きます	堕落性の強い自分であるからもっと否定されなければならない。否定してくれて感謝。
10月８日	美瑛町	2.5	1.3	同上	神様を慰める歩みをします	実績を上げる人を自分のごとく喜べたら神様は与えざるを得ない。心情をチェック。
10月10日	旭川	2.5	1.8	真の愛を中心として苦労しよう。犠牲になろう。	苦労を感謝して歩みます	神様の悲しみを知った。二度と離れませんと誓った。少しでも負債を清算する歩み。
10月11日	和寒町・剣淵町	2.5	1.4	同上	神様を慕い求めて歩みます	自分のためにもう泣きません。神様のことを思ったら泣きません。
10月12日	士別市	2.5	0.6	同上	感謝前進します。	真の家庭づくりをするんだ。だから絶対に否定に負けない。前進的発展するんだ。
10月13日	士別市	2.5	1.0	まず、神様の立場を考えよう	神様と中心を慕って歩みます	愛したいのに否定される忍耐の神様。
10月14日	風連町	2.5	1.1	同上	神様を求めて歩みます	好きな任地で否定される。中心が勝利するために否定されたらいい。
10月15日	名寄市	2.5	1.6	同上	苦労を感謝して歩む	否定されても愛していく神様。
10月16日	名寄市	2.0	1.3	真の愛を中心として神様と御父母様に侍ろう	神様の心情を求めて歩みます	神の国と義を求めて、何も考えない。
10月17日	雄武町	2.5	2.7	同上	同上	苦労している他の兄弟姉妹のことを忘れない。
10月19日	紋別市	2.5	1.1	同上	精誠を尽くして歩む	お父様に条件を立てたいと思った。
10月20日	紋別市	2.5	1.0	良心は私の神様	良心にたずねながら歩みます	Ｇを明確に意識することで外的歩みにおいてうばわれなくなる。
10月21日	湧別町	2.5	1.4	同上	お父様の苦労をなぐさめる歩みをします	愛する実践。マイクロは自分を育ててくれている。

日時	場所	販売目標額	販売実績額	隊のスローガン	個人のスローガン	就寝前の所感
10月22日	遠軽町	2.5	2.5	同上	御父母様を慕って歩みます	相手は分からないけど思い切り語る。
10月23日	北見市	2.1	1.0	同上	投入して歩みます	否定されきると実績をもらえる。
10月24日	北見市	2.5	1.0	心の願いに生きよう	思い切り歩みます	歩んで軒数を回って用意された人に出会うか、より否定される道を行って霊界の共助を得るか。
10月25日	北見市	2.5	0	真の愛を中心として判断し、行動しよう		辛いと思わせて歩めなくさせているのがサタン。自分以上に苦しんでいる人がいる。
10月26日	美幌町	2.0	2.3	同上	神様を求めて歩みます	成約時代は聞いてあげ、受け入れて、共感してあげ、愛する。
10月27日	網走市	2.5	1.9	同上	お父様の為を思って歩みます	いかに蕩減条件を積むか、苦労するか。
10月28日	網走市	2.5	0.3	水沢里の勝利を祈りつつ歩もう	お父様を慕って歩みます	

一日二万円から二万五千円であるが、四〇日の稼働日のうちで目標を達成した日は五日のみ。五千円以下の日も六日あり、うち四日は売り上げゼロだった。平均売り上げ実績は、一日約一万二八〇〇円。マイクロ隊の中では稼げない方である。とはいえ、当時の最低賃金の三倍は売り上げているのであるから、自身のリベートが全くない時代、特段の技能もない労働者の二倍の稼ぎをしたといえる。しかしながら、目標額が常に最高水準にあるので毎日反省の日々が続く。この女性は、毎朝メモ帳に隊のスローガンを書き、重ねて自分の目標を記し、その後に買ってくれた人の名前や場所を書き留めた後に、就寝前の気持ちを最後に書き記していた。その一部のみを抜粋して文言通り表には記載してある。

次の資料は、この女性がマイクロ隊における月例の反省文、証し文、決意文として残した文章である。計二隊分があるが、要点のみ抜粋する。なお、前に掲載したマイクロの記録とは別の隊であり、複数年度にまたがっている。

月例の反省文や証し文は毎日の所感を月ごとにまとめたも

「何の為にマイクロに来て、何の為にこのみ旨を歩んでいくのか、信仰生活の全てをマイクロの中で見せられる思いでした。人間関係の縮小体がマイクロであり、信仰生活の原点がマイクロであるなと感じました…前日の悔い改めと決意で次の日の歩みが変わるということも感じました。（七月度　反省文　〇〇隊）」

「全体を意識した中で四.〇導かれたときの証しを書きます。(中略　役所で販売を許可され、四万円を売り上げた。この日の隊の平均売り上げは三万円）全員の心情一体化と公的意識で導かれた実績であり、恵みであったなと思いました。神様が用意した内容に対して、いつも投入して闘ってゆける自分でありたいと思いました。(七月度　証し文　〇〇隊)」

「内的目標　どんな環境でも、喜んで感謝して、神様の為に歩みます。外的目標　五〇（万円の意)。(八月度　決意文　〇〇隊)」

のといってよい。その時々に出てくる統一教会特有の文言は、朝晩の祈祷や隊長の説示により隊員の脳裏に焼き付けられたものである。この女性が所持していた統一教会の小冊子には、次のような文鮮明の一節がある。

統一教会信徒の信仰の特徴及び彼等が信仰を見つける方法をまとめよう。

①マゾヒスティックな信仰である。客観的にはさして商品価値のない雑貨を飛び込みで朝から晩まで売り歩かせられ、家人から「否定」的言辞を受けたり、売上実績という「否定」の数値を追求されたりする。叩かれれば叩かれるほど、その信仰は正しいもの、価値あるものと信徒が思いこむように教え導く教説とシステムがある。

②体験主義的な信仰である。数値で信仰の度合いが示されるために、信徒の心情は安定することがない。不安を解消し、自分を慰め、この状況に意味を与えてくれる教説を希求するような状況を常に作り出しているのが、伝道でありマイ

「決意した内容に対して闘いきれず、千葉県という任地を愛しきれなかったように思います…家庭問題もありますが、問題がもしなかったとしたら、人間的な家族愛で満足してしまって、神様を必要としなかったかもしれません。全て与えられた環境なのだと感じることができました。マイクロの中でしか出会えない神様とたくさん出会ってゆきたいし、より心情因縁を持ってゆきたいと思います。（八月度　反省文　〇〇隊）」

「歩みが申し訳なくて、たくさん神様は用意してくださったのに、私が五パーセントの責任分担をはたしきれないために、たくさんの出会いをのがしてしまったように思います…最終日は北海道の登別市でした。その日がお祖父さんの命日なんだというおばあちゃんがいて、スカーフを買ってくださいました。その方もこころよくジュースをくれたり、麦茶を飲ませてくれたり、そして励ましてくれました…霊界の協助（ママ）を感じました。（八月度　証し文　〇〇隊）」

「内的目標　神様の前に自分の責任を果たしていきます。外的目標　五〇（万円）。（九月度　決意文　〇〇隊）」

クロである。導かれる人や売り上げがあれば神の恵み、霊界の共助であり、なくても神が与えてくれた試練となる。

③途中で離脱するものに計り知れない後ろめたさを残す信仰である。神、真の父母と称される教祖夫妻、教団幹部、隊長等の上司に常に心情や行動を見通されているという心理状態において逃げ場がない。逃げるものが受けねばならない報いは、現世の一族郎党はおろか、霊界の先祖達全てに及ぶと言われているので、いったんこの信仰に囚われると責任感の強いものは投げ出すことができないのである。

以下の節では、②と③をリアルに現出する統一教会の霊界観・霊に関わる儀礼を見ていくことにしたい。

苦労の道

たくさんの人の中にいて、幸福なのは普通である。
たくさんの人が去って行き、一人になってしまった時、
自分が間違っているのかと思う時、
困難にぶつかって、みんなそれを越えられず去って行く。
その時、神にただ聞いていくのである。
神を見つけられずに去って行った人が見つけられなかったのだから、
その人が行かなかった道を行かなければならない。
誰もが行けなかった拷問のような道を行けば、
神に出会うのである。
原理を見つけるまでは、闇の中を誰も知らない苦労の道を通って来た。
神は普通の人と比べて、
この所まで来たらお前を認めると言われた。
この蕩減の道を行った時、神は最高の恵みを下さった。

1975,10,14

四　統一教会における霊界の実体化

四―一　霊能師になった信徒

［霊能師］

実践トレーニングを終えた信者達は、家族等の状況（監視・反対が強い等）や本人の職業（弁護士・医師・大学教師等の専門職や会社・役所の管理職等、後々教団が使える職種）を勘案して通教を勧めるもの以外は、献身の道を強く勧められる。そして、もらう一枚の紙がこれである。

この教会員証をもらう頃には、既に自宅を出て統一教会のホーム生活を始めている。献身後の統一教会員のライフコースとしては、①伝道機動隊で新規の伝道を担当する、②マイクロ隊で訪問販売を担当する、③統一教会系の企業で会社員として働き、給与を献金する、④姓名判断・家系図診断による信者や篤志家獲得に従事する、⑤統一教会の支部や本部で会計・総務を担当する等が用意されている。本人に選択の余地はなく、全ての人事は本部が一括管理する。部門や支部ごとにこの種の人材が欲しい等の要望をあげることはあっても、当人の意向で行けるのはマイクロ隊くらいであろう。①と④ではビデオセンターや霊場、展示会等において、ゲスト対応の霊能師役をやる信徒がいる。

一般の青年信者が人の好さそうな素朴な感じを漂わせているのに対して、霊能師役をやる女性達はスラッとして目鼻立ちが整い、如才なくサラッと話せるタイプであることが多い。筆者は脱会後十数年経った三名の霊能師役をやった信者にインタビューを行ったが、当時は巫女さんの雰囲気すら漂わせていたのではないかと思われた。男性の霊能

教会員証

本部教会認定証

○○　○○　殿

あなたは所定の資格審査に合格し統一教会の本部会員として認められましたのでここに証します

一九○○年○月○日

宗教法人　世界基督教統一神霊協会

会長　久保木修己

師もおり、能弁のものか非常に個性的な人達がやっていたという。

霊能師達はトーカー団というものに所属している（霊感商法被害者救済担当弁護士連絡会編、一九八九、四八）。トーカーとは「○○先生」と呼ばれ、ゲストにトークをする霊能師専従の信徒である。彼等はトーカー団専用のホームに起居し、霊場や展示会場等の施設にマイクロバスで朝晩送迎され、そこでトークに専念する。一般の献身した信徒が地区の教会や施設で生活する場合は、ふとん一枚に二名が雑魚寝するといった環境であるが、トーカー達は二段ベットの一つをもらい、霊能師にふさわしい衣装や化粧品を収めるスペースがあてがわれた。月に一、二日の休みであるが、研修名目で温泉にも行ける、小遣いも余計ある等、マイクロ隊に比べれば献身者としては上の生活をしていたのである。

そのような差別的待遇が可能になったのは、彼等が稼ぎ出す金額がマイクロ隊の隊員や地区の担当者とは比べものにならないからである。担当者とは、地区と呼ばれる商品の販売組織が管轄しているエリアで一軒一軒訪問して姓名判断を行い、霊場や展示会までゲストを連れてくる信徒のことをいう。彼等はせいぜい数万円から数十万円の印鑑を販売するだけであるが、そこでさらに家系図診断や運勢の鑑定を受けることにしたゲストを

トーカーにつなげることで一挙に数十万円、数百万円単位の商品販売や献金に一般市民を追い込む。それを可能にするのがトーカーの霊能トークである。

［霊能トーク］

統一教会の霊能師に霊能はない。もちろん、信徒として深い霊的体験を持つものもいるが、日本で活動している青年信者にシャーマン的素質や操霊の技法等を持つものは皆無である。彼等は上司により、いかにも霊能師役がはまりそうな信者として各部門から選抜され、霊能師としていっぱしの口上をゲスト相手に操れるよう訓練されたのである。

まずは霊能師役の介添えを務めながら、話し方（統一教会ではトークと呼ばれる）を学ぶ（真似から入る）。この役柄を統一教会では洗礼ヨハネの役と考えており、霊能師である先生を証しするトークをヨハネトークという。霊能師としてゲストに受け入れられるかどうかはひとえにヨハネトークの出来映え次第であり、確信をもって「この先生は大変な霊力を持った方であり、なかなかお会いすることができないのだけれども、今回は○○さんのために特別に鑑定をしてくれることになったのです」と証す。統一教会では洗礼ヨハネの失敗によりイエスはメシヤとしての道をはじめから歩むことができなかったと考えている。

伝道でもマイクロでも、道行く人に立ち止まってもらい、見知らぬ訪問先の人に数百円からせいぜい二、三千円の品物を購入してもらうだけである。それほど高いハードルを課すわけではない。しかし、鑑定のトークでは、数万円の商品の購入やビデオセンターにおける学習をゲストに決断させるだけのプッシュが必要である。単に霊能師の先生ですと紹介してもらうだけではだめで、それからゲストに本物の霊能師と思わせるようなトークを行い、優柔不断な

販売マニュアル

項目・分類	トーク及び留意点	例話法・応酬話法
アプローチ	＊多数いる場合はできるだけ切り離して鑑定すること。 ＊鑑定する場合はできるだけ横に座った方がいい。	断り文句「恐いから興味がない」 応酬話法「知らずに大きな石につまずくよりも、知っておけば大難が小難に、小難を無難に過ごすことができます。」
ニード・ストーリー		断り文句「何回も見てもらった。印鑑は作った。」 応酬話法「易は何回見てもらっても、見てもらえば見てもらうほど運勢が良くなっていくものなんです。」
姓名判断	「画数の数意により私の主観は全く入りません。」	
吉凶判断	＊当たれば「今日初めての出会いですが、…が分かります。不思議でしょう。」 ＊外れれば「そうですか、しかし、将来、…していかなければならない宿命にあります。」	＊相手の悩みがなんであるかを聞き取り、より早くつかみ集中的に攻めることがオーダーへの近道。 ＊相手に将来の夢を与えながら、「三つほめて一つおさえる」のパターンを基本にする。 ＊病気が当たった場合は特に大事にすること。これだけで印鑑を作ることが多い。
改名か改印	「私は医者ではありませんが…○○が悪いようです。」 ＊当たれば大げさに強調する。	＊腐ったリンゴ（数意）により他のリンゴが腐ってしまう。取り除くなら早いうちが良い。
商品「三宝印」の紹介	＊客より「どうしたらいいでしょうか。」という言葉を引き出すことが最大の目的である。	＊ここからが印鑑が売れるか売れないか、セールスマンとしての勝負どころ。「本当に変わるのか」「いくらぐらいするのか」この言葉を客より引き出すようにすること。この言葉が出てこなかったときはニードがきいていないので再度鑑定に戻ること。
値踏み	＊「ひとつは改名して数意を変える。もう一つは改印で、印相学の哲理に基づく方法で改名するよりも効果があるといわれています。」	
クロージング		＊ここでは印鑑はかなり高価なものらしいという印象を客に与えること

	＊「魂体（実印）、財体（銀行印）、霊体（認印）が必要です。用途別に使うことによって〇〇さんの運勢が彫り込まれており、三本揃って百パーセントの開運があるのです。」 ＊「〇〇さん、高島易断をご存じですか。実印一本が三〇万円もしますよ。あそこは鑑定料がかなり高いですからね。」 ＊「こういう出会いとかチャンスは一生のうち何度もありませんよね。」 ＊「いくら世の中科学が発達しても、科学で割りきれない何か目に見えない力が作用しています。」 ＊「さあ、今日この時を人生のポイント切替としましょう。」 ＊契約終了後、「おめでとうございます」と必ず言って握手し、一〇分程度の時間をかけて相手とコミュニケーションを図ること。	＊「見せて、聞かせて、触らせる」が最後の決断を呼ぶ。 ＊断り文句が出てからが勝負と思え。 「相談する」→「今話したのはあなたのことですよ。自分の運勢は自分のお金できっちり直しておきなさい」 「考えておく」「もう少し先で」→「私が先ほど言いました運勢通りになってから気が付く訳です。事が起こってから間に合わないものもあります。」 「お金がない」→「この運勢を見るとあるとはいえませんね。しかし、卵が先か鶏が先かの議論ではないですが、まず、この運勢を変えないと。」

ゲスト、躊躇し始めたゲストにはたたみかけるようなトークを浴びせなければならない。それには訓練が必要であり、トーク集のマニュアルが伝道、訪問販売含めて各種ある。ここでは手書きのノートではなく、印刷された「販売マニュアル」という小冊子を用いて、トークの構成を見てみたい。この小冊子を所持していたのは一九九〇年代半ばから一〇年余り壮婦として活動した元信者の女性であり、訪問販売を担当した。

この冊子は「印鑑を売るな！　開運という商品を売れ！」のスローガンで締めくくられている。印鑑販売のトーク集ではあるが、統一教会が一般市民を説得するトークの全てが凝縮されているといって差し支えない。十数頁の冊子には懇切丁寧なトークが記載されており、他業種においても応用可能とも思われる。しかし、運勢への不安という心理的ニーズを作り出してから、印鑑による運勢転換という手段を示し、今回の購入がいかに理に適っているかを説得する仕方は、典型的な開運商法、霊感商法と呼ばれるものである。しかも、この売り方は一九八〇年代中頃から一般化していたことが、統一教会の裁判において提出された霊能師のメモからも確認できる（霊感商法被害者救済担当弁護士連絡会編、一九九一、四三）。

Wトークとは展示会の会場で物品購入を迫るトークであり、Mトークはビデオセンター他で教化された信徒に対して所有財産の献金を迫るトークである。ここで示した表は簡略化されたメモであるが、元信徒はこれを頭に入れてチャート式にトークを行っていった。

①新規のゲストに対しては、人生の転換期であることを説得し、それを納得したら霊界で先祖が苦しんでいること、先祖を解放することで自分の人生が変わること、そのためには物品購入しかないと思わせる。

霊能師が担当したトーク内容

Wトーク	Mトーク
1986,9〜10	1986,11〜1987,4
霊界開放 1転換期トーク ＊人生の転換期を訴える ＊因縁果報 ＊先祖供養に必要性 2霊肉トーク ＊霊界と地上界のつながり ＊価値観の転換(物欲を取り除く) 3霊界三層 ＊霊界の先祖の階層（先祖の苦しみ・痛みを訴える） 4出家トーク ＊先祖開放のために出家の決意を迫る(全ての物欲、愛情を断つ) 5環境浄化 ＊本人の所有財産を把握 6クロージング	アダム家庭 1情の加重 ＊心情の転換の重要性を話す 2心情転換 ＊心情＝血統につながると話す 3アダム家庭 ＊家系の秘密をはじめて話すとしてアダム、エバの堕落の内容を語る 4環境浄化 ＊栞の内容と照らし合わせ本人が正直に答えているかどうかチェックする 5クロージング ＊本人の所有財産の数倍の額を示し、信仰的に受け取るかどうかを見る

②信徒であれば、邪な思いは全て人間の堕落性によると繰り返し、堕落の原因であるアダムとエバの不適切な男女関係、性の恐ろしさを強調した上で、堕落性を脱ぐためには神に万物を返すしかなく、それは全財産を献げることでしか実現できないと思わせる。

トークのフローチャートはどれだけ変形されても基本は変わらない。おそらく、筋書きだけ話されても殆どの人はおもしろい話を聞いた程度にしか受け取らないであろう。この物語が実感をもって受容されるためには、霊能師達による舞台のセッティング・演出効果が必要である。

［霊能師が現出する霊界］

ここでは印鑑を買った市民が「古印供養」をしましょうと訪問販売員の担当者に促され、霊場に導かれる事例について典型的なパターンを描き出したい。ここで用いる担当者及びトーカーの台詞は全て霊能師が実際に使っていた典型的な文言である。

「古い印鑑は浄めなければいけない。浄める儀式があります。」と担当者が電話で客にアポを取る。「印鑑には運勢を左右する力がある」と散々説明されて新しい印鑑を購入した客であるから、寺社のお札をどんと焼きにしたり納めたりする感覚で霊場まで足を運ぶのであろう。儀式を終えて「東南の方角に埋めてください」と言われればなるほどと思うかも知れない。しかし、古印供養は誘い出しのきっかけであってそれ自体はどうでもよいものである。ねらいは家系図を利用して霊能トークが効くツボを押さえることにある。

勧誘の際に「お祈りするときに家系図が必要です」と家族関係のことを詳しく聞き出し、「今一番気になっていることは何ですか」と当人や家族に関わる悩み事をメモしたものをトーカーに事前に知らせておく。トーカーはゲストの情報を頭に入れた上であたかも霊能により知り得たようにゲストに話す。ゲストにとって霊能師は初対面の人間であるから、事前に仕入れた情報を小出しに話されるだけでも感心するのである。

しかも、担当者がヨハネトークを行う。「先生は代々神仏に仕えてこられた徳の高いご家系の中にお生まれになり、ご幼少のころより修業を積まれ、過去、現在、未来を見通す霊力をお持ちです。これまで多くの方を幸福な道へ導いてこられました。特に先生は霊界や因縁や家系のことなどは詳しくおわかりになる素晴らしい方です。」緊張しているらしい婦人には壮婦が付き添い、「私は先生に鑑定していただいて、とても家の中がよくなりました」等と自分の体験

を語って「心が開く」状態までもっていく。「先生はシンボルであって、最後にズバっと決める存在。下々の者が一生懸命証す。」それが不調であると霊能師役の信徒が担当者の信徒に対して「できないのは、あんたのせいよ！　断食しなさい！」と叱責されることもあったという。

①転換期トーク　ヨハネトークにより証しされた霊能者は家系図を見ながら次のように話す。

「あなたが生まれた○月○日までにはいろいろな先祖がいましたね。先祖にもいい先祖、悪い先祖がいました。背後をたどっていくと、何万人、それ以上の先祖がいました。それを背負っているんです…。今までの人生を振り返ってみてください。いいときもあったでしょ。辛いときもありましたね。いい先祖がいたときは幸せなことがありました。先祖の力で引っ張ってもらいました。でも、悪い先祖が影響したときは不幸なことが起こりました。でも、それはあなたが悪いんじゃない。」

ここが肝心なところであると元霊能者はいう。

「要は、自分を責めるんじゃなくて、大変なことを先祖につなげて気持ちを軽くさせるんです。そして、今日の日付を書いて、『でも、ここからは大転換期。これからは幸か不幸かは自分がどうするかで決まります。今日この日に決まるんですよ』と訴えるんです。もう逃げさせない、みたいな。それで、『あなたは悪い先祖の、苦しんで亡くなった先祖の本当の供養をしなければいけない。そうしない限りは同じことを繰り返しますよ』ってことを、何度も何度も言う

んです。そうすると、勘のいい人は『どうしたらいいんですか。』と雰囲気にのめりこんでくるわけです。」

②霊肉トーク　霊能師は相手の出方を次のようにうかがう。

「『じゃあ、少し霊界の話をしましょうね』『今まで霊界を信じたことがありますか』とか『霊界ってどう思いますか』と少し探りを入れて、『今まであまり考えていなかったけど、言われてみればよくわかる』とか『先祖の供養はしています』とか、その人の反応を見ます。」

③霊界三層　霊界の話で押せるとふんだ相手には次のような先祖達の悲惨な情景を伝える。

「『地獄でも一番苦しいのは色情。実は色情というのは不倫とか離婚・再婚、ここに出てますよね』と家系図を指差しながら話します。こういう先祖がいると子孫にも同じように出てくるんだと。『本当だ、先生の言っていることは本当だ』という方向に持っていかなければいけないので、斬られて死んだ殺傷因縁はケガや事故に出てくるとつなげて説明します。家系図が詳しく書いてあればあるほど、いろいろ話がつくれますから、いっぱい引っかかるんです。」

「悪い先祖たちが『助けて』『助けて』って、あなたの肉体に、目に見えない霊人体にとりついているんです。そこにつながってくるんですよ」と、図を使って説明します。先祖が自分に影響を与えているんだってことを具体的に話して、霊体の先祖たちを解放することが必要だと。『先祖供養は慰めだけ、本当は解放が必要。解放は地獄にいる先祖を

救い出すこと』と先祖供養と先祖解放の違いを説明します。『今まで仏壇やお墓の前で手を合わせていたのは、先祖供養に過ぎない』と断言するんです。それではただの一時的な慰めに過ぎない。先祖たちは『地獄から解放してほしい』と願っている。『それをしてあげることが、あなたの使命です』と強く言い切ります。」

ここでも、「それでは、どうしたらいいんですか」というセリフがゲストから出てくるのを待つのである。出てこなければ、ひたすら地獄の悲惨さを繰り返すまでである。

④出家トーク　現在の自分に大きな影響力を持つとされた先祖達の状況を変えるためにどうしたらよいのかと尋ねるゲストには次のトークが用意されている。

「『霊界解放できる人のお力をいただくのです』とつなげていくんです。このときはまだ文鮮明の名前は出さないんですが、『この霊石を家庭に置くことが霊界解放につながる』という方向にもって行きます。この家系に入れることが大切で、それも『使命のある人にしかできない。』だから、『妹さんがやってきてもダメです。あなたでなければ』。代理は許さないんですね。」

「『あなたしかできない。できる人しかここには呼べないんです。ここには来られないんですよ。』理屈で封じ込めるんですよ。『家族に内緒にすることも陰徳』『命がけで行かなければいけない』『身を切るような、出家の思い。でも、あなたは家庭を守らなければいけないから、出家はできない。だから、在家出家という道がある』と話を進めます。」

⑤環境浄化　在家出家という初耳の言葉を聞いたゲストは「それは何か、どうすればよいのか」と霊能師に尋ねる。

「『在家出家の道があります』ということで決意をあげさせて、『わかりました。では、できるかどうかお祈りしてきます』と言っていったんひっこみます。最後のクライマックスなので、グーッと気持ちを上げたところでストンと落とさなきゃいけないんです。タイミングが大切です。気持ちが最高潮に達して「お任せします」ってなったところで、グッとやらないと。」

霊能師はタワー長といくらの物品購入や献金を進めるか綿密に作戦を立てる。タワー長が「これはちょっと時間がかかるな。とりあえず、これだけで行こう」とか「マナ展があるから」とか細かい指示を出すという。そして、霊能師がゲストから話を聞いて財産目録（預金、不動産等）を作り上げ、どこを出させるか、霊能師、タワー長、ゲストとの激しいやりとりが見られる。

「タワールームで、『この人、取っちゃうと生活に困って、お子さんにもお金がかかるし…』って担当者が話すんです。状況を知っていますからね。そうするとタワー長が、『お前ら、何言っているんだ。メシヤが決めることなんだ』と説教してくるんです。『相手から根こそぎ取ることが救いだ』『お前の人情のためにどれだけ泣いた〜っ』『お前、どれだけの条件立ててきたんだ〜っ』よく言われました。下手すると一週間断食させられちゃう。トーカーはトークをしなきゃいけないんで、断食じゃなくて水行ですけど。その分担当者に断食させる。」

タワー長が霊能師から「この人はこのくらいなら動かせる」という報告を受けて、「じゃあ三〇〇で行こう」といった指示を出す。三〇〇（万円）で落とすためには、八〇〇、五〇〇、三〇〇と三つを用意してどれかを選んでもらう。最低でも、その金額を死守するわけである。そして、担当者もタワー長から怒鳴りつけられながら、霊能者と連携プレイを行う。

「最後は担当者が土下座して、『先生。私がこの人の代わりに断食でも何でもしますから、条件立てさせてください。』と言う。すると『わかりました。じゃあ、あなた、この方がちゃんとできるようになるまで断食してください』と答えるんです。人質みたいなものです。お客さんは担当者との信頼関係は多少なりともできているから、「え、私のために断食」みたいな気持ちになるんです。」

こうして金をゲストに出させるのであるが、金がないものには「出家の道を志しなさい」ということで、ビデオセンターでの受講を進めて、霊能師の役割は終了する。

［霊能師達の心情］

統一教会脱会後十数年を経過しても、霊能師役をやっていた元信者達は、基本的なトーク例を立て板に水のごとく語ってくれた。一人はトーカー役を一年半、もう一人は一年弱やったわけだが、トーク内容を実によく記憶している。彼女達は、多いときで日に四人のゲスト相手に、時にリポビタンD等の栄養剤を飲みながら一連のトークを行ってい

た。

霊能師役の信者達は当時自分達のやっていたことをどの程度客観的に認識できていたのであろうか。或いは、主観的にはどういう思いでゲストを泣かせ、担当者に泣きを入れさせてまで霊能師役になりきれたのであろうか。彼女達が霊能師役に徹することができた幾つかの理由がある。そして、この理由を理解することによって、なぜ統一教会信徒達が人を騙せるのかが分かる。

①限定された認識。霊能師の業務はラインの流れ作業に従事しているにすぎない。「お金だって一日何億になるわけですよね。会計が夕方ぐらいにやってきて、金庫を開けて袋に詰めて裏会計へ持っていくんです。その彼（会計）のことを私は全然知らないんです。『そのお金は会計さんが持っていく』ぐらいしか。」と語る。それ以上のことを詮索する精神的余裕がそもそもないし、誰かに聞けば「責任分担を全うするのが信仰」という言葉が聞かされる。

②限定された心理。霊能師は感情移入しない。いちいちゲストに心が入ればやっていけない。「その人のために祈って真剣に涙してあげても、やっぱり演技」「自分の気持ちの中では、意思統一してお祈りしたら、もうその人のことは忘れるんですよ。」このような心理が働くのは、メシヤが全て良いようにはからってくれるから何の心配もいらないと教化されてきたからである。

③限定された責任感。霊能師はメシヤの代理に過ぎない。「自分が決めたんじゃない。私を通して、メシヤがお決めになったのだと。そういう感覚なんです。だから、『自分は偉いんだ』という感覚も持たないし、『相手を脅すようなことをしていいのかしら』という罪悪感も抱かない。（自分は）あくまでも通過点、無の境地みたいな。」責任は既

にメシヤに委ねているのである。

霊能師達の態度は、統一教会信徒のトレーニングの過程で内面化されたものである。自分で判断も意志決定も行わず、組織的にあてがわれた役割を忠実に遂行する。ふだん人間的な感情は豊かなのであるが、自分の思いと組織的指令が齟齬を来したときに、組織を優先する。それが信仰であると教えられたからである。そして、霊能師達は霊界を自ら現出しながら霊界のモチーフや力に怯える一般信徒でもある。その点を統一教会の修練会から見ていくことにしよう。

四―二　清平の修練会

［清平修練院］

統一教会は、一九九五年以降、韓国の清平修練院で「清平聖地役事」を始め、日本人の信徒には特別祈祷修練会に参加することを再三再四勧めている（清平修練院大母様み言編集部、二〇〇〇）。

清平修練院とは風光明媚な山峡である京畿道加平郡の張洛山に位置する統一教「清平聖地」に立つ修練会施設である。ここには、教主文鮮明を記念・顕彰する「天正宮」があり、二〇〇六年六月一三日、文鮮明が天宙の王に即位する戴冠式と入宮式が行われた。統一教会至高の聖地である。ここには、天宙清平修練苑、清心国際中高等学校、清心神学大学院、清心幼稚園、保育園、清心病院・漢方病院、チョンアキャンプ（青少年修練苑）、清心ビレッジ（シルバータウン）、チョンア住宅（職員宿舎）等がある。天宙清平修練院は、天城（チョンソン）旺臨宮殿、正心苑、親和宮、

清水湯（風呂場）、清心塔からなり、大修練会が開催される天城旺臨宮殿は、八六〇〇坪の敷地に地下二階、地上三階、約五七〇〇坪の建物であり、一度に八〇〇〇人を収容する大聖殿と一六〇〇人が食事できる大型食堂があるとされる。

ここで行われる修練会は、統一教会信者向けの四〇日間修練会や、短期の各種修練会であり、そこでは様々な儀礼が行われるが、筆者が聞き取りを行った元信徒が参加した「先祖解怨式」「役事」、及び見聞した「病気癒し」についてのみ解説することにする。

［先祖解怨式］

統一教会の教えによれば、人間は死後「霊人体」となって霊界に行く。原罪をもったままの霊人体となった祖先は地獄で永遠の苦しみを受けているのであるが、地上にいる子孫の善行により、功徳が祖先に転送され、祖先は安らぐのだという。ところが、このことを知らずに功徳を送らなかった人は死後、霊界で祖先の霊達に責められる（讒訴される）。

この教えの前半部分は、祖先崇拝と混淆した東アジアの仏教や東南アジアの上座仏教にみられる観念である。しかし、後半部分は統一教会独自の論理である。文鮮明は、一九九九年より、「新しい成約時代に天国に入籍するためには必ず一代から七代までの先祖から一二〇代まで解怨しなければならない」という発想のもと、一九九九年二～八月まで直系七代の先祖解怨式を挙行した。

もちろん、お金がかかる。一家族につき、父方・母方のそれぞれにつき、さらに父方・母方の家系、計四家系の先祖解怨が必要であり、それには一家系につき日本では七〇万円、計二八〇万円、韓国人については一家系につき五万

ウォン程度の献金が必要とされた。上に遡ること八代目以上の先祖についても七代ごとに解怨するのであるが、献金額は日本の場合、三万円に軽減される。理論上、一二〇代目までの解怨を行うと、初回を含めれば計一七回やって余りの一二〇代目をし残すことになる。初回に二八〇万円、四家系で一二万円を一七回で二〇四万円の費用がかかることになる。近年は、「真の父母様が先祖解怨式を二一〇代までしなさいと言いました。『家族』たちが二一〇代まで行うと、二一〇代以後は霊界の真の子女様を中心とした絶対神霊たちがアダムとエバまで神様の血統に繋がれるように準備しておいています（大母様、二〇〇六年二月第七六一次特別修練会）」とされる。

一二〇代遡るというのは、一世代三〇年として三六〇〇年前であり、日本においては縄文末期、弥生初期に相当する時代である。日韓両国民の氏族は血縁をともにしていた可能性すらある。祖先をこれほどの系譜でたどるというのは、日本では皇族であっても非歴史的時代や観念を想定しなければ不可能であろう。一般市民の場合は十数代辿れるだけでも相当の名家である。しかしながら、統一教会の信者達は教えをそのままに受け取っている。

さて、解怨を受けた先祖は、霊界にある興進（フンジン）様が主管する修練所に行き、一〇〇日間の修練を受けるという。興進は文鮮明の長男で交通事故死、その後、昇華し、天総官（霊界総司令官）となったといわれる。先祖解怨献金を納めない信者の先祖は「興進様の修練所」に行くことを待ち続ける。「興進様の修練所」では、先祖達は統一教会の信者同様に一通りの統一原理と神の摂理を一〇〇日間にわたって学習することになっている。修錬会を終えた先祖達は、清平に戻って統一教会の救済儀礼である祝福を受け（「先祖祝福式」）、再び、「興進様の修練所」に行って、「四〇日間真の家庭修錬会」を受けて、再々度、清平に戻り、子孫と対面することになるのである。先祖が霊界から呼び出され、清平に行くたびに子孫の信者達は出迎えることになっている（天宙清平修練院、二〇〇〇）。

統一教会の世界観においては、霊界と現実世界の二元的構造になっており、相互に交信可能であるし、霊人が地上人に影響力を行使することも可能であれば、地上の人間が霊人となった先祖を供養により慰撫することもできるというわけである。信者は、この世において統一教会に入信して祝福を受け、真の家庭を築かなければ救済に預かれないし、統一教会の教えを受けずに亡くなった先祖達は、死後において統一教会の研修と祝福を受けて真の家庭を築かなければならない。どちらの場合も、信者が統一教会にしかるべき金額の研修費を納入しなければことが進まないとされる。次項で述べるように、地獄にうごめく悪霊や恨みを抱いた祖霊は極めてパワフルな影響力を地上の人間に行使するとされるのであるが、こと天国への門をたたくことに関してはまことに無力であり、信者のなけなしの献金を鶴首して待つ身の上なのである。

［役事］

役事とは統一教会の独自の用語であり、天使の助けをかりて体内から悪霊を追い出すという意味で最も一般的に使われている。しかし、より抽象的には、天界（霊界）と地上（現実世界）の間に交流を起こそうという儀礼である。天から役事が起きることもあれば、地上の儀式によって霊界に動きを作り出すこともある。天から役事というのは、霊界における聖賢（孔子、釈迦、キリスト、ムハンマド等の歴史宗教の創始者）、霊界総司令官の興進、大母様（文鮮明の現在の妻、韓鶴子の母親である洪順愛）、或いは統一教会幹部で死去したもの達等が霊界からメッセージを送り届けたり、彼等の比類ない権能によって霊人達の処遇改善措置をとったりすることである。清平においては、金孝南（キム・ヒョウナム）という霊能者に大母様が再臨し、霊界のメッセージを伝え、先祖の霊を救い出すのは清平の役事し

かないことを強調する。この女性は、講堂において、空中で何かを掴み外へ棄てる動作をしてみせ、信者に対して「O一五七（病原菌）」のウィルスを外へ出したといったというような人物である。

信徒が記憶している金孝南の典型的な語り口は次のようなものである。「日本人は、かつて韓国を侵略し、植民地にした。従軍慰安婦や強制連行で、韓国の人々特に女性たちにたくさんの苦しみを与えた。その従軍慰安婦や強制連行された女性の霊が日本人女性に乗り移っている。だから、日本にいる悪霊は、他の国の悪霊よりも恐ろしい。」「日本は霊的にとても恐ろしい状況にある。本来であれば、日本は悪霊のせいで滅びている運命にある。それが現在まで生き延びているのは、お父様（文鮮明）が必死になって霊界で戦っておられるからだ。」これは金孝南に限らず、韓国から日本の統一教会の教区（或いはブロック）に派遣されている教区長もまた同じようなことを日本人の信者に対して語る。日本の統一教会が韓国に貢献しなければならないこと、統一教会全体の財政支援を堕落したエバ国家の使命として完遂しなければならないと再三再四述べるのである。

このようなメッセージの後に、金孝南は講堂に参集した数千の信者に対して、聖歌を歌いながら互いに体を叩き合い、体の中に入り込んでいる悪霊を追い出すよう命じる。すし詰め状態で座っている前の人の背中をそれぞれ力一杯叩く。信徒も、「本気で叩かないと悪霊は出ていかない」と言われたために、前の人の背や肩を力一杯叩き続け、自身も後の人から叩かれた。壇上には興奮した（霊に憑かれた）若手の信者が上って踊り出したり、精神的に不安定な人が泣き叫んだりと、まさに悪霊が飛び交ってでもいるような情景が現出する。

よく従軍慰安婦の霊が女性信者に憑いたという。金孝南が除霊する。これがおよそ三時間続く。一般信者の身体にアザができるのはもちろんのこと、精根尽きた信者達に対して、またもや金孝南の言葉が続く。

こうした役事の合間に、文鮮明の説教を聞く僥倖を得ることもあった。文鮮明は日本語で語りかける部分もあるのだが、途中休憩を入れながら、夜中の二時三時まで数時間にわたって語り続け、信者はその言葉に感情を揺さぶられながら聞き続けるのである。

［病気直し］

清平には清心病院・漢方病院もあるのだが、修練院において役事や研修に参加するものの中には家族、或いは本人の病気を治そうと来るものが少なくない（天宙清平修練院、二〇〇二）。信徒の一人は、全身アトピーだらけの子供の写真が修練院の敷地内にでかでかと張り出されていたことを記憶している。講堂に張られた写真を順を追って写真を見ていると、アトピーだらけの体が徐々に綺麗になっていき、最後には完治してしまうという流れになっていた。「これを見て、ああ、頑張って真面目に修錬会に参加すれば、悪霊を追い払えるのだなあと思いこんだ」のである。ここに通い続ける信者は、大なり小なり同じような思いを抱いている。

悪霊を祓う、追い出すことで病気が本当に治るかどうかは医学者の見解を待つしかないが、清平において治らない病気があることは事実であり、その状態に陥った信者がどのような処遇を受けたのかは明記しておく必要がある。以下の事例は、筆者が実際に元信徒に面接して確認したものである。

この人は一九七〇年に生まれた女性であるが、二一歳で入信し、四年後の一九九五年に三六万組合同結婚式に参加して渡韓し家庭をもった。半年前より腰痛、足の腫れ、しびれ等の症状があり、日本で「一心病院」という統一教会系病院で診察を受け、統一教会員である整形外科医に清平での役事を勧められていた。渡韓後の一九九六年に清平修

練院（当時は祈祷院）に何度も通い、また長期滞在して役事に参加したが、足が腫れて歩行困難になるばかりで一向に回復せず、同年一一月に帰国して名城病院にて緊急手術し、著効を得たものである。名城病院での診断名は、脊髄腫瘍である。

この女性は清平の修練会に計三〇回ほど参加し、のべで一〇〇日は滞在したという稀有な経験をすることになった。渡韓後、韓国の教会に所属したが、その時には足の状態が悪く、結婚相手（主体者という）の家族や教会関係者に清平での祈祷を勧められ、治るまでいなさいと強く勧められた。逆に言えば、外国人として通常の治療を受ければあまりにも治療費がかさむので、経済力のない障害を持っていそうな嫁を祈祷院に厄介ばらいしたという側面もあり得る。事実、祈祷院で病状が悪化している間、結婚相手、その家族、及び韓国教会関係者から当人は一切のケアを受けていない。

祈祷室で、金孝南に「あんたの先祖が韓国人を痛めつけているから、足にビッシリ悪霊がついている」といわれ、足や腰を叩かれた後、金孝南に命じられた男性信者二名が足や腰を四、五〇分ほども叩き続けた。耐えがたい痛みに涙が出ていた。翌日、足が一・五倍程に腫れてしまい、ズボンをはくのも難儀した。そのほか、祈祷や敬礼等の条件を行うなどして回復を願っていたが治らないので、「ここでは治らないから、帰りなさい」と言われた。

最初の頃「ここでしか治らない。悪霊が取れなければ、たとえ手術をしても邪魔される」と言われていたから、長期間滞在し、役事の度に一―三万円の献金を出していたのであるが、最終的には放置されたのである。合同結婚した韓国の夫は連絡もよこさず、周囲の信者も離れていった。「歩けなくて、自分にはもう何もないから絶望して、死のうかなあと思って、その人（清平で自殺した信者）と同じように死んでいい霊界に上げてもらおうかなって思って。で

も、足が悪いから湖に飛び込めない。ただ、その場を耐えていた。うーん。絶望するしかなかった」と語る。結局、半身不随の状態になったという連絡を彼女が日本で所属していた統一教会支部で受け、彼女を車イスに乗せて帰国させた。支部では一ヶ月間教会に彼女をおいたが、結局、実家に戻し、実家では娘を緊急入院させたのである。

悪霊を叩いて出すという所作は、シャーマニズムにおける憑き物祓いの儀礼に酷似する。日本においても、心身に異常を来した人物に祈祷師や霊能師が狐憑き、悪霊憑きと診断を下し、儀礼的に叩くという行為はあった。儀礼である以上、叩くには限度がある。ところが、例外的な事件が発生することがある。

一九九五年、福島県須賀川市の女性祈祷師宅で信者六名の死体が発見され、信者の筋肉を壊死させるほど太鼓のバチで信者を殴打し続けたことが明らかになった。事件の首謀者とされる祈祷師は最高裁においても死刑が確定したが、この祈祷師に命じられて信者を叩き続けた信者もまた被害者というべきであり、祈祷中の異常な状況のなかで悟性が働かなくなったものと思われる。

清平祈祷院ではここまでは至らなかったものの、疾病治療を遅らせることで信者の病気を悪化させる等の問題を抱えていたことは確かである。祈祷を受けて叩かれた信者の相談事例は、病気直し（アトピーから癌まで）だけではなく、合同結婚を受けたものの離婚の危機を迎えた信者のメンタル・ヘルスにも及んでいた。先の脊髄腫瘍を患った元信者が見聞した限りでは、これらの例以外にも、日本の統一教会活動（伝道や経済活動）に疲弊し、精神的に参った信者が派遣されてきたが、治療のための献金が完納できないために、自分には食べる資格がないといって食事も取らず、鬱の状態が悪化したまま帰国した例もあるという。

以上、清平における修練会の様子や、そこに参加した信者達の諸問題を述べた。筆者がインタビューを行った高齢

の元信徒は、二〇〇一年には四回、二〇〇二年にも四回の修練会に参加し、役事を受けている。彼女の思考の枠組みが、清平修練会に参加する信者同様、霊界における先祖の苦しみ、悪霊の障り、役事による霊界への働きかけ、そのための献金、信仰生活という具合に固定化され、ここから逃れることは困難であったろうことが推測される。清平での生活は、滞在期間中を通して儀礼に参加しているも同然であり、その儀礼においては悪霊や霊界の働きが、極めてビジュアルな形で統一教会によって現出され、それを信じ切る同信の信者数千名の集団的感応が元信徒達にも及んでいたのである。統一教会における実践的な信仰とは、霊界への恐怖に動機づけられて教団本部の指示に従うことである。

五　統一教会の祝福

[祝福の原理的意味]

統一教会の信徒にとって祝福こそ信仰生活における最大の秘蹟であり、祝福を受けないのであれば統一教会にいる意味はないといってもよい。青年信徒は祝福を受けることだけを目標に苦しい献身者の道を歩んでいる。既婚者や中高年婦人にとっても、既成祝福という道が示されているために、家族と再度の聖婚を遂げることを目標にしている。

祝福の実態については、統一教会を批判する全国霊感商法対策弁護士連絡会、日本基督教団統一原理問題連絡会、全国原理運動費会社父母の会が、既に共編著『統一協会合同結婚式の手口と実態』を一九九七年に刊行している。本節では、同書と多少重複する部分もあるが、調査対象者の聞き取り事項と彼等が所持していた資料から、祝福の意味

と実態、組織における機能といった問題を順次考察してみたい。

まず、統一教会の教義を再度確認していこう。統一教会の教典『原理講論』（世界基督教統一神霊協会、一九六七）によれば、神の戒めを破り、サタンと姦淫を犯したエバがアダムと結ばれて、サタンの悪の血統が人類に受け継がれているとされる。それが原罪であり、神はイエスを遣わして人類を救おうとされた。イエスは十字架にかかり殺されたために、キリスト教徒はイエスによる贖いを信じることで霊的救いが達成されるのであるという。しかし、肉体の救いは未だで、神は再臨主を遣わすことにした。それが文鮮明であり、彼は「メシヤ」として人間の妻を娶り、人類の血統を転換する。そして、メシヤ夫妻の司式による「祝福」、「聖婚」、後の「合同結婚式」によって、人類の原罪を贖うと説いた。統一教会が説く神の摂理とは、性にまつわる堕落を性に関わる特別な儀礼により解消するということに尽きるかと思われる。

創世記の失楽園の物語において、取って食べるなと神が命じられた「善悪知る木の実」をエバは蛇の誘惑にのって食べてしまう。そうすると目が開け、それをアダムにも食べさせたところ、二人は裸であることに気づき、あわてていちじくの葉で腰を覆った。ここからキリスト教会の中には、蛇すなわち神と同じ位置につこうとした天使長ルーシェル＝サタンの誘惑に負けた人間の罪を指摘するのであるが、統一教会はさらに上を行く解釈を行う。天使はエバと不倫なる性関係を結んだという。『原理講論』には、「では、天使と人間との間に、いかにして性的関係が成立するであろうか。（一〇七）」と問い、人間と霊的存在との感性は変わることがないのであるから、「人間と天使との性的堕落は事実上可能（一〇八）」「人間社会において、地上人間達が、霊人達としばしば結婚生活をする例がある（一〇八）」と述べる。

本来エバはアダムと結ばれるよう神は予定されていたが、「未完成期」にいたエバは、「神のように目が開けることを望み、時ならぬ時に、時のものを願ったエバとが、互いに相対基準を作り、授受作用をするようになったため、それによって非原理的な愛の力は、彼等をして不倫なる霊的性関係を結ぶに至らしめてしまったのである。（一〇九）」そして、「エバはルーシェルと愛によって一体になったとき、ルーシェルの要素をそのまま受け継いだのである。」エバは霊的堕落による良心の呵責と自分の相手がアダムであることに気づいたために、「自分を誘惑した天使長と同じ立場でアダムを誘惑した。（一一一）」「ついに彼等は肉的に不倫なる性関係を結ぶに至ったのである。（一一一）」堕落したエバとアダムから生まれた人類の子孫は、ルーシェル＝堕落したサタンの血統を継承した。これが統一教会のいう原罪である。

統一原理の説明において、最も理解に苦しむのが堕落の原因となった性関係の説明である。霊肉二元論の論理的帰結として、堕落にも霊の堕落と肉の堕落があり、前者が天使との性行為というのであるが、創世記をどのように読んでもそれに該当する記述はない。また天使がエバを愛でたといっても霊的存在と人間が心で交わる場合になぜ性関係を持ったとされるのかも不思議といわざるを得ない。これは天使が男性であるという、これまた典拠がない前提に基づいて、男性格の霊的存在が誘惑したのであるから性が介在するはずだという推測なのであろう。また、本来の定められた相手ではない天使の場合を不倫というのは分からないでもないが、許嫁とでもいうべきアダムを相手にしたことも不倫と呼ぶのはいささか合点がいかない。おそらく教義的な説明は、未熟であること、神の許しを得ていないことの二点に集約されよう。ここで堕落の説明はおかしいとなれば、『原理講論』のその先の記述に何ら意味はないことになってしまうが、信徒となった人達はあまりこのような疑問を抱かなかったようである。

ともあれ、サタンの血統が性関係によって人類に紛れ込んだことが堕落の意味とされる以上、教義上の必然としてこの血統を転換するためには、神との性関係を媒介とした救済が用意されねばならない。女性が神の花嫁となって霊的に堕落から復帰され、次いで、復帰された女性によって男性が肉的堕落から復帰されるという論理になる。教義の核心は「血統転換」である。現実には、神は再臨主として人間の形をとられるから、女性は再臨主と肉的にも交わることになる。こうした内容に関して『原理講論』は何も語っていない。韓国からメシヤが現れると述べるだけである（五八六）。

ところで、この特異な堕落の解釈は、文鮮明が初めてということではなく、韓国のキリスト教には異端的教義理解として存在していたものである。一九三〇年代韓国のキリスト教復興運動において、李龍道派の熱狂主義や、白南柱・金聖道等のシャーマニズム的入神の教えに多くの民衆が惹きつけられた。既成教会は異端視した。文鮮明がイスラエル修道院の金百文から数ヶ月間教えを受けたことを統一教会も認めている。但し、金百文が洗礼ヨハネの役割を果たしておれば文鮮明が世に出るのはもっと早かったという。

文鮮明が初期の信徒達と「血統転換」をどのようにやったのかは伝え聞くところでしかない。筆者が見聞したわけではないのでこれについては問わないことにしよう。統一教会が宣教活動を始めた当時、「血分け」の疑惑が持ち上がり、それは未確認のまま終わったのであるが、「血統転換」を霊的・象徴的な儀礼と捉えるか、肉的・実体的なものと捉えるかをめぐって、統一教会と分派組織が意見を違えていることは記憶に留めてもよい。

［祝福の過程］

祝福は次のような約束事に則って行われる。

①写真マッチング　かつては文鮮明が信徒を会場に集めて、男性・女性を次々に指名してカップリングさせていったが、現在は写真が本部から送られてくる。信徒はお見合いのように複数の写真に写った男性から好みの男性を選ぶわけではない。送られてくる男性は一人であり、その祝福を受けるかどうかの選択権だけが信徒に与えられる。一般的に断る信徒はいない。神が選んだ相手を断ることはありえないのである。そうはいっても当然若い信徒には異性に対する好みはあろう。しかし、付き合っていた恋人とも別れて献身した女性達であるから、それを乗り越えるくらいの信仰は獲得している。

②約婚式　アダムとエバが約婚期間中に堕落したので、復帰のために約婚をするという。約婚という婚約期間のようなものを設けているのは、後に述べる結婚式をした後ですぐに一緒に住んで家庭を持つわけではないからである。

③聖酒式　聖酒の中身であるが、「父母の愛の象徴が入っている。それから血が入っていないといけない。それを飲むと、父母の愛と一体となり、血と一体となる。」「この聖酒はいかに作られるかというと、陸海空を象徴し、全体を象徴しているものから作られた酒である。三種類の酒が入っている。それ以外に、全ての万物の象徴が入っている。（『祝福』一九七四冬号、前著、一三八頁より引用）」

聖酒式ではかつて、「聖酒式をする前に、先生が女達に手を重ねるのは一体化の式である。霊的に一つになる。それを通し、先生の身を受けてから相対者と霊的肉的に一つとなる。だから、今までは女は娘の立場であったのだけれど、今は霊的には相対者の立場である。（前掲書、一三九）」娘の立場から相対者の立場へ変わることの意味は、女性信徒が文鮮明の花嫁となったということである。これが統一教会でいう「血統転換」の中身であり、復帰されたアダムであるメシヤを霊的に迎えて一体化し、愛の因縁を元に返すという。

信者同士が意見交換を行うサイト上で、「私の家庭出発前の修練会では、約婚期間三年半以上の間に文師（お父様）と一体となった夢を見た人と講師に尋ねられた時、手を上げた女性は、ほめられていました」とあった。一般信徒が祝福に対して抱くイメージは、文鮮明の霊的種を自分が宿し、原罪のない子を産むという観念である。そうである以上、その後に実際どのような男性と結婚生活を送ろうとある意味関係がないのである。霊的にはメシヤと結ばれた身の上なのであるから。

④結婚式　合同結婚式会場におけるセレモニーである。文鮮明夫妻を主礼として迎え入れ、聖水と祝祷を受けた後、新郎新婦で指輪の交換がなされ、万歳三唱のうちに終わる。マスメディアで報道されるのはこの場面だけであるが、祝福の実質的な意味は、聖酒式と後に述べる三日行事にある。三日行事に行く前に結婚式の後、各宿舎に戻って行う蕩減棒の儀式がある。

⑤蕩減棒　アダムとエバが腰の部分で罪を犯したために、蕩減条件として蕩減棒と呼ばれる木刀のようなもので、最

初に男性が女性の腰を三回打ち、次いで女性が男性の腰を三回打つ。三回打つのは、「アダム時代、イエス時代、再臨時代」の恩讐を清算するためであるとされる。その際、特に男性は女性に対して手加減してはならないとされ、手心を加えてと見られるややり直しを命じられるという。もっとも、徴兵制のある韓国では若い男性は軍務に二年間就いて相当身体を鍛えている。まともに打てば女性にケガさせることになるし、何よりも自分の配偶者であるから本気で叩くものはいないと思われる。尾てい骨だけは打つなという指導はあるが、人の臀部を見て瞬時にどこに尾てい骨があるか分かるようであれば医者や看護士である。

こうして、結婚の儀式は全て終わった後、聖酒を浸された聖巾と呼ばれるハンカチ状の白い布が二人に渡され、大切に保管するよう言われる。それは次に述べる三日行事で使用する。かびていても絶対に洗濯してはならず、カビがひどい場合は交換してくれる。

⑥聖別期間　統一原理によれば、アダムからイエスの時代までは四〇〇〇年の歴史があり、神と縦的関係を復帰した期間を蕩減期間と考えている。その蕩減を象徴するべく、四〇日間を聖別期間として家庭を持つ前の準備を行うのが本来の決まりである。しかし、祝福の相手はその場で初めてあった相手であることからいろいろな問題が生じてくるとして、延長期間として三年間は信徒の生活をそれぞれ独身の状態で継続することが求められている。

この期間は、韓国人男性と日本人女性の組み合わせの場合は、韓国人男性の霊的優位が認められてこれほどの期間をおかずに韓国で結婚生活にはいることが多い。実際、結婚相談所として統一教会を活用している韓国人男性も少なくないので、三年も待たせるわけにはいかないという実質的な理由もあろう。日本人女性は帰国してまた献身

者としての生活を送るか、韓国に留まり、韓国教会の活動を手伝うことになる。

⑦三日行事　霊肉血統転換の儀式である。実際には、メシヤの相対者となった女性信徒が主体者である男性信徒と交わることであるが、男性を天使長からアダムの立場に復帰することが教義上の意義となる。この儀礼には、統一教会の教説・儀礼のエッセンスが凝縮されていることと、既成祝福を受けた元信徒から祝福のための講義資料として渡された「三日行事に関する説明書（一九九八、一、五　一部訂正）」「三日行事の失敗と七ヶ月聖別条件（一九九八、一、五　一部訂正）」を入手しているので、煩をいとわず全文を掲載して説明を加えたい。なお、文中［］書きは元信徒の書き込みである。

この行事のシンボリズムを解釈すれば次のようなものとなる。

一）準備段階　聖酒（メシヤの血と父母の愛の象徴）に浸された聖巾で男性・女性とも体をぬぐって身を清めることになるが、メシヤの権威の下に二人が置かれたことを象徴する。この行為は三日間とも行われる。

二）初日　女性は真の父母を背に男性から跪拝を受け、男性に罪からの解放を祈願する。これはメシヤの霊肉を受けた女性が男性を救う権限を与えられていることを象徴する。そして、女性上位の体位で性的結合を果たす。その後、二人はメシヤに感謝する。

三）二日目　初日と同様の行為を行う。

四）三日目　女性は真の父である文鮮明側に座り、男性は真の母である韓鶴子側に座る。女性によって罪からの解放

「三日行事に関する説明書（一九九八、一、五　一部訂正）」

1　準備

⑴できる限り聖別された場所を選ぶ。風呂場を専用に使えるところが望ましい。

⑵必要なもの

御父母様の御写真、聖塩、心情のろうそくとマッチ、聖巾、［2枚］聖巾を浸す器（20 cm×10 cm×3 cm を目安とするタッパー等［夫婦別々に使うので2つ用意］

御父母様の座布団［新しいもの］を用意する。

⑶部屋の聖別方法　［風呂を使う前に］

①部屋の中央に立ち、北に向かって祈祷。最後に、「父と子と聖霊と真の父母様の御名と私の名」によって祈る。

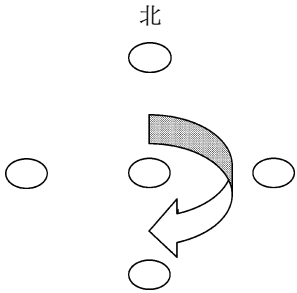
②北に向かって三度、聖塩をまく。［少なくてよい、つまんで落とす程度］

③同じように、南・東・西の順で三度ずつ聖塩をまく。

④図のように聖塩をまきながら一回転する。

⑤感謝祈祷。［この時を与えられたことを感謝します。三日間守られますように］

［名節の前後三日間はダメ、土曜日の夜はダメ］



2　行事

〈第一日〉

⑴聖巾の式　最初に女性が行い、次に男性が行う。［ろうそくにマッチで火をともす］

①浴室に入り、体を洗う。（シャワーでもよい）

②次に容器に水を取り、その中に聖巾をひたす。水の量は聖巾一枚が浸る程度にし、使用後水が残らないように心掛ける。[しぼるのか？]

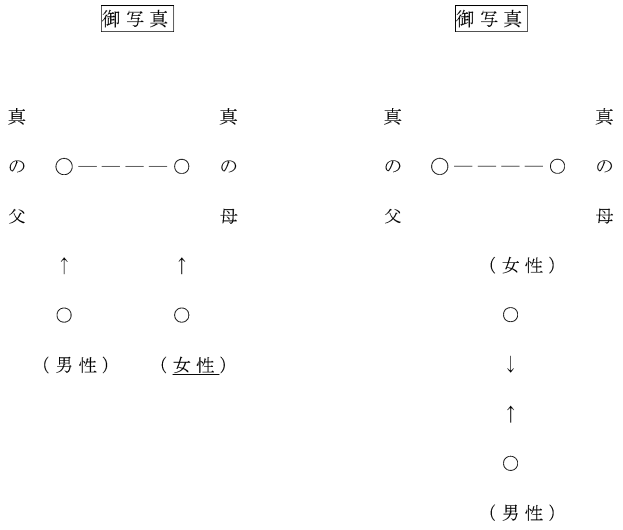
③聖酒式で内的に清められた感謝と、聖水によって外的に体が清められるように祈る。

④聖巾を使って体全体を頭から順にぬぐう。[上から下へ、気持ちを込めて]

⑤聖水が残った場合、捨てないで、翌日冷水を追加して使用するようにする。

⑵礼服を着用し、図Ａの位置（女性が右側、男性左側）に立つ。聖歌、真の父母様に一拝敬礼、祈祷（女性が先に祈祷し、後男性が祈祷：三日行事を始める報告と感謝）

⑶次に女性は、真の父と真の母の間に座る。御写真に背に向け男性と向かい合うことになる。図Ｂを参照。



⑷男性は女性の前に立ち、三拝をする。そして女性の前にひざまずいて黙祷。

⑸女性は立ち、男性の頭上に手を伸べて祈祷。これからの式を通して男性を罪無きアダムの立場に新生復活させてくださるよう祈る。[二日目

の祈りがちがう］

(6)女性上位で愛の行為。［女性は白いネグリジェイ　上―女性　下―男性］

(7)その後、礼服を着て、前と同じ位置（図Ｂ）で男性が女性の前に一拝する。

(8)女性が感謝の祈祷をする。

2

〈第二日〉　第一日と同様

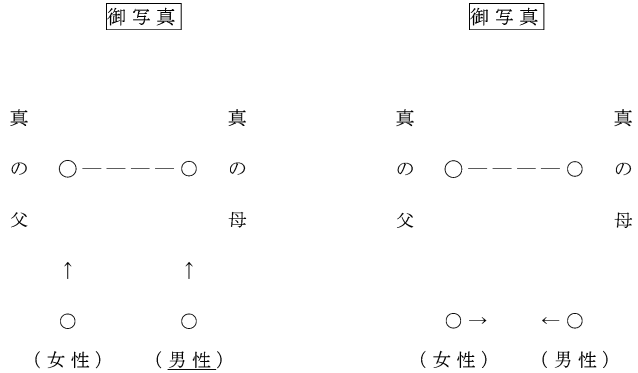
〈第三日〉

第三日目の意義　長成期完成級で堕落したので、その段階まで成長した男性が主管性を復帰する式であり、理想相対となる為の式である。

(1)聖巾の式は、男性が先にする。

(2)礼服を着て、図Ｃの位置（男性が右側、女性左側）で真の父母様に一拝敬礼をする。

(3)次に図Ｄのように､男性と女性は向かい合って同時に三拝敬礼をする。



(4)向かい合ったまま男性が祈祷。

(5)男性の祈祷の後、その祈りに応えて、女性は妻の立場で祈祷する。（答礼祈祷）

(6)男性上位で愛の行為。

(7)その後、礼服を着て、前と同じ位置（図Ｄ）で女性が男性の前に一拝する。

(8)男性が、三日間の感謝の祈祷をする。

以上で三日行事終了。

＊三日間使用した聖巾は洗濯しないで、そのまま乾燥させ保管する。
＊三日期間の時間帯は第一日目の開始時間を基準にして、第二日目、第三日目の開始時間を同じにするのが望ましい。終わる時間は異なってもよい。［出来るだけ 12 時までに終わる］

を受けた男性は対等の立場で敬礼しあい、男性は二人が夫婦になることを祈り、女性は妻として返礼の祈りをなす。そして、今度は男性上位の体位で性的結合を果たす。

統一原理で説かれた堕落の過程を逆にたどって、信徒は罪無きエバとアダムの地位につき、初めて神の実子、すなわち真の父母である文鮮明夫妻の子にふさわしいものになったとされるのである。統一教会の堕落―復帰を再現するシンボリズムが、強烈なイデオロギーとして信徒達に内面化されたことは言うまでもない。信徒の精神と肉体を根本的に組み替える強烈な儀式の力は、マインド・コントロールという言葉で表現しても十分ではない。

この儀式は、イデオロギーの注入に留まらず、文鮮明の霊肉によって実質的に罪の解放を実現するという実質的効果を信徒に経験させるために、性を用いる。この儀式書が性的結合に至るプロセス（体位含めて）を念入りに規定し、例外は許されないこと、性器の挿入に至らなければ、儀礼の効能が現れないことなど縷々述べているのはそのためである。儀礼であれば、類似行為によって代替可能であるが、三日行事においては性行為の実践がなければならない。

信徒達は、献身生活中の数年間極度に性的な緊張や禁欲を強いられてきた。異性への感情の揺れはアダム―エバ問題として原罪の根源として否定され、唯一性愛の

三日行事の失敗と七ヶ月聖別条件（一九九八、一、五　一部訂正）

実体的蕩減復帰のための重要な意味を持つ「三日行事」は、もし失敗すれば、七ヶ月聖別条件を立て、特別な天の許し（祝祷）を受けた後、再び行わなければならなくなります。深い悔い改めと感謝の祈りを捧げつつ、内容を正しく把握して行うようにしてください。

Ⅰ　七ヶ月聖別条件について

1．三日行事の失敗は、責任者の祈祷を受けて出発し、七ヶ月聖別条件を立てた後、祝祷集会に参加し、祝祷を受けなければなりません。その失敗の条件にひっかかる全ての子女は、祝祷に参加して、聖酒式をし、奉献の祈祷を受けます。その後に、「三日行事」のやり直しをしなければなりません。尚、三日行事のやり直しは、必ず新しい聖巾を使用しなければなりません。

2．相対者間で、三日行事をせずに一線を越える関係を持った場合は、１と同様に七ヶ月の聖別条件を立て、祝祷を受けなければなりません。

	失敗（七ヶ月聖別条件と祝祷が必要）	正しい「三日行事」

〈一線を越えるとは〉

挿入を目的として接触した場合には、わずかでも挿入があれば一線を越えたことになります。

Ⅱ　三日行事の失敗内容

聖巾	①聖巾で体をぬぐわなかった。聖巾をひたした水にタオルを入れ、それで身体をぬぐった。 ②一枚の聖巾を二人で使った。一枚を紛失し、もう一枚を二つに切って使った。 ③聖巾を混同した。 ④洗濯した聖巾を使った。	A．必ず三日間聖巾の式を行う。 B．聖巾で身体をぬぐう。 C．各自の聖巾を三日間使い、混同しない。 D．「三日行事」をやり直す場合は、その都度、新しい聖巾を使用する。 E．聖巾は必ず冷水に浸して

	⑤一度「三日行事」に使用した聖巾を再び使った。 ⑥乾いた聖巾をそのまま使った。 ⑦一つの容器に二人の聖巾を一緒に入れて使った。	使う。 F．聖巾は各々別の容器、又は、前の人が使った容器を洗ってから使う。[色など違うものを選ぶ]
体位	①一日目、二日目、男性上位で行った。 ②三日目に女性上位で行った。	A．一日目、二日目は女性上位で行う。(一瞬でも逆転してはならない。) B．三日目は男性上位で行う。
愛の行為	挿入しなかった。	挿入して射精することが原則であるが、それが困難な場合、最低挿入しなければならない。
三日間で行う	①二日間で、三回行ってしまった。(或いは一日で) ②一日目、二日目、三日目のいずれかを二回行った。	A．三日間継続して行い、終了する。[始める時間は同じ] B．一日目、二日目、三日目はそれぞれ必ず一日で終了する。 C．生理等でやむをえず三日期間の間隔をあけるときは必ず家庭部の承認を得ること。[○○家庭部長]
脱線行為	「三日行事」の期間中に式以外に脱線行為を行った。	「三日行事」を完了するまでは、その中間に脱線行為は一切しない。
その他	「三日行事」を全く行わなかった。	必ず「三日行事」を行う。

＊聖巾の再交付には、蕩減献金が必要です。[１枚 4000 円]
尚、聖巾を紛失した場合の再交付は、七日間断食条件が加わります。
＊三日行事をやり直す場合は、再祝祷を受けた後に新しい聖巾を交付します。

〈参考〉

聖巾式の祈祷

まず、祝福を授けてくださったことに対して、又聖酒式を通して内的

に清められたことに対して感謝の祈祷（を）する。それから「どうか、私の体をこの聖水で外的に清めてください。」

第一日目の女性のはじめの祈祷

罪を許され、贖われたことに対する感謝の祈り
メシヤの「新婦」の立場を与えられたことに対する感謝
「どうか（天使長の立場にある）この男性を新生させ、儀式を通して罪なきアダムとして復活させてください。」［女性の祈祷］
「私達は真の子女、また真のご父母様の代表となり、あなたの子女としてあなたの心情を相続させてください。」

終わりの祈祷

男性を蘇生期のアダムとして新生させて下さったことに対する感謝の祈り。［アーメン］

第二日目の女性の祈祷

「男性が長成期のアダムとして復活するように…」
男性を長成期のアダムとして復活させてくださったことに対して感謝の祈祷

第三日目の男性の祈祷

「私を最初の 2 回の儀式を通して罪なきアダムとして新生させて下さったことを感謝致します。今日の儀式を通して、私達が永遠の夫婦となることができるように、又私達それぞれが、お互いに三対象の愛の因縁を結ぶことができますように。私は最初のアダムが失ったすべての条件を復帰することができますように。」

終わりの祈祷

本然のアダムとエバとして、新生することができたことに対して、又永遠の夫婦として因縁を結ぶことができたことに対しての感謝。［祈り］
「これからは、私達が真に理想の家庭を実現するために、真心の限り全力を尽くします。」
「私達は二度と堕落は致しません。」と誓う。

［事務局長　電話番号　○○家庭部長　電話番号］

夢想が許されるのはメシヤが用意した祝福に関わるものであった。思春期・青年期の若い男女が共同生活を送りながら、相手への好意すら禁じられ、三〇歳近くまで身体的接触が全く許されない環境にあった。これは驚くべき事である。性的衝動を抑圧すると同時に解放のチャネルを用意して信徒を方向付けている教化システムは極めて強固なものである。祝福の最終的な儀礼として、性愛への衝動やエネルギーは堕落からの復帰という性行為に注ぎ込まれる。

この性行為は恋人や夫婦間の私的な秘められたものではなく、真の父母が写真を通して監視しているところでなされる公的で摂理的な儀礼なのである。人が宗教的信念の故とはいえ、自分の意志や選好によって最も親密な関係を構築することが出来ない。親密そうな関係ですら、メシヤとの霊肉結合や堕落からの復帰といったシンボリズムにより統制を受け、教会本部から行為のやり直しを命じられることすらある。

このように性行為まで支配する教団は、近代社会では稀と言わざるを得ないが、歴史的には宗教が性を統制してきた。人間にとって性への欲求は生物学的にも人間的にも根本的なものである。人は性行為によらずに誕生することはないが、人間のみ他の動物とは異なって繁殖期はなく（一部の霊長類も同様）、性的欲求へのコントロールは社会制度が本能の代わりとなる。宗教制度は助成・男性のセクシャリティやジェンダーを規定し、安定的な家族の再生産を方向付けてきたのである。

近現代では宗教による性への統制が抑圧的とみなされて批判されてきた。それにもかかわらず、依然としてイスラーム諸国やカソリック、アメリカの原理主義的教派は、家族のあり方、女性・男性の関係に宗教的理想像をあてはめようとする。その意味では、統一教会による性の統制、家族の形成も、宗教としてありえないものでも例外的なものでもないことは認めざるを得ない。しかし、それにもかかわらず、現代日本において一宗教団体が信徒の性と家族形成

を完全に統制していることの問題性は大いに論議されるべきであろう。

[祝福の教団組織上の機能]

統一教会の組織構造は、東アジアの宗族にみられる族長支配と王朝による臣民統制をかけ合わせたようにも見える。つまり、祖先を同じくする人々が宗族の長に従いながら、宗族内の利益を最大化するように協力行動を行い、他の宗族と勢力を張り合う。族長は宗族内の婚姻関係を統制する。宗族は一般に外婚制（同じ姓同士は結婚しない）であるが、統一教会は信徒のみの内婚制を取る。その代わりに韓国人男性と日本人女性のような国際結婚という外婚制に似た仕組みで教団の国際的なネットワークを形成しようとする。また、王朝支配というのは文鮮明自身がこの世と霊界の王を自称している点からも妥当な形容であり、臣民である信徒達は王のために王の命じる使命を全うするのである。

もちろん、この王朝は李氏朝鮮や北朝鮮の金親子の体制以上に強力な王朝であることは言うまでもない。政治的支配は従わないものには暴力をも含む権力的支配を行うが、家族的領域には介入しない。李氏朝鮮がそれである。北朝鮮の金体制は完全な思想統制を行うが、男女の性愛を支配下に治めるまでのことはしなかった。できなかったといってもよい。統一教会は人間の根源的な欲望と根源的な関係形成の仕組みまで支配しようとし、それに成功したのである。従って、これほど強固な組織構造はないといっても差し支えない。

統一教会は文鮮明に従う教団幹部から一般信徒に至るまで、祝福により個人ではなく家族として統制している。その典型は二世信徒である。彼等が生まれた理由は、両親が本然のアダムとエバに返るため、原罪のない子供を産むためである。そのようにして生まれた子供が信仰を失うと、まさにアイデンティティ・クライシスに陥らざるをえない

であろう。両親も片方が信仰を失えば、結婚の必然性が無くなったわけであるから、家族は崩壊の危機に直面する。統一教会をやめることは家族を失うことになるのである。

統一教会は精力的に合同結婚式を挙行してきた。その経緯を簡単に振り返っておこう。

統一教会によって挙行された合同結婚式は、一九六〇年四月一六日にソウル市龍山区前本部教会において三組の祝福を初めに、一九六一年五月一五日にも同教会で三三組の聖婚が行われた。現在の統一教会における韓国人幹部達、すなわち初期の信徒達が、一九六〇年に挙式を行った文鮮明に続いて宗教的婚姻を実践したのである。日本の幹部としては、一九六八年の四三〇組に日本初代の統一教会会長、久保木夫妻（初代会長は既成祝福）が参加し、一九七〇年の七七七組には日本から二三五組が参加した。一九七五年の一八〇〇組合同結婚式には、一〇代会長の大塚克己前会長が参加している。一九七〇年代までに合同結婚式に参加した古参信者は統一教会内で相応の役職についていると考えられる。

一九八〇年代に合同結婚式に参加した層は、日本の統一教会系列の組織や企業に属して生活しているものや、出生地に戻っているものなど半ばしている。一九九〇年代には合同結婚式が頻繁に挙行された。そのカップル数は一九九二年の三万組あたりまでが実数に近く、その後の三六万組以降は数字あわせの観がある。統一教会員、或いは統一教会に賛同するものがこれだけいるとしたら脅威であろう。一九九二年の合同結婚式は、芸能人（桜田淳子）やスポーツ選手（山崎浩子）も参加したことからスポーツ新聞に大々的に取り上げられた。また、山崎浩子は一九九三年に「私はマインド・コントロールされていました」といって脱会宣言をしたことから、統一教会の合同結婚式には負のイメージがついた。それを教団は払拭しようとして、合同結婚式参加者の証言を集めた書籍も刊行しているが、信徒にしか

表 5　統一教会の合同結婚式の変遷

時期区分	回数	特徴	総組数
1 1960-70	7 回	統一教会の幹部クラスの合同結婚	1482 組
2 1971-90	5 回	統一教会の指導者クラスの合同結婚	17650 組
3 1991-00	6 回	統一教会の一般信者クラスの合同結婚	7 億 6039 万余組
4 2001-	7 回	統一教会の宣教用（国際結婚、聖職者、二世等）	4 億 14 万 6300 組

読まれていない（統一教会広報局編、一九九三）。

三六万組や四〇〇〇万組の合同結婚式を挙行と大々的に宣伝した一九九五年から一九九七年にかけては、真の家庭運動を名のる団体が趣旨賛同書への署名と、聖酒（コーヒーメイトのようなものに赤い液体を入れたものを手渡す）を飲ませることをやり、それを祝福数へカウントするという行為が行われていたらしい。

一九九〇年代から日本人女性信者は韓国人男性と結婚することが勧められた。その実態は、韓国農村部の結婚難に喘ぐ青年達に結婚斡旋を条件に教会員にさせるという一つの宣教戦略であった。日本人女性信者は、教祖の国を故郷とする決意をして続々渡韓したのである（国際家庭特別巡回師室、一九九六）。その数は、六千人から七千人に達している（中西、二〇〇四）。

二〇〇〇年前後からはアメリカにおける国際結婚式の宣教が活発化し、国連本部会議室の使用や、ミリンゴ司教を巻き込んだ聖職者の合同結婚式等が典型的である。この時期には統一教会信者の子供達も二世祝福ということで合同結婚式に参加するようになる（世界基督教統一神霊協会二世局編、二〇〇四）。

ところで、祝福を受けるには祝福献金一四〇万円を教団に納める必要がある。これは日本人信徒の標準額であり、韓国人信徒や他国の信徒には別の献金額が定められている。一九九〇年代に入って、統一教会は合同結婚式を相次いで挙行し、

真の家庭運動賛同書

真の家庭運動とは、家庭は社会や国家の基礎であるという考えを基本としています。そして、幸せな夫婦となり、子供達を道徳的にしっかり教育できる真の父母になるという決意を持った人々や家庭によって構成されています。私達の主な目的は、夫婦愛の絶対性を通して家庭秩序を立てる運動であり、真の愛を実践して理想の社会を築いてゆく運動です。そして次に述べる誓いを守ります。

1　家庭を愛の学校とし、子供に愛の伝統を伝えます。
2　家庭秩序を立てます。離婚を致しません。不倫を致しません。
3　絶対純潔を守ることによる、正しい性道徳を確立します。
4　理想家庭による健康な社会を作る為、よりよい社会環境づくりに努力します。

世界平和家庭連合　FFWP
紹介者 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

真の家庭運動賛同書

お名前　夫＿＿＿＿＿＿＿＿　生年月日＿＿＿＿＿＿＿＿　＿＿歳
　　妻＿＿＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿＿＿　＿＿歳
住　所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
電話番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

１９９＿年＿＿月＿＿日

（出典：http://www.asahi-net.or.jp/~am6k-kzhr/news19-1.htm「カルト被害を考える会」）

九〇年代後半には既成祝福（既に結婚している方が祝福を受ける。夫婦揃っていても片方だけでも可能）も含めて、信徒の祝福参加条件が緩和された。伝道や万物復帰の七年二ヶ月にわたる公式路程が短縮される恵みを信徒に与えられたのだと言われる。大勢の若い信徒達が合同結婚式に参加し、彼等は一四〇万円を献金として統一教会に納める。これが統一教会の組織維持に貢献しないわけはない。統一教会は祝福の組織構造における機能を露骨に追求し始めたように思われる。

以上、祝福という統一教会信徒にとって最終的な儀礼を叙述し終えたことをもって、日本の統一教会信徒の信仰生活のプロセスに関わる考察を終えることにしたい。

参考文献

Eileen Barker, 1984, *The Making of a Moonie, Choice or Brainwashing?* Gregg Revivals.

Galanter, Mark et al., 1979, The "Moonies": A Psychological Study of Conversion and Membership in a Contemporary Religious Sect, 136AM. J. PSYCHIATRY pp. 165-170.

秋庭裕・川端亮著、二〇〇四、『霊能のリアリティへ――社会学、真如苑に入る――』新曜社。

浅見定雄、一九八七、『統一協会＝原理運動――その見極めかたと対策』日本基督教団出版局。

有田芳生、一九九二、『統一教会とは何か――追いこまれた原理運動』教育史料出版会。

川崎経子、一九九〇、『統一協会の素顔――その洗脳の実態と対策』教文館。

桑野燿、一九九四、『桑野式新内角法姓名判断』日東書院。

国際家庭特別巡回師室、一九九六、『本郷人の行く道』国際家庭特別巡回師室刊行（韓国）。

郷路征記、一九九三、『統一協会マインド・コントロールのすべて――人はどのようにして文鮮明の奴隷になるのか』教育史料出版会。

郷路、二〇〇五、全国統一協会被害者家族の会、二〇〇五、『自立への苦闘　統一協会を脱会して』教文館。
光言社出版企画部編、一九九三、『誰も書かなかった国際合同結婚式』光言社。
櫻井義秀、二〇〇四、「世俗化の限界、政教分離への異論：カルト問題における公共性の課題」島薗進編著『講座宗教九　挑戦する宗教』岩波書店、七五―一〇三頁。
櫻井義秀、二〇〇五、「『カルト』問題における調査研究の諸問題――フレーミングとナラティブをめぐって――」『年報　社会科学基礎論研究』第四号、五七―七五頁。
櫻井義秀、二〇〇六、『「カルト」を問い直す』中央公論新社。
櫻井義秀、二〇〇八、「若者とカルト――書き換えられる記憶のゆくえ――」『現代のエスプリ』一五〇―一五九頁。
氏族メシヤ勝利マニュアル編纂委員会、一九九六、『氏族メシヤ勝利　書き込み式　マニュアル　part 1』光言社。
スティーブン・ハッサン、一九九三、浅見定雄訳『マインド・コントロールの恐怖』。
青春を返せ裁判（東京）原告団・弁護団編、二〇〇〇、『青春を奪った統一協会』緑風出版。
世界基督教統一神霊協会、一九六七、『原理講論』光言社。
世界基督教統一神霊協会、一九九八、『聖本』光言社。
世界基督教統一神霊協会、二〇〇三、『天聖経』光言社。
世界基督教統一神霊協会二世局編、二〇〇四、『二世祝福の手引き　父母が二世祝福に責任をもつ時代』心情文化研究所・光言社。
全国霊感商法対策弁護士連絡会・日本基督教団統一原理問題連絡会・全国原理運動被害者父母の会編、一九九七、『統一協会合同結婚式の手口と実態』緑風出版。
全国統一協会被害者家族の会、二〇〇五、『自立への苦闘　統一協会を脱会して』教文館。
統一教会広報局編、一九九三、『統一教会の国際合同結婚式』光言社。
清平修練院大母様み言編集部、二〇〇〇、『成約時代の清平役事と祝福家庭の道』成和出版社（韓国）。
天宙清平修練院、二〇〇〇、『成約時代の清平役事と祝福家庭の道』成和出版社。
天宙清平修練院、二〇〇二、『真の愛の奇跡』成和出版社。

中西尋子、二〇〇四、「『地上天国』建設のための結婚――ある新宗教教団における集団結婚式参加者への聞き取り調査から――」「宗教と社会」学会『宗教と社会』第一〇号。
芳賀学・菊池裕生、二〇〇六、『仏のまなざし、読みかえられる自己――回心のミクロ社会学――』ハーベスト社。
広瀬昭、一九八六、『反対牧師の素顔――統一教会に対する宗教迫害の実態』光言社。
松本雄司、二〇〇一、『氏族伝道論』光言社。
霊感商法被害救済担当弁護士連絡会、一九八九、『証言記録Ⅰ告発統一協会・霊感商法』晩稲社。
霊感商法被害救済担当弁護士連絡会、一九九一、『証言記録Ⅱ告発統一協会・霊感商法』晩稲社。

資料

表 5　調査対象者の概況

番号	裁判所	性別	生年月日	青年/壮婦	家族背景	学歴(職歴)等	職歴	伝道開始年	入信年	入信時年齢	脱会年	祝福	物品購入金額
1	札幌地裁	女	1967 年	青年	父、母、姉	看護学校	看護師	1985 年 3 月	1985 年 6 月	19	1989 年 4 月	なし	721,000
2	札幌地裁	女	1970 年	青年	父、母	短大	臨時職員	1988 年 6 月	1988 年 9 月	19	1992 年 1 月	なし	757,500
3	札幌地裁	女	不詳	壮婦	夫、娘	不詳	不詳	1989 年 5 月	1989 年 8 月	不詳	1990 年 3 月	なし	1,424,012
4	札幌地裁	女	1966 年	青年	父、母、兄	看護学校	看護師	1988 年 8 月	1988 年 9 月	22	1989 年 2 月	なし	942,800
5	札幌地裁	女	不詳	青年	父、母、弟	不詳	会社員	1989 年 7 月	1989 年 10 月	不詳	1990 年 9 月	なし	4,163,000
6	札幌地裁	女	1969 年	青年	父、母	短大	会社員	1990 年 11 月	1991 年 2 月	21	1991 年 12 月	なし	6,101,000
7	札幌地裁	女	1960 年	青年	父、母	不詳	会社員	1987 年 6 月	1987 年 9 月	27	1990 年 9 月	なし	3,276,263
8	札幌地裁	女	1963 年	青年	父、母、弟、妹、入信前に既に死亡した兄弟 1 人	高校	会社員	1987 年 9 月	1987 年 12 月	23	1989 年 1 月	なし	1,858,000
9	札幌地裁	女	1970 年	青年	父、母	看護学校	看護師	1987 年 3 月	1988 年 10 月	19	1989 年 7 月	なし	不詳
10	札幌地裁	女	1970 年	青年	父、母	短大	会社員	1988 年 8 月	1988 年 11 月	19	1992 年 4 月	なし	671,500
11	札幌地裁	女	1970 年	青年	父、母、兄、姉	専門学校	会社員	1988 年 5 月	1988 年 8 月	18	1991 年 2 月	なし	1,346,000
12	札幌地裁	女	1969 年	青年	父、母、祖母、姉	短大	会社員	1991 年 7 月	1991 年 10 月	22	1992 年 4 月	なし	597,000
13	札幌地裁	女	1969 年	青年	父、母、姉、祖母	大学	在学中	1990 年 10 月	1991 年 1 月	20	1992 年 2 月	なし	230,000
14	札幌地裁	女	不詳	青年	父、母、弟	不詳	会社員	1990 年 10 月	1991 年 1 月	不詳	1997 年 12 月	あり	2,110,000
15	札幌地裁	女	不詳	青年	父、母、妹	短大	会社員	1988 年 7 月	1988 年 10 月	不詳	1991 年 5 月	なし	2,500,000
16	東京地裁	女	1963 年	青年	父、母、兄	大学	在学中	1984 年 11 月	1985 年 2 月	21	1996 年 2 月	あり	不詳
17	東京地裁	女	1961 年	青年	父、母、姉、姉	専門学校	臨時職員	1991 年 6 月	1991 年 9 月	29	1997 年 6 月	あり	1,170,000
18	東京地裁	男	1964 年	青年	父、母、妹	大学	塾講師	1987 年 4 月	1987 年 5 月	23	1996 年 6 月	あり	473,000
19	新潟地裁	女	1960 年	青年	父、母	専門学校	会社員	1979 年 5 月	1979 年 8 月	20	1991 年 5 月	あり	不詳
20	新潟地裁	男	1968 年	青年	母	高校	会社員	1987 年 4 月	1988 年 8 月	20	1990 年 10 月	なし	620,000
21	新潟地裁	女	1963 年	青年	父、母	大学	中退	1982 年 4 月	1982 年 6 月	19	1991 年 10 月	なし	不詳

22	新潟地裁	男	1966年	青年	父、母	大学	在学中	1988年7月	1988年10月	22	1992年2月	なし	不詳
23	新潟地裁	女	1968年	青年	父、母	高校	公務員	1986年11月	1986年2月	19	1991年11月	なし	30,000
24	新潟地裁	男	1961年	青年	父、母	専門学校	会社員	1980年4月	1980年5月	19	1988年10月	なし	不詳
25	新潟地裁	女	1961年	青年	父、母	不詳	会社員	1981年12月	1982年1月	21	1989年2月	あり	不詳
26	新潟地裁	男	不詳	青年	父、母、妹、弟死	不詳	会社員	1983年11月	1984年1月	不詳	1989年7月	あり	740,000
27	新潟地裁	女	1963年	青年	父、母、姉死	高校	会社員	1980年4月	1980年11月	17	1989年1月	なし	720,000
28	新潟地裁	男	1965年	青年	父、母	大学	在学中	1984年4月	1984年7月	19	1993年2月	あり	不詳
29	新潟地裁	女	1960年	青年	父、母	高校	会社員	1984年1月	1984年4月	24	1989年12月	あり	168,000
30	新潟地裁	男	1959年	青年	父、母、妹	短大	放射線技師	1983年10月	1984年1月	24	1988年6月	なし	210,000
31	新潟地裁	女	1965年	青年	父、母	専門学校	在学中	1985年7月	1985年10月	20	1988年12月	あり	595,000
32	新潟地裁	女	1962年	青年	父、母	高校	会社員	1984年3月	1984年7月	22	1987年10月	あり	1,743,000
33	新潟地裁	女	1962年	青年	母、姉	専門学校	会社員	1982年10月	1982年11月	20	1989年1月	あり	770,000
34	新潟地裁	女	1959年	青年	父、母、兄、兄、姉	高校	会社員	1983年11月	1983年11月	23	1989年2月	なし	210,000
35	新潟地裁	女	1965年	青年	父、母	専門学校	会社員	1986年4月	1986年6月	21	1991年2月	あり	8,000,000
36	新潟地裁	女	1958年	青年	父、母、兄	看護学校	看護師	1985年9月	1985年11月	27	1992年10月	あり	10,220,000
37	新潟地裁	女	1967年	青年	父、母、姉、姉	高校	会社員	1990年4月	1990年7月	22	1992年12月	あり	645,000
38	奈良地裁	女	1935年	壮婦	長男、長女、夫死	不詳	パート	1992年5月	1992年7月	57	1993年1月	なし　壮婦	2,150,000
39	奈良地裁	女	1962年	壮婦	夫	高校	主婦	1993年6月	1993年7月	31	1993年8月	なし　壮婦	5,300,000
40	東京地裁	女	1958年	壮婦	夫、長男、長女	不詳	主婦	1991年10月	1992年2月	33	不詳	なし　壮婦	23,100,000
41	福岡地裁	女	不詳	壮婦	長女、夫死	不詳	主婦	1988年2月	1988年4月	不詳	1989年1月	なし　壮婦	42,420,000
42	福岡地裁	女	不詳	壮婦	夫(内縁)死	不詳	会社員	1988年11月	1989年1月	不詳	1989年10月	なし　壮婦	2,220,000
43	横浜地裁	女	1966年	青年	父、母、弟、叔父	大学	会社員	1987年12月	1988年8月	22	1990年4月	なし	95,000
44	横浜地裁	男	1953年	青年	父、母死、姉、弟	不詳	会社員	1989年10月	1990年1月	36	1991年5月	なし	不詳
45	東京地裁	女	1959年	青年	父死、母、姉、兄、兄	高校	会社員	1991年3月	1991年4月	31	1993年2月	なし	11,714,000

46	東京地裁	女	不詳	青年	不詳	看護学校	看護師	1991年12月	1992年3月	不詳	1995年2月	なし	8,150,000
47	東京地裁	女	1971年	青年	父、母		会社勤務	1995年2月	1995年5月	24	1997年11月	なし	6,600,000
48	東京地裁	男	1961年	青年	母	大学	在学中	1990年11月	1991年4月	20	1993年2月	なし	不詳
49	東京地裁	女	1969年	青年	父、母、弟	大学	小学校教員	1990年5月	1990年8月	21	1995年8月	なし	4,550,000
50	東京地裁	女	不詳	青年	父、母、兄	専門学校	会社員	1991年1月	1991年4月	不詳	1991年11月	なし	不詳
51	東京地裁	女	1968年	青年	父、母	短大	会社員	1988年4月	1988年7月	19	1990年7月	なし	不詳
52	東京地裁	男	1963年	青年	父、母、妹	不詳	会社員	1991年5月	1991年10月	28	1992年12月	あり	2,474,000
53	東京地裁	男	1971年	青年	父、母	大学	会社員	1994年8月	1994年12月	23	1995年9月	なし	不詳
54	聞き取り	女	1967年	青年	父、母、姉	短大	会社員	1986年12月	1987年3月	20	1995年1月	なし	不詳
55	聞き取り	女	1963年	青年	父、母、兄、妹(障害者)	高校	会社員	1987年7月	1987年10月	24	1993年9月	なし	不詳
56	聞き取り	女	1968年	青年	父、母	高校	会社員	1997年1月	1997年4月	29	1999年6月	なし	1,570,000
57	陳述書、聞き取り	女	1960年	壮婦	夫、長女、次女、義母	高校	主婦	1989年2月	1989年5月	29	2000年9月	あり　壮婦	10,290,000
58	聞き取り	男	1971年	青年	父、母、姉、妹	大学	在学中	1990年5月	1990年8月	19	1996年5月	あり	不詳
59	聞き取り	女	1970年	青年	父、母	短大	会社員	1990年8月	1990年9月	21	1999年6月	あり	不詳
60	聞き取り	女	1968年	青年	母、姉	大学	在学中	1997年5月	1997年8月	29	2000年5月	あり	10,000,000
61	聞き取り	女	1967年	青年	父、母	高校	会社員	1987年9月	1987年12月	20	1992年11月	あり	不詳
62	聞き取り	男	1962年	青年	父、母	高校	会社員	1988年8月	1989年4月	26	1993年4月	あり	4,600,000
63	聞き取り	男	1975年	青年	父、母、兄	大学	在学中	1995年1月	1995年5月	19	1997年4月	なし	不詳
64	聞き取り	女	1970年	青年	父、母、姉	短大	会社員	1991年8月	1991年11月	21	2000年12月	あり	不詳
65	聞き取り	女	不詳	青年	父、母	高校	会社員	不詳	不詳	18	不詳	あり	不詳
66	聞き取り	女	1970年	青年	父、母	短大	会社員	1989年10月	1990年4月	20	1997年（27歳）	あり	5,000,000